

野新田遺跡 発掘調査報告書

財団法人

山形県埋蔵文化財センター



6-1997-21-01

1997

21

6

1 9 9 6

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

の しん でん
野 新 田 遺 跡
発 掘 調 査 報 告 書

平成 8 年 9 月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



1997 - 021



調査区空中写真（南から）



A区完掘状況 (南から)



EL72完掘状況 (北西から)



B区完掘状況 (東から)



RP30・31出土状況 (南から)

序

本書は財団法人山形県埋蔵文化財センターが平成6年度に発掘調査を実施した、野新田遺跡の調査成果をまとめたものです。

遺跡は、庄内平野の南東部に位置する朝日村にあります。朝日村は、北に雄大な庄内平野が広がり、南には霊峰月山をはじめとする山々が連なる豊かな自然に恵まれた所です。また、旧石器時代の越中山遺跡など貴重な遺跡が所在することでも知られています。

この度、東北横断自動車道（朝日～酒田間）建設工事に伴い、工事に先だって野新田遺跡の発掘調査を実施しました。

野新田遺跡では、縄文時代中期の土器、石器が多量に出土し、多くの住居跡も発見することができました。庄内地方において、これまであまり調査例がなかった時代の資料を得ることができたことは、山形県の歴史を理解する上で、大きな手掛かりになると期待されます。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産と言えます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成8年9月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は東北横断自動車道酒田線建設工事（朝日～酒田間）に係る「野新田遺跡」の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成6年度に日本道路公団仙台建設局（現東北支社）の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

調査主体 財団法人山形県埋蔵文化財センター
遺 跡 名 野新田遺跡（AAHNS） 遺跡番号1889
所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字中野新田字村表
調査期間 発掘調査 平成6年4月1日～平成7年3月31日
現地調査 平成6年5月10日～平成6年11月8日
資料整理 平成7年4月1日～平成8年5月31日

発掘調査担当者
調査研究課長 佐々木洋治（現研究課長）
主任調査研究員 野尻 侃（現調査第二課長）
調査研究員 伊藤 邦弘
調査研究員 齋藤 健

資料整理担当者
調査第二課長 佐藤 庄一（現調査第一課長）
調査研究員 伊藤 邦弘
嘱託職員 黒坂 広美
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、日本道路公団仙台建設局（現東北支社）鶴岡工事事務所、朝日村教育委員会、山形県教育庁文化財課、庄内教育事務所の協力を得た。
- 5 本書の作成・執筆は伊藤邦弘、黒坂広美が担当した。編集は尾形典興、水戸弘美が担当し、全体については佐藤庄一が監修した。
- 6 委託業務は下記のとおり実施した。

遺構の写真実測 アジア航測株式会社
理化学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…堅穴住居跡 SK…土塼 SG…河川跡
SM…集石遺構 EU…埋設遺構 EL…炉跡
RP…登録土器 RQ…登録石製品 P…土器
S…竈
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
 - (1) 調査区概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸はN-32°-Eである。
 - (3) 遺構実測図は1/20・1/40・1/50・1/200・1/500で採録し、各種図毎にスケールを付した。
 - (4) 遺構実測図中の網点は、焼土を示す。
 - (5) 土器・土製品の拓影・実測図は、1/2・1/3とし、各々にスケールを付した。
 - (6) 石器・石製品の実測図は、1/2・1/3・1/4とし、各々にスケールを付した。
 - (7) 遺物番号は、遺物実測図・計測表・属性表・図版とも共通のものとした。
 - (8) 土器計測表中の（ ）内の数値は、図上復元による推定値、または残存値を示している。
 - (9) 遺物図版の縮尺は、土器は任意で、石器が1/1・1/2・1/3・1/6で掲載した。
 - (10) 基本層序・遺構覆土の色調の記載については、1987年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に拠った。

目次

第I章 調査に至る経過	1
第II章 遺跡の立地と環境	
地理的環境	2
歴史的環境	2
第III章 調査の経緯	4
第IV章 遺跡の概観	5
第V章 遺構	8
1 竪穴住居跡	8
2 炉跡	40
3 集石遺構	44
4 土器埋設遺構	44
5 土壌	47
6 SG137河川跡	47
第VI章 遺物	
1 縄文土器	52
2 土偶	54
3 円盤状土製品	54
4 その他の土製品	54
5 石器	99
第VII章 調査のまとめ	163
附編 【野新田遺跡自然科学分析】	165
報告書抄録	170

挿図

第1図 東北横断自動車道酒田線路線図	1
第2図 遺跡位置図	3
第3図 土層柱状図	5
第4図 昭和46年の地籍図	6
第5図 調査区概要図	7
第6図 遺構配置図	9
第7図 ST 1・2	11
第8図 ST 3・4	12
第9図 ST 8	13
第10図 ST 9	14
第11図 ST10	15
第12図 ST11・12	16
第13図 ST13・14・15	17
第14図 ST13・14・15土層断面図	18
第15図 ST18・19	19
第16図 ST20・21	20
第17図 ST61・62・63	21
第18図 ST81	22
第19図 ST82	23
第20図 ST83~87	25
第21図 ST88~91	27
第22図 ST89~91土層断面図	28
第23図 ST93	31
第24図 ST94	32
第25図 ST95	33
第26図 ST96	34
第27図 ST97・99	36
第28図 ST100	37
第29図 ST101	38
第30図 ST103	39
第31図 ST103~109	41
第32図 EL72	43
第33図 SM39~43	45
第34図 EU25・26	46

第35図	土塚(1)	48
第36図	土塚(2)	49
第37図	土塚(3)	50
第38図	SG137	51
第39図	ST 1 出土土器	55
第40図	ST 1・ST 2 出土土器	56
第41図	ST 2 出土土器	57
第42図	ST 2・ST 3 出土土器	58
第43図	ST 3 出土土器	59
第44図	ST 4 出土土器	60
第45図	ST 5 出土土器	61
第46図	ST 8 出土土器(1)	62
第47図	ST 8 出土土器(2)	63
第48図	ST 8 出土土器(3)	64
第49図	ST 8 出土土器(4)	65
第50図	ST 8 出土土器(5)	66
第51図	ST11出土土器(1)	67
第52図	ST11出土土器(2)	68
第53図	ST11出土土器(3)	69
第54図	ST 9・ST10・ST12出土土器	70
第55図	ST12・ST13・ST14出土土器(1)	71
第56図	ST14出土土器(2)	72
第57図	ST14出土土器(3)	73
第58図	EU25・26出土土器	74
第59図	ST15出土土器(1)	75
第60図	ST15出土土器(2)	76
第61図	ST15出土土器(3)	77
第62図	ST15(4)・ST18・ST20・ST21出土土器	78
第63図	ST24・ST60・ST61・ST63出土土器	79
第64図	ST70出土土器(1)	80
第65図	ST70出土土器(2)	81
第66図	ST70出土土器(3)	82
第67図	ST70出土土器(4)	83
第68図	ST70出土土器(5)	84
第69図	ST70(6)・ST78出土土器(1)	85
第70図	ST78出土土器(2)	86

第71図	ST78出土土器(3)	87
第72図	ST78出土土器(4)	88
第73図	ST78出土土器(5)	89
第74図	ST78出土土器(6)	90
第75図	ST78出土土器(7)	91
第76図	ST80・ST87・SG137・トレンチ出土土器	92
第77図	包含層出土土器(1)	93
第78図	包含層出土土器(2)	94
第79図	包含層出土土器(3)	95
第80図	包含層出土土器(4)・土製品	96
第81図	円盤状土製品	97
第82図	土偶・土製品・石製品	98
第83図	石器実測図(1) 石鏃	105
第84図	石器実測図(2) 尖頭器・石鏃(1)	106
第85図	石器実測図(3) 石鏃(2)・石匙(1)	107
第86図	石器実測図(4) 石匙(2)	108
第87図	石器実測図(5) 石匙(3)	109
第88図	石器実測図(6) 石匙(4)	110
第89図	石器実測図(7) 石匙(5)	111
第90図	石器実測図(8) 石筥(1)	112
第91図	石器実測図(9) 石筥(2)	113
第92図	石器実測図 ⁰⁰ 石筥(3)	114
第93図	石器実測図 ⁰¹ 石筥(4)	115
第94図	石器実測図 ⁰² 搔器(1)	116
第95図	石器実測図 ⁰³ 搔器(2)・削器(1)	117
第96図	石器実測図 ⁰⁴ 削器(2)	118
第97図	石器実測図 ⁰⁵ 削器(3)	119
第98図	石器実測図 ⁰⁶ 削器(4)	120
第99図	石器実測図 ⁰⁷ 削器(5)・異形石器・ピエス・エフスキーユ	121
第100図	石器実測図 ⁰⁸ 石核・加工痕のある剥片	122
第101図	磨製石斧(1)	123
第102図	磨製石斧(2)	124
第103図	磨製石斧(3)	125
第104図	磨石(1)	126
第105図	磨石(2)	127
第106図	磨石(3)	128

第107圖	磨石(4)	129
第108圖	磨石(5)	130
第109圖	磨石(6)	131
第110圖	磨石(7)	132
第111圖	磨石(8)	133
第112圖	凹石(1)	134
第113圖	凹石(2)	135
第114圖	凹石(3)	136
第115圖	凹石(4)	137
第116圖	凹石(5)·石皿(1)	138
第117圖	石皿(2)	139
第118圖	石皿(3)	140
第119圖	石棒	141
第120圖	石錐模式圖	147
第121圖	尖頭器模式圖	149
第122圖	石錐模式圖	149
第123圖	石匙模式圖	151
第124圖	石寬模式圖	153

表

表-1	遺跡地名表	2
表-2	發掘調査工程表	4
表-3	土器計測表(1)	142
表-4	土器計測表(2)	143
表-5	土器計測表(3)	144
表-6	土器計測表(4)	145
表-7	土器計測表(5)	146
表-8	石鏃屬性表(1)	147
表-9	石鏃屬性表(2)	148
表-10	石鏃屬性表(3)	149
表-11	尖頭器屬性表	149
表-12	石錐屬性表	150
表-13	石匙屬性表(1)	151
表-14	石匙屬性表(2)	152
表-15	石匙屬性表(3)	153

表-16	石鏃屬性表(1)	153
表-17	石鏃屬性表(2)	154
表-18	石鏃屬性表(3)	155
表-19	石鏃屬性表(4)	156
表-20	搔器屬性表	156
表-21	削器屬性表(1)	157
表-22	削器屬性表(2)	158
表-23	削器屬性表(3)	159
表-24	磨製石斧屬性表	160
表-25	磨石計測表(1)	161
表-26	磨石計測表(2)	162
表-27	凹石計測表(1)	162
表-28	凹石計測表(2)	162
表-29	石皿計測表	162

図 版

巻頭図版 1 調査区空中写真（南から）

巻頭図版 2 A区完掘状況（南から）

B区完掘状況（東から）

巻頭図版 3 EL72完掘状況（北西から）

RP30出土状況（南から）

図版 1 遺跡遠景・調査前状況

図版 2 A区遺構検出状況

図版 3 A区完掘状況

図版 4 B区遺構検出状況

図版 5 B区完掘状況

図版 6 A区調査風景・B区調査風景

図版 7 ST 1完掘状況・ST 2完掘状況

図版 8 ST 9完掘状況・ST15完掘状況

図版 9 ST61～63完掘状況・ST81完掘状況

図版10 ST82完掘状況・ST83完掘状況

図版11 ST85完掘状況・ST85～87完掘状況

図版12 ST88～91完掘状況・ST93完掘状況

図版13 ST94完掘状況・ST95完掘状況

図版14 ST96完掘状況・ST100完掘状況

図版15 ST101完掘状況・ST103完掘状況

図版16 ST105完掘状況・ST107完掘状況

図版17 ST81～87空中写真・ST94～97・99・100空中写真

図版18 SK29土層断面・SK30完掘状況・SK31完掘状況

SK117完掘状況・SK130土層断面・SK130完掘状況

SK131土層断面・SK131完掘状況

図版19 SK119完掘状況・SK129土層断面

SK132土層断面・SK132完掘状況

SK133・134検出状況・SK133・134土層断面

SK133・134・RP108出土状況・SK133・134完掘状況

図版20 SM39 検出状況・土層断面・完掘状況

SM40 検出状況・土層断面・完掘状況

図版21 SM41 検出状況・土層断面・完掘状況

SM42 検出状況・土層断面・完掘状況

図版22 SM43 検出状況・土層断面・完掘状況

SM71 完掘状況・空中写真

図版23 EL46・EL47・EL72完掘状況・調査説明会風景

図版24 調査区空中写真

図版25 調査区空中写真（合成）

図版26 RP19出土状況・RP24～26出土状況・RP30出土状況

図版27 RP31出土状況・RP49出土状況・RP58出土状況

図版28 RP66出土状況・RP70出土状況・RP93出土状況

図版29 RP94出土状況・RQ63・64出土状況・RQ91出土状況

図版30 EU25半載状況・EU26半載状況・RP92出土状況

図版31 縄文土器 1

図版32 縄文土器 2

図版33 縄文土器 3

図版34 縄文土器 4

図版35 縄文土器 5

図版36 縄文土器 6

図版37 縄文土器 7

図版38 縄文土器 8

図版39 縄文土器 9

図版40 縄文土器10

図版41 縄文土器11

図版42 縄文土器12

図版43 縄文土器13

図版44 縄文土器14

図版45 縄文土器15

図版46 縄文土器16

図版47 縄文土器17

図版48 縄文土器18

図版49 縄文土器19

図版50 縄文土器20

図版51 縄文土器21

図版52 縄文土器22

図版53 縄文土器23

図版54 縄文土器24・円盤状土製品

図版55 縄文土器25

図版56 縄文土器26・土偶・土製品・石製品

- 図版57 石鎌 1
- 図版58 石鎌 2・尖頭器
- 図版59 石鎌 1
- 図版60 石鎌 2・石匙 1
- 図版61 石匙 2
- 図版62 石匙 3・石筥 1
- 図版63 石筥 2
- 図版64 石筥 3・搔器 1
- 図版65 搔器 2・刮器 1
- 図版66 刮器 2
- 図版67 ビエス・エフスキーユ・異形石器・石核
- 図版68 磨製石斧
- 図版69 磨石・凹石
- 図版70 石皿・石棒

第1章 調査に至る経過

野新田遺跡の発見は、当地に奉られていた神社を移転し開田する際に、多量の土器片が出土した大正時代にさかのぼる。発見された土器片は、一カ所に集められて埋め戻された話が伝えられていたという。その後昭和45年になると、当地区に東岩本地区ほ場整備事業が計画されている事を知った朝日村教育委員会で、緊急発掘調査を計画、実施する運びとなった。

調査は、昭和46、47年の2次にわたって、朝日村教育委員会の依頼を受け、当時山形県立山添高等学校教諭佐々木七郎氏をはじめ、山添高等学校と鶴岡北高等学校の生徒達によって行われた。複式炉を始めとする遺構や数多くの遺物が発見され、縄文時代中期の集落跡との報告がなされた(佐々木七郎1973)。野新田遺跡はこの調査を最後に、遺跡名である小字名「野新田」とともにこの時姿を消し、壊滅したと考えられた。

昭和63年度に山形県教育委員会は、東北横断自動車道酒田線路線内に所在する埋蔵文化財の把握と保護を図るため計画路線周辺の表面踏査を行った。この遺跡詳細分布調査により野新田遺跡は、昭和46年に考えられていた遺跡範囲よりはるかに広い、東西350m、南北300mに及ぶものと推定され、修正されるに至った。その後平成3年度に遺跡の内容をさらに詳しく調べるため、同教育委員会によって試掘調査が行われた。調査では計画路線内に75箇所の試掘坑を設定し掘り下げた。その結果、良好な遺物包含層や遺構が見つかるなど、壊滅が嘆かれた野新田遺跡は、切り土が行われた一部分を除いて保存されていることが明らかになった。

山形県教育委員会では、この試掘調査の結果をもとに、路線計画の変更がなければ文化財保護法による書類手続後、記録保存のための緊急発掘調査が必要であることを平成4年6月9日付けで日本道路公団鶴岡工事事務所に報告した。

平成5年、建設工事が具体化したことに伴って関係機関で調整と協議が行われ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受け発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査に至る経過は以下の通りである。

- 平成6年2月1日付けで文化課長よりセンター理事長あてに費用積算調査作成依頼
- 平成6年2月16日付けでセンター理事長より文化課長あてに費用積算調査提出
- 平成6年4月1日付けで日本道路公団仙台建設局長よりセンター理事長あてに委託契約の締結依頼

平成6年4月1日付けで委託契約締結



第1図 東北横断自動車道酒田線路線図

第II章 遺跡の立地と環境

地理的環境

野新田遺跡は山形県東田郡朝日村大字中野新田字村表に所在する。朝日村は、山形県の西北部に広がる庄内平野の南東端に位置する。南は西川町、新潟県岩船郡、西は鶴岡市、北は柳町、北東は羽黒町に接する。

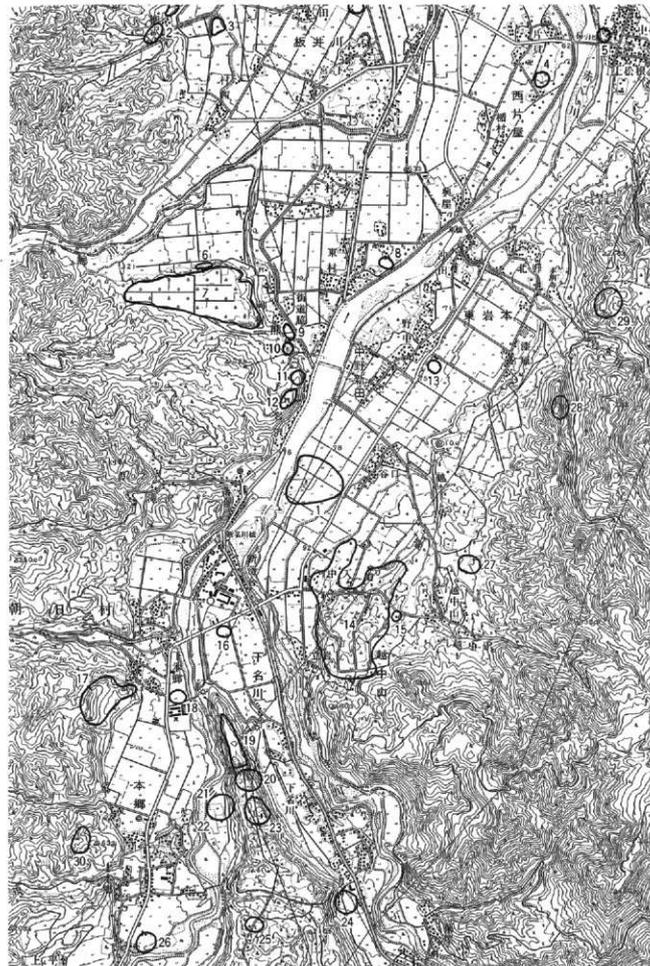
村域は、月山、湯殿山、朝日連峰の山麓に広がり、94パーセントが森林地帯である。山間部を抜けた流域に河岸段丘を形成しながら平野部に至り日本海に注ぐ赤川は、幻の魚タキタロウが生息すると言われる大島池を源にする大島川と、東部を北流する梵字川とが合流して庄内平野南半部を貫流する。本遺跡はこの赤川の右岸、河岸段丘の中段に位置する。河床との比高およそ6mを測り、標高はおよそ80mである。現況は、ほ場整備が完了していることから大面積の水田が広がるが、わずかに旧地形を読みとることができる。歴史的環境

野新田遺跡の周辺には、旧石器時代から室町時代までの遺跡が三十数カ所確認されている。段丘面には旧石器時代から縄文時代の遺跡が点在し、山麓部には鎌倉時代から室町時代の城跡が見られる。弥生時代から平安時代までの遺跡が極端に少ないのが特長と言える。そこからは、旧石器時代・縄文時代から恵まれた自然環境にあった当地区は、同時に鎌倉時代から室町時代には庄内と内陸を最短距離で結ぶ交通の要衝として確立されていたことをうかがわせる。

本遺跡の南約400mには、立岩段丘群上の標高100~130m前後に越中山遺跡群がある。昭和34年から30次にわたる発掘調査が行われ、旧石器時代を代表する遺跡として知られている。また赤川左岸にも標高100メートル前後を測る段丘上に旧石器時代の上野山A遺跡がある。大島川上流には縄文時代中期から晩期の集落跡である砂川A遺跡があり、昭和56年の発掘調査の結果から、特に後期・晩期の拠点集落と位置づけられている。一方庄内地方で本遺跡と同様に、東北横断自動車道建設工事関連で発掘調査が行われた遺跡には、平成5年度に発掘調査された栗山遺跡と仲台遺跡がある。両遺跡とも赤川左岸段丘上に位置し、栗山遺跡は縄文時代中期と弥生時代の集落跡、仲台遺跡は縄文時代後期末~晩期の集落跡であることが明らかになった。さらに柳町の柳沢A遺跡（縄文中期・鎌倉時代）、鶴岡市の畑田遺跡（古墳時代）、中野遺跡（古墳時代）が調査され、平成6年度には、後田遺跡（平安・鎌倉時代）、大道下遺跡（平安時代）、塔の腰遺跡（平安・鎌倉時代）に対して発掘調査が実施されている。

表-1 遺跡地名表

1 野新田	縄文	11 獅子岩城	鎌倉・室町	21 向平A	縄文
2 柳沢A	縄文・室町	12 中台館	鎌倉・室町	22 向平B	平安
3 柳沢B	縄文	13 東岩本	縄文	23 上野山B	縄文
4 松根城	室町	14 越中山	旧石器・縄文・弥生	24 上名川A	縄文
5 西岩本館	室町	15 中入	縄文	25 上野山C	縄文
6 栗山	縄文・弥生	16 下名川	縄文	26 欠の上	縄文
7 栗山北	縄文	17 下本郷館	鎌倉・室町	27 栗山	縄文
8 稻出館	鎌倉・室町	18 笹目	縄文	28 東岩本館	南北朝
9 岡村	縄文	19 名川城	鎌倉・室町	29 寛城	南北朝
10 仲台	縄文	20 上野山A	旧石器	30 上本郷館	室町



第2図 遺跡位置図（国土院発行2万5千分の1地形図「下名川」を使用）

第Ⅲ章 調査の経緯

調査範囲は、分布調査での試掘の結果を基に、先のは場整備の際に壊滅をまぬがれ、保存されていた箇所限定した。したがって遺跡範囲内に計画路線がかかっている場所でも、は場整備事業によって壊滅したと判断できるところについては調査範囲から除外し、調査対象面積を11,850㎡とした。調査区は、現農道を境に便宜上南側をA区、北側をB区と呼称した。グリッドは2m×2mを1単位とし、東西をx軸、南北をy軸とした。基準点は現況水田の畦畔上に設置し、y軸45を基準線とした。したがってグリッドの基準線は、磁北から東へ32度傾く。

調査の工程は、表2に示した順序で進めていった。平成6年5月10日から調査を開始し、道路建設工事の工程上、A区から調査を行った。同区は8月5日に調査終了し、現地を引き渡した。B区を含め、延べ118日間の調査は11月8日に終了した。

調査は、最初に遺跡までの層序の再確認を行うため、両区にトレンチを設定し掘り下げた。ついで重機を用いて表土を除去し、面削りを行った。A区は18cm前後の遺物包含層があり、遺物を取り上げながら掘り下げを進めた。遺物はグリッド毎に取り上げ、一括遺物に関しては遺物番号を付し、出土地点、レベルの記録を行った。遺構確認後、土層断面図、写真等の踏記録を行いながら遺構を掘り下げた。また空中写真による遺構の実測を行うための写真撮影をA区7月27日、B区10月26日に実施した。調査の終盤には、多くの方から調査の成果を見ていただくため、7月29日にA区、11月1日にB区の調査説明会を行っている。

整理作業は、平成6年度に基礎整理、7年度から8年度初めに報告書作成作業を行い、8年度に報告書として刊行した。

表-2 発掘調査工程表

月 作業内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
器材搬入	■						
トレンチ調査	■					■	
重機械掘削	■						
面整理		■		■			
遺構検出		■		■			
遺構精査		■		■		■	
実測図作成		■		■		■	
写真撮影	■			■		■	
写真実測				■			■
調査説明会							■
器材搬出							■

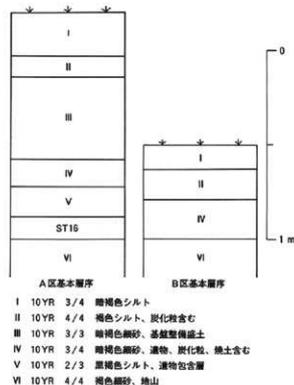
第Ⅳ章 遺跡の概観

基本層序(第3図)A区とB区では、約1mの標高差がある。これには先にも述べたように、は場整備事業がかかわっていたため、第3図で見られるように、昭和46年の地籍図からはA、B区とも同じ水田であったことがわかる。したがってA区基本層序に見られるⅢ層はは場整備時の盛り土であり、Ⅳ層以下が旧水田と判断される。Ⅴ層は遺物包含層で比較的安定している。しかしB区では遺物包含層は見られず、遺構確認面の一部も削平を受けている。中央部には大小の礫が露出し、微高地が削り取られたことがうかがえる。

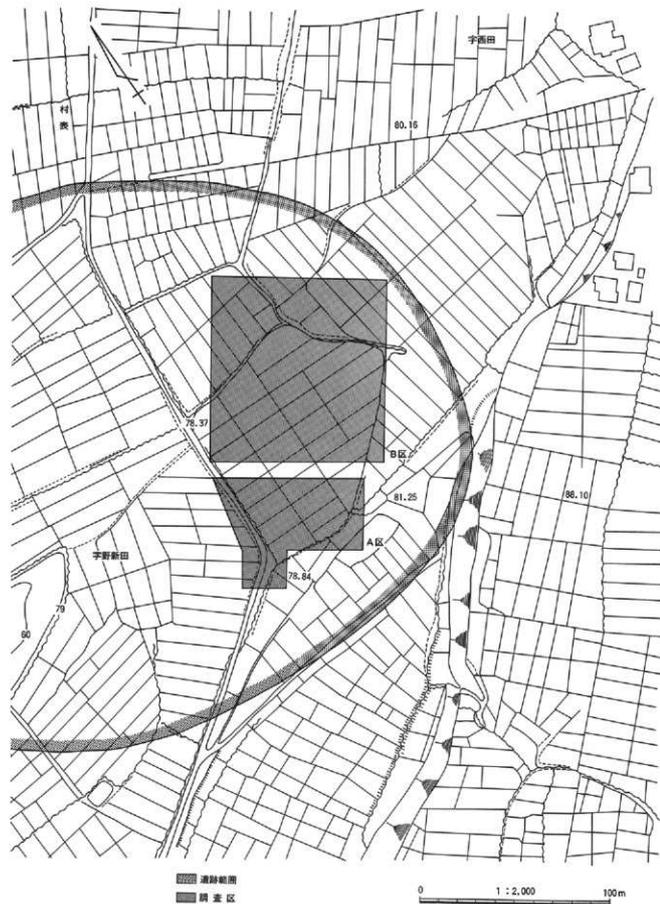
遺構の分布(第6図)A区では中央部に集中して検出された。

東側は旧水路が流れていた地区で、谷地状になっているため遺構は検出できない。また西側では旧水田面が一段低かったことと、は場整備の際の削平で遺構は極めて希薄である。検出された遺構は切り合った竪穴住居跡が大半を占め、土壌等の遺構は住居跡が希薄になった南側に若干見られるにすぎない。B区ではは場整備の削平が著しく、遺構は旧水田面が低かった北東部に見られる他、南東部、南西部に散見されるのみである。北東部の遺構は、竪穴住居跡を主体としたもので、A区の在り方と類似する。遺構の深さは大部分が浅く、削平を受けた中で深く掘り込まれたものが残ったと考えられる。昭和46、47年の調査で複式炉が検出された南西部からは、わずかに土壌、ビッド等を検出したにとどまる。

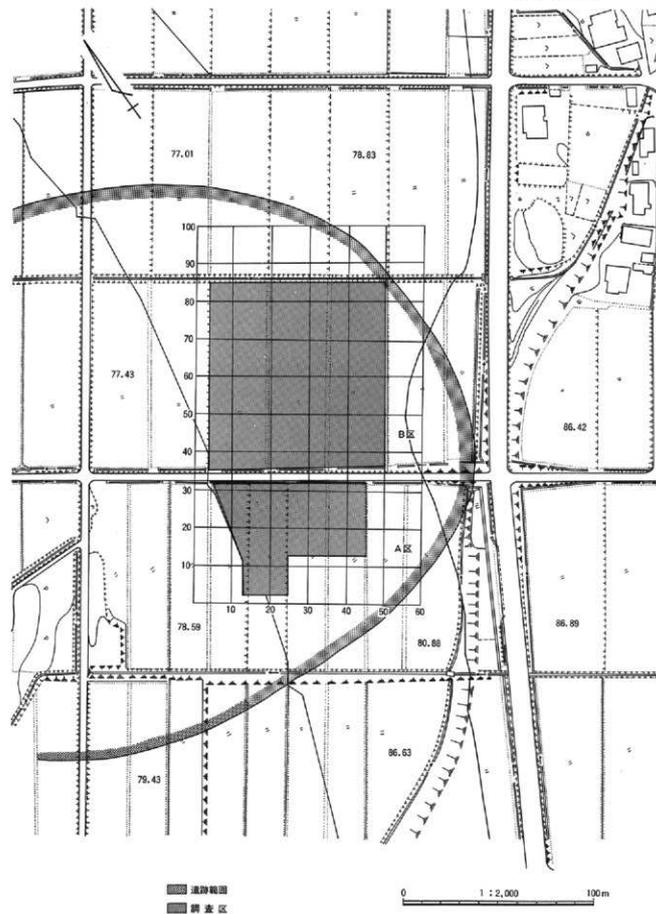
遺物の分布 本調査で出土した遺物の総数は、整理箱にして404箱である。その大半はA区からの出土である。良好な状態で遺物包含層が残っていたことと、竪穴住居跡内からの出土が多かったことに起因する。B区では遺物包含層が見られなかったことなどから、遺物の出土は極めて少ない。また竪穴住居跡内からも遺物の出土はほとんど見られなかった。B区が削平を受けたことにより、遺物の出土量が少ないことは十分に考えられることではあるが、遺構内からの出土状況を比較すると、そこには大きな差違が感じられる。遺構の性格をも加味した検討が必要と考えられる。



第3図 土層柱状図



第4図 昭和46年の地籍図



第5図 調査区概要図

第V章 遺構

1 竪穴住居跡

ST 1 竪穴住居跡 (第7図・図版7)

A区33~35-29~31Gで検出された。平面形は径約5mの円形を呈する。壁は緩く立ち上がり、上面から床面までの深さは約20cmを測る。柱穴は6個検出されているが、主柱穴とは考えられない。床面はほぼ平坦で砂地である。炉は認められない。出土遺物は床面直上出土の第39図2以外は覆土中のものである。

ST 2 竪穴住居跡 (第7図・図版7)

A区32~34-27~30Gで検出された。ST 1、ST 3、ST 7と切り合っており、その状況から新旧関係はST 3、ST 7→ST 2→ST 1と考えられる。平面形は径約5.5mの楕円形を呈する。壁は角度をもって立ち上がる。床面までは浅いところで20cm、最深部で80cmを測る。床面は比較的締まっているが凹凸が激しい。柱穴は5個検出されているが、中央部から北側にかけて掘り窪められているため主柱穴は不明瞭である。炉は認められない。

ST 3 竪穴住居跡 (第8図)

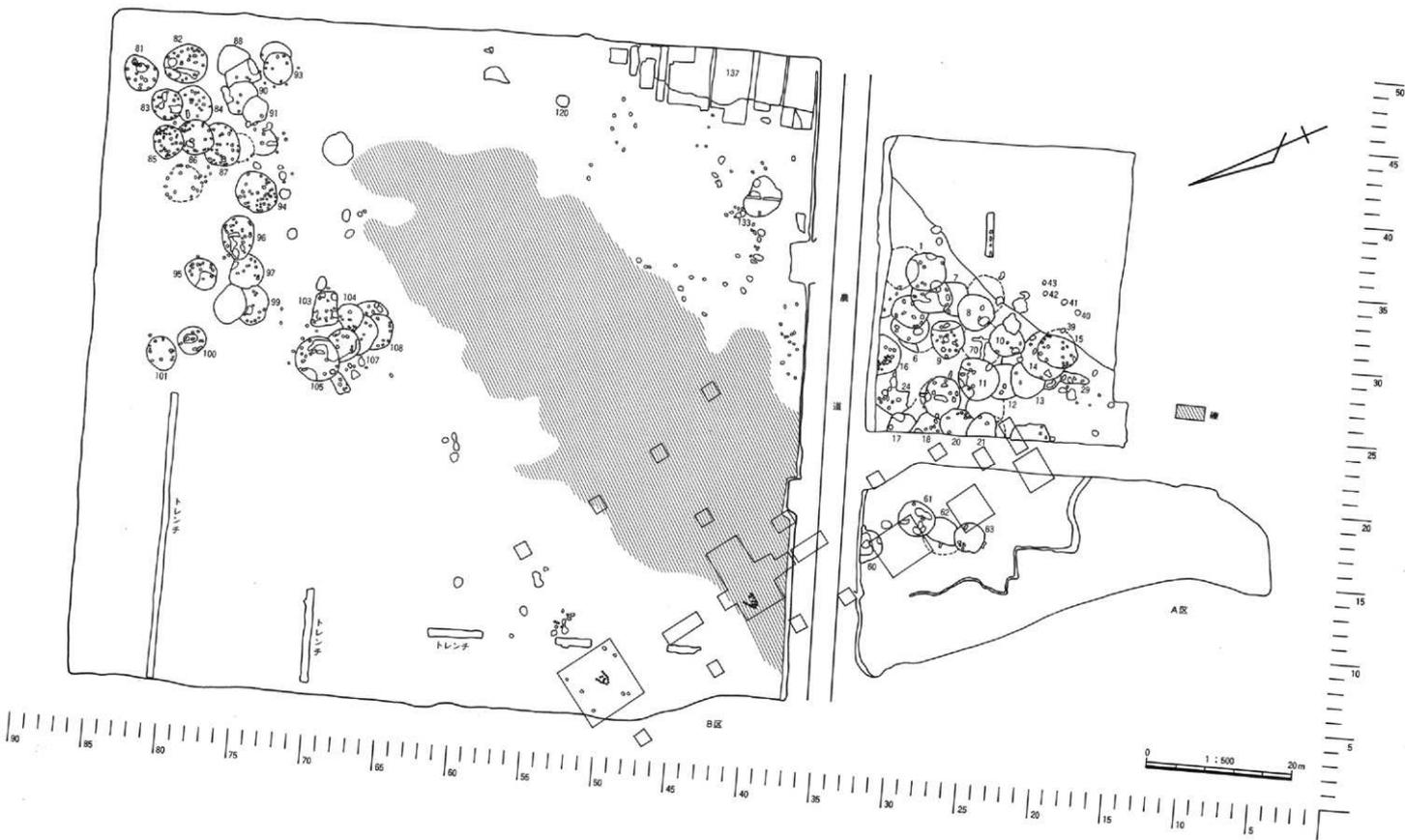
A区32~34-29~31Gで検出された。ST 4、ST 5との切り合いの状況から、ST 4、ST 5→ST 3と考えられる。平面形は長軸5.2mの楕円形を呈する。壁は緩く立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面までの深さは15cmと浅い。柱穴は5個まで検出したが、主柱穴は不明瞭である。床面北側には、ほぼ磁北にそうように長軸70cm、短軸40cmの焼土の広がり認められ、炉跡と考えられる。

ST 4 竪穴住居跡 (第8図)

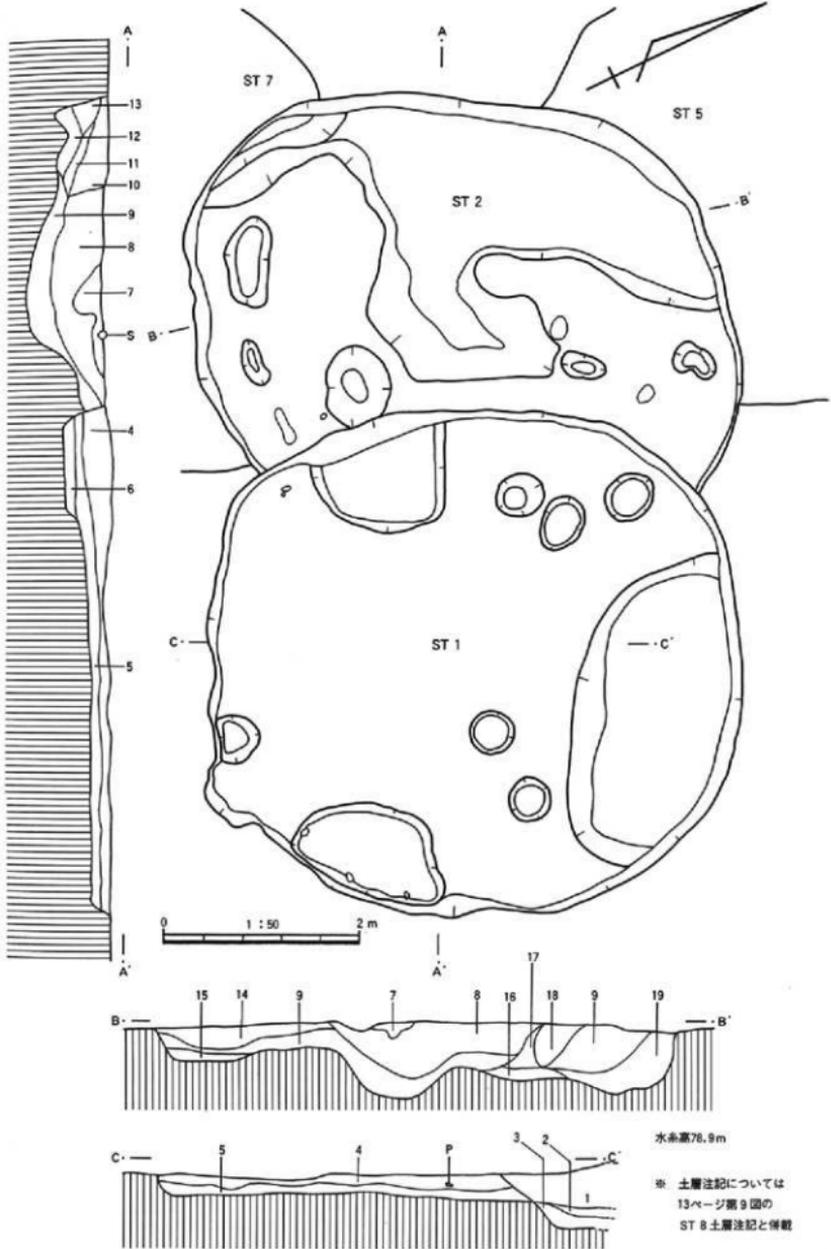
A区30~32-30~32Gで検出された。平面形は長軸5.3mの楕円形を呈する。壁は緩く立ち上がる。床面は南側に窪みを持ち、弱い凹凸が見られる。床面までの深さは、20cm~50cmを測る。柱穴は2基の検出にとどまった。床面北側に石組の炉(EL47)がある。EL47はほぼ磁北にそって長軸80cm、短軸60cmの焼土が認められ、西側に残る3個の石組から、南側に開く馬蹄形を呈するものと考えられる。石は扁平で長楕円のものが使われ、長辺を埋め込んで組まれたものである。

ST 8 竪穴住居跡 (第9図)

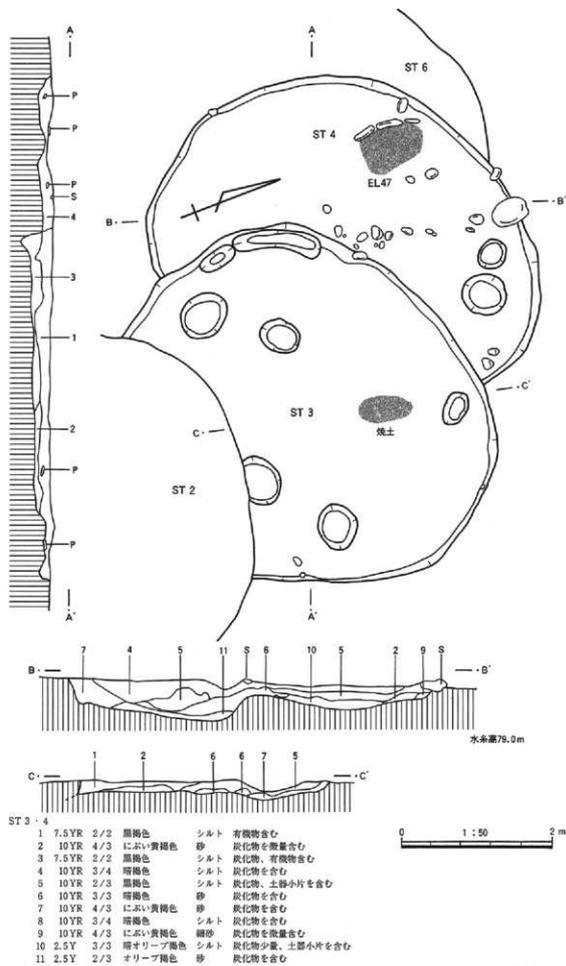
A区31~34-25~27Gで検出された。ST 7、ST70、ST78との切り合いの状況から新旧関係はST78→ST 7、ST70→ST 8と考えられる。平面形は径5mの円形である。壁は角度をもって立ち上がる。床面は中央付近から南側に深く傾斜する。床面までの深さは、20cm~70cmを測る。覆土の状態から、南側については、二次的に掘り込まれた可能性も考えられる。炉は認められない。北半にはEU25・EU26埋設土器(第34図・図版30)2基が検出された。また床面直上では1個体であるRQ63・RQ64石棒(第34図・図版29・70)が出土した。その他、床面直上あるいは覆土中から多量の遺物が出土した。



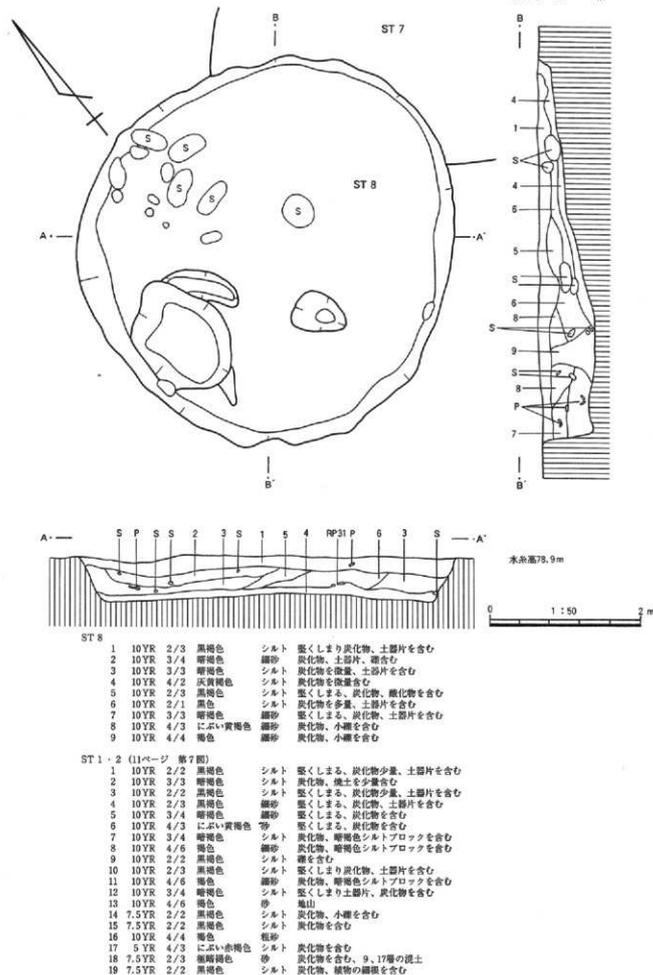
第6図 遺構配置図 (S=1:500)



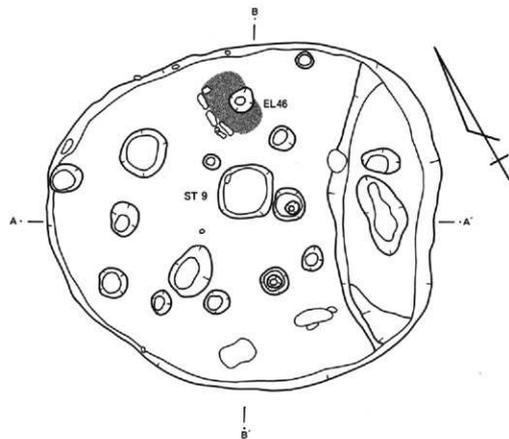
第7図 ST 1・2



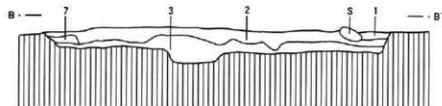
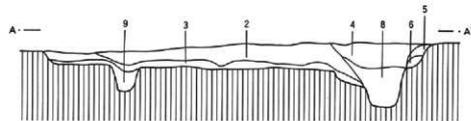
第8図 ST 3・4



第9図 ST 8



水深高79.0m

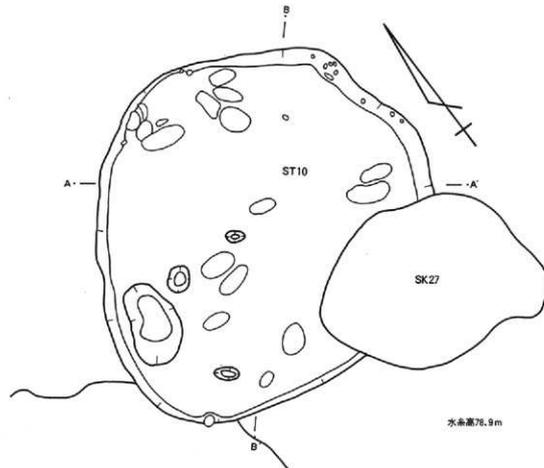


ST 9

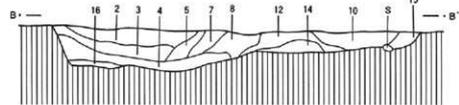
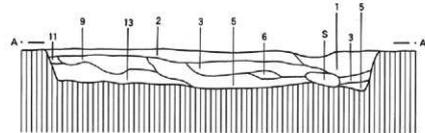
- | | | | | |
|---|-----------|---------|-----|------------------|
| 1 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、酸化鉄を痕状に含む |
| 2 | 10 YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物を少量含む |
| 3 | 10 YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 4 | 2.5 Y 3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト | 炭化物、粗砂を含む |
| 5 | 10 YR 3/4 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を微量含む |
| 6 | 10 YR 2/3 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、径2~3mmの小礫を含む |
| 7 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 8 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物少量、酸化鉄を痕状に含む |
| 9 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を含む |

0 1:50 2m

第10図 ST 9



水深高79.9m

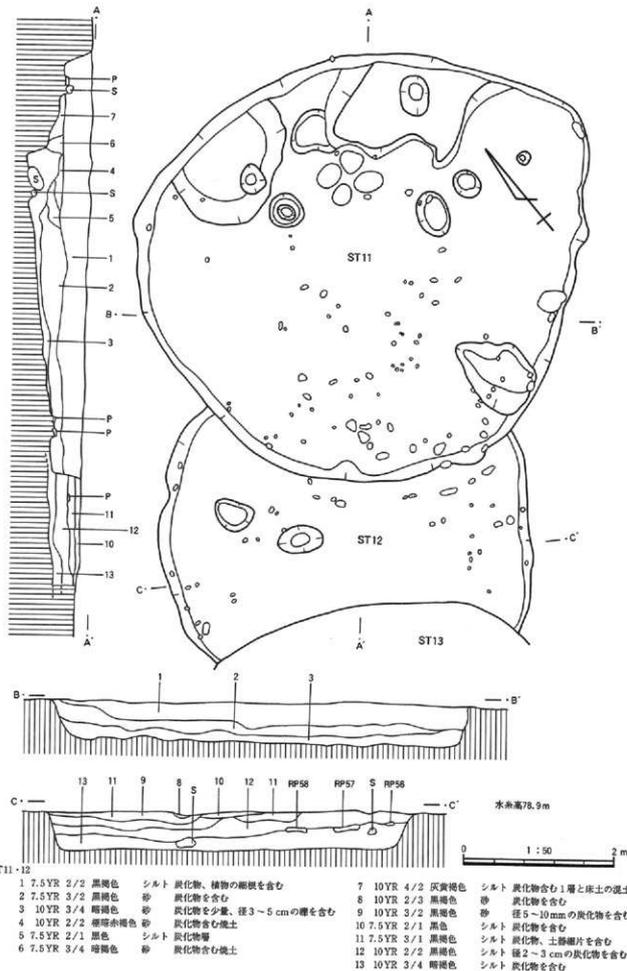


ST 10

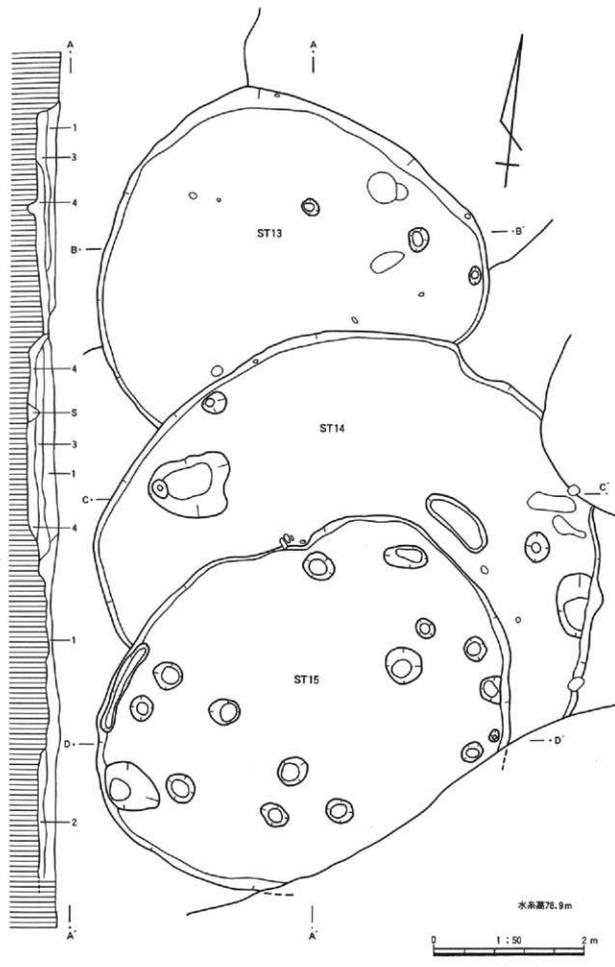
- | | | | | |
|----|------------|--------|-----|--------------|
| 1 | 5 YR 4/4 | にぶい赤褐色 | シルト | 炭化物、小礫を含む |
| 2 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |
| 3 | 10 YR 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 4 | 7.5 YR 3/1 | 黒褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 5 | 7.5 YR 3/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、植物根を含む |
| 6 | 10 YR 3/4 | 暗褐色 | 砂 | |
| 7 | 7.5 YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、砂を含む |
| 8 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を少量含む |
| 9 | 10 YR 4/2 | 灰黄褐色 | シルト | 炭化物を含む |
| 10 | 7.5 YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を少量含む |
| 11 | 2.5 Y 4/2 | 暗灰褐色 | シルト | 炭化物を含む |
| 12 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 13 | 10 YR 4/6 | 褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 14 | 2.5 Y 4/3 | オリーブ褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 15 | 7.5 YR 5/6 | 明褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 16 | 10 YR 3/3 | 暗褐色 | シルト | 磁くしまり、炭化物を含む |
| 17 | 2.5 Y 3/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を少量含む |

0 1:50 2m

第11図 ST 10



第12図 ST11・12



第13図 ST13・14・15

遺物に混じって礫も多く見られ、特に長さ50cm前後、径20cm前後を測る柱状の礫が5個出土していることは注目される。

ST 9 竪穴住居跡 (第10図・図版8)

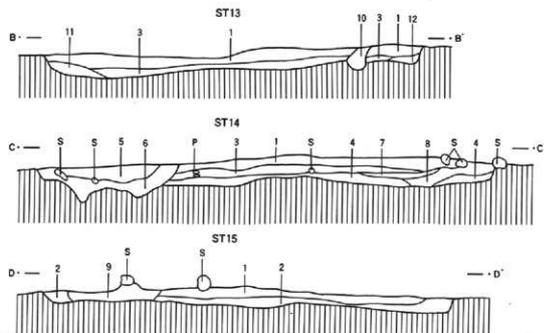
A区29~31~27~29Gで検出された。平面形は長軸5.1m、短軸4.5mの楕円形を呈する。壁は緩く立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、東側においては、二次的な掘り込みが見られる。床面までの深さは約30cmを測る。柱状は15個検出している。北側に石組みの炉(EL46)がある。これはST 4で見られたEL47と同様に磁北にそった方向を示す。南北90cm、東西60cmの範囲に焼土の広がり認められる。焼土及び残存する石組から平面形は長方形を呈するものと考えられる。石組は長さ20cm前後を測る棒状の礫を用いている。西側の5個のみ残る。

ST10 竪穴住居跡 (第11図)

A区30~32~23~25Gで検出された。平面形は、長軸5.2m、短軸4.5mの楕円形である。壁は角度をもって立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、北西部に二次的な掘り込みの痕跡が見られる。床面までの深さは約40cmを測る。炉跡や焼土は認められない。また、床面には長さ40cm前後を測る棒状の礫が散乱するが、土器は大半が覆土中から出土したものである。

ST11 竪穴住居跡 (第12図)

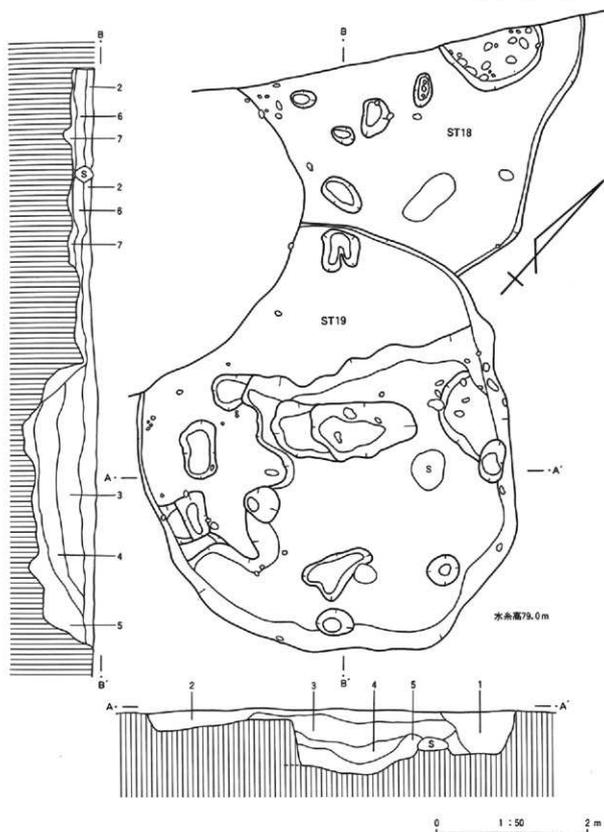
A区26~29~25~27Gで検出された。平面形は径約5.7mを測る円形である。ST12との切り合いの状況から新旧関係は、ST12→ST11である。壁は角度をもって立ち上がる。床面は



ST13・14・15

1	10YR 3/3	暗褐色	シルト	炭化物を含む			
2	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂	炭化物を少量含む			
3	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	砂	炭化物を含む	8	10YR 4/3	にぶい黄褐色
4	10YR 4/4	褐色	砂	炭化物を少量含む	9	10YR 3/4	暗褐色
5	10YR 2/2	黒褐色	砂	小礫を含む	10	擾乱	砂
7	7.5YR 2/1	赤黒色	砂	炭化物を含む	11	10YR 3/4	暗褐色
7	10YR 3/3	暗褐色	砂	炭化物を含む	12	10YR 4/3	にぶい黄褐色

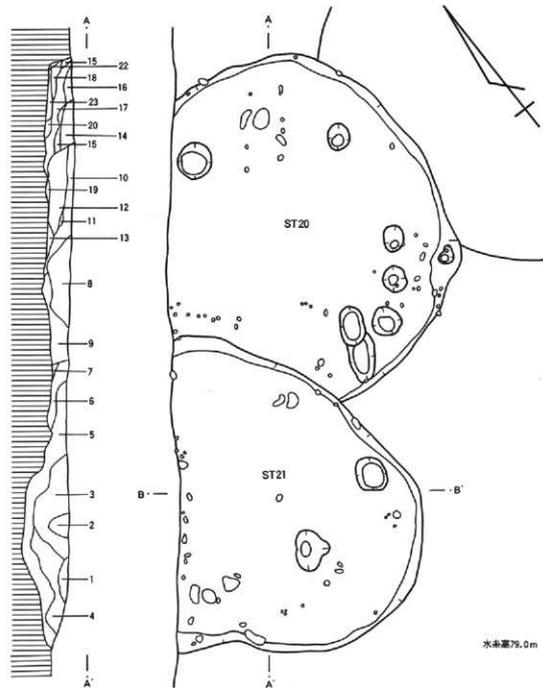
第14図 ST13・14・15土層断面図



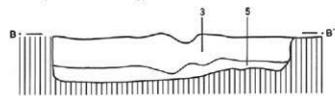
ST18・19

1	擾乱		
2	10YR 2/3	黒褐色	シルト 炭化物、径10~20cmの礫を含む
3	10YR 3/2	黒褐色	シルト 炭化物、土器片を含む
4	10YR 3/3	暗褐色	シルト 炭化物、酸化鉄を含む
5	10YR 2/2	黒褐色	シルト 炭化物を多量含む
6	10YR 3/4	暗褐色	砂 炭化物を含む
7	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂 暗褐色砂を含む

第15図 ST18・19



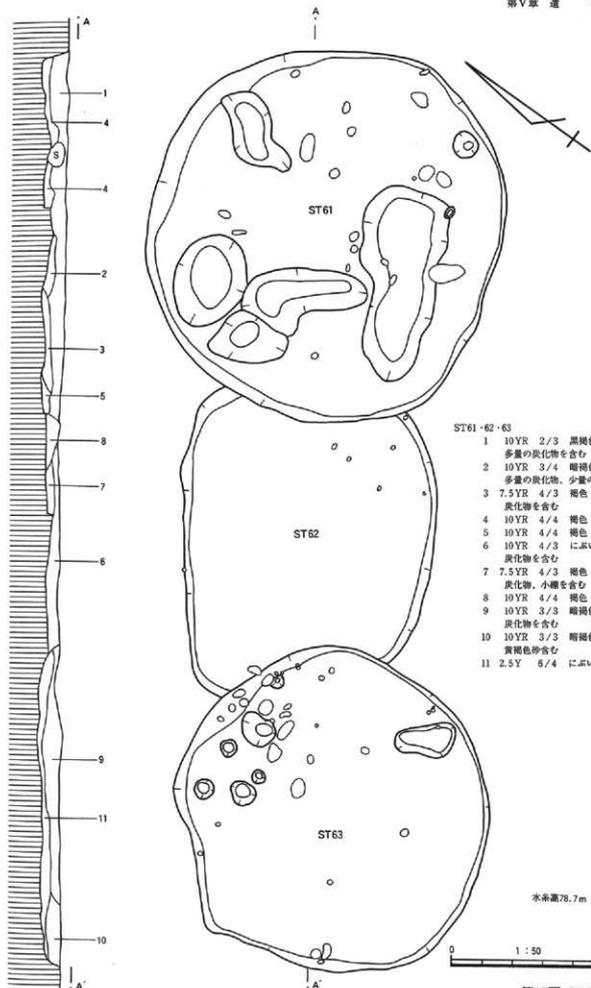
水深7.0m



- ST20-21
- | | | | | |
|----|-----------|--------|-----|----------------|
| 1 | 10YR 4/4 | 褐色 | 砂 | 炭化物を少量含む |
| 2 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | シルト | 炭化物を少量、植物根を含む |
| 3 | 7.5YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片、植物根を含む |
| 4 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片、小礫を含む |
| 5 | 10YR 3/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |
| 6 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 7 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 8 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 9 | 10YR 3/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |
| 10 | 10YR 3/1 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |
| 11 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |

- | | | | | |
|----|-----------|--------|-----|---------------|
| 12 | 7.5YR 2/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、土器片を含む |
| 13 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 14 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 15 | 7.5YR 3/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 16 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 17 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | シルト | 炭化物を少量、植物根を含む |
| 18 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物、礫を含む |
| 19 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物、土器片を含む |
| 20 | 7.5YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物、土器片を含む |
| 21 | 10YR 4/4 | 褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 22 | 10YR 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 23 | 5YR 4/4 | にぶい赤褐色 | 砂 | 炭化物を含む 焼土 |

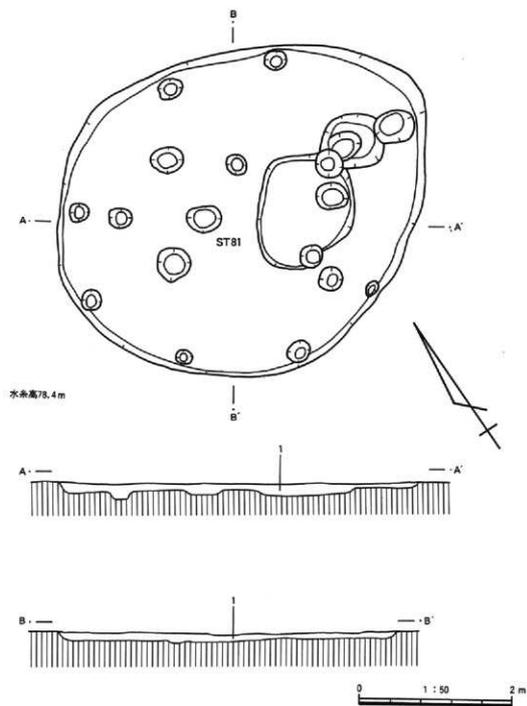
第16図 ST20・21



水深7.0m

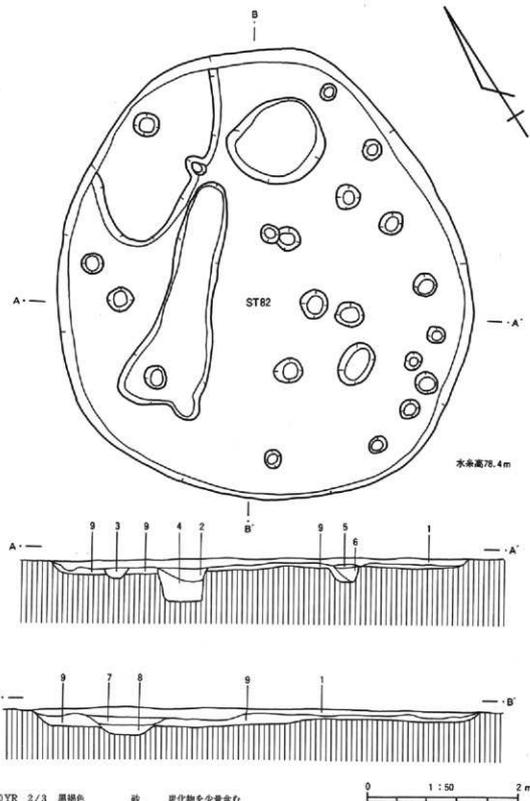
- ST61・62・63
- | | | | | |
|----|-----------|--------|-----|-----------------|
| 1 | 10YR 2/3 | 黒褐色 | 砂 | 多量の炭化物を含む |
| 2 | 10YR 3/4 | 暗褐色 | シルト | 多量の炭化物、少量の小礫を含む |
| 3 | 7.5YR 4/3 | 褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 4 | 10YR 4/4 | 褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 5 | 10YR 4/4 | 褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 6 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 7 | 7.5YR 4/3 | 褐色 | 砂 | 炭化物、小礫を含む |
| 8 | 10YR 4/4 | 褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 9 | 10YR 3/3 | 暗褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 10 | 10YR 3/3 | 暗褐色 | 粗砂 | 炭化物を含む |
| 11 | 2.5Y 6/4 | にぶい黄色 | 砂 | 炭化物を含む |

第17図 ST61・62・63



ST81
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 砂 炭化物を含む

第18図 ST81



ST82
1 10YR 2/3 黒褐色 砂 炭化物を少量含む
2 10YR 4/2 灰黄褐色 砂 炭化物を少量含む
3 10YR 3/2 黒褐色 砂 炭化物を少量含む
4 10YR 4/3 にぶい黄褐色 砂 炭化物、酸化鉄を含む
5 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 砂
6 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 砂
7 10YR 3/3 暗褐色 砂 炭化物、酸化鉄を含む
8 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂 炭化物、酸化鉄を多量に含む
9 10YR 4/3 にぶい黄褐色 砂

第19図 ST82

北側に一部高まりが見られるが、他はほぼ平坦である。柱穴は8基検出された。炉跡や焼土は認められない。出土遺物は多く、特にキャリバー型の深鉢（第51図）と口縁部が外反する深鉢（第52図）が顕著である。床面直上からは3点（第51図2、第52図2、第53図1）の出土で、他は覆土中からの出土である。

ST12竪穴住居跡（第12図）

A区26～29-24～25Gで検出された。ST11とST13に切られることから一部だけの確認であるが、平面形は径約4.9mの円形と考えられる。新旧関係は、ST11・ST13→ST12である。また周辺の竪穴住居跡の切り合いから、ST12→ST13→ST14→ST15の新旧関係が考えられる。壁は角度をもって立ち上がり、床面はほぼ平坦である。深さは約50cmを測る。炉跡及び焼土は確認できない。床面直上から3点（第54図7、第55図1、2）が出土している。

ST13竪穴住居跡（第13図）

A区26～29-22～23Gで検出された。平面形はST14と切り合っていることから全形は明らかではないが、径約5.1mのほぼ円形と考えられる。壁は緩く立ち上がり、床面までは30cmと浅い。柱穴は3基の検出にとどまる。

ST14竪穴住居跡（第13図）

A区28～31-20～23Gで検出された。3分の2程がST15と重複しているため、南北長は不明だが、東西長は6.7mを測る。平面形がほぼ円形とすれば、本調査区中最も規模の大きい竪穴住居跡である。壁は緩く立ち上がり、床面は平坦である。深さは約30cmである。床面は締まっているが、比較的粗めの砂地である。出土遺物は床面直上から6点（第55図4、第56図1、2、7、第57図1、2）である。

ST15竪穴住居跡（第13図）

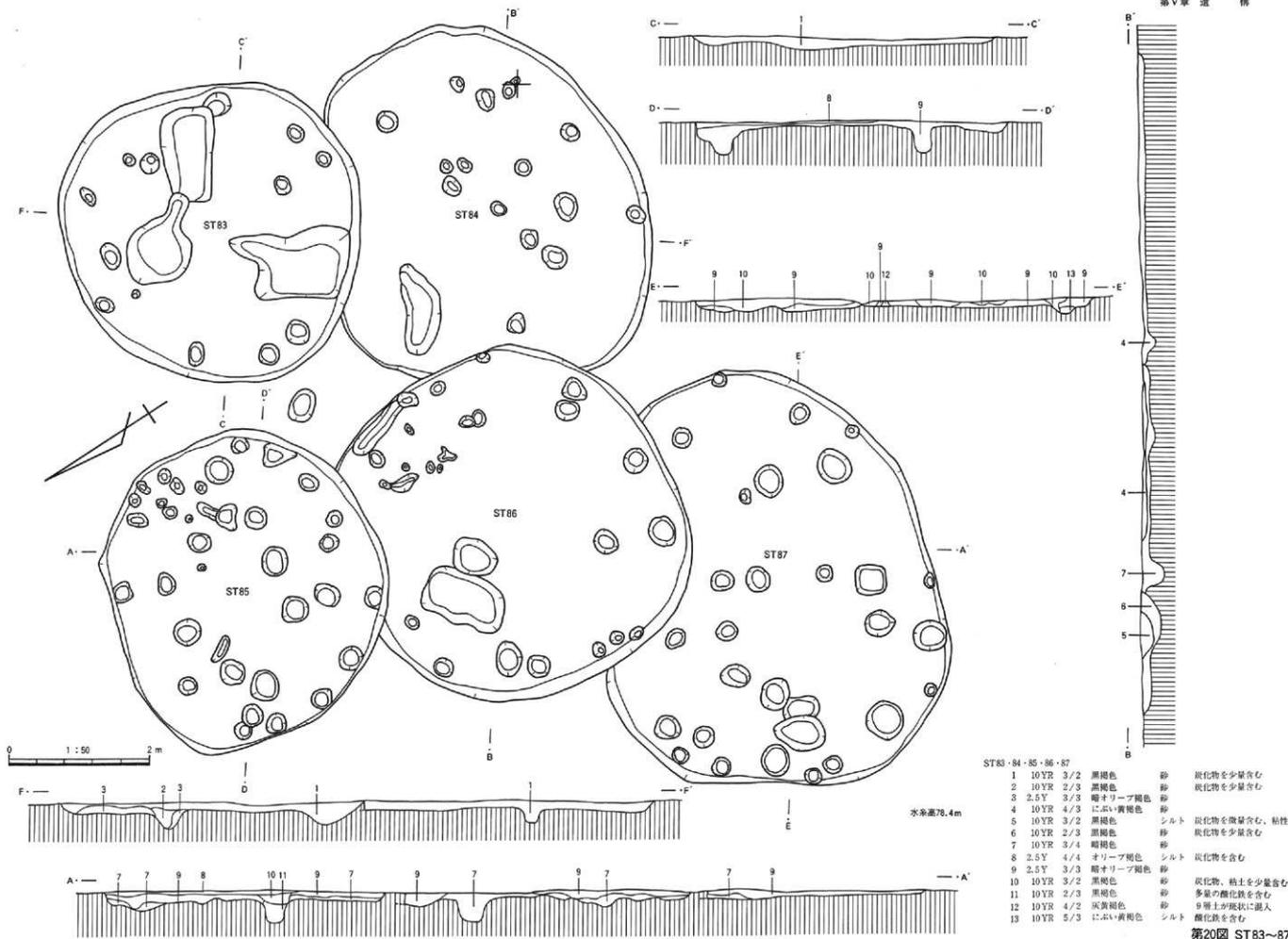
A区29～31-19～22Gで検出された。平面形は、長軸5.7m、短軸約4.5mを測る楕円形を呈する。壁の立ち上がりは緩く、深さも30cmと浅い。床面はほぼ平坦で、粗い砂地である。柱穴は16基検出した。炉跡及び焼土は認められない。床面直上から5点（第58図2～6）出土している。

ST19竪穴住居跡（第15図）

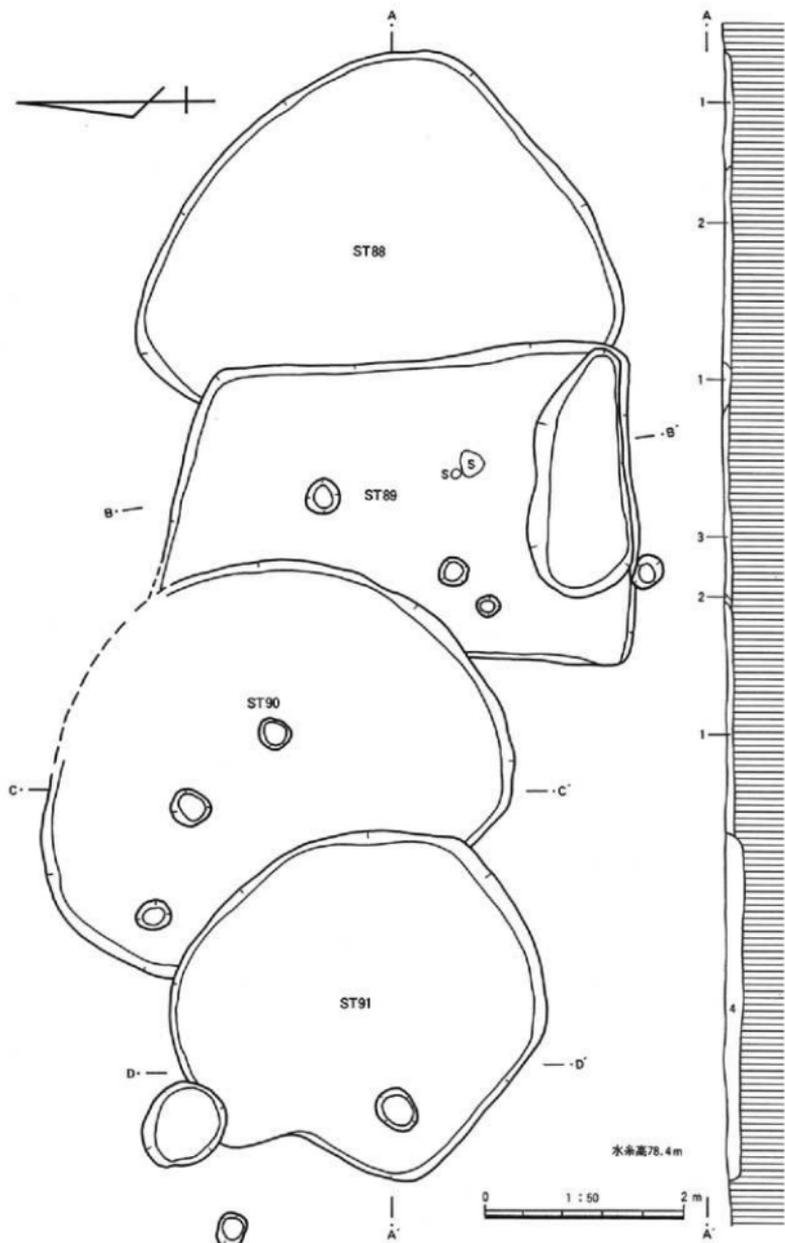
A区25～28-27～29Gで検出された。平面形は、長軸5.5m、短軸5mを測る楕円形である。壁は緩く立ち上がる。床面までは平均80cmの深さを測るが、凹凸が見られる。ST18、ST20と切り合いの状況から新旧関係は、ST18→ST19→ST20となる。出土遺物は覆土中より若干の破片が見られるにすぎない。床面近くからは径約50cmの扁平な礫が出土している。表面が研磨されており、二次火熱を受けた痕跡が認められる。

ST20・21竪穴住居跡（第16図）

A区25～26-25～28Gで検出された。一部西側は調査区外にあたる。平面形は、ST20が径約5mの円形、ST21が短軸4.2m、長軸不明の楕円形と考えられる。ST20の壁は角度をもって立ち上がり、床面は平坦であるのに対し、ST21の壁は緩く立ち上がり、床面も凹凸



第20図 ST83-87



第21図 ST88~91

が見られる。各々炉跡並びに焼土は認められない。遺物は大半が覆土中からの出土である。ST61竪穴住居跡（第17図・図版9）

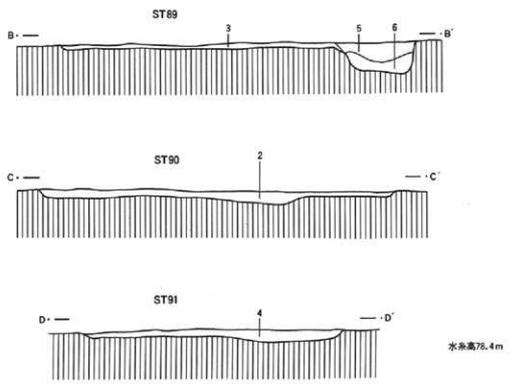
A区17~20-28~30Gで検出された。平面形は、長軸5m、短軸4.7mのやや楕円形を呈する。壁は角度をもって立ち上がる。床面は砂地で凹凸があり、不整形の掘込みが見られる。出土遺物は少ない。当地区は削平を受けているため、ST62、ST63も同様に出土遺物は少なく、床面までは20~30cmの深さまでしか残っていない。

ST81竪穴住居跡（第18図・図版9）

B区44~47-84~85Gで検出された。平面形は、長軸4.6m、短軸4.2mのやや楕円形である。壁は緩く立ち上がる。深さは10cmに満たない程削平を受けている。床面は平坦で良く締まった細砂質のシルトである。壁内側には径30cm前後の竪柱穴が約1.5~2mの間隔で検出された。主柱穴は4基、他に6基の支柱穴がある。覆土には炭化物を含むが、炉跡や焼土は認められない。

ST82竪穴住居跡（第19図・図版10）

B区45~48-81~83Gで検出された。平面形は、長軸6m、短軸5.5mの楕円形である。壁は緩く立ち上がり、床面までの深さは10cm前後を測る。床面は平坦で、細砂質のシルトで固く締まっている。径30cm前後の竪柱穴が3基。特に東側に9基ほどまとまって見られるが、



ST88-89-90-91

- | | | | | | |
|---|------|-----|--------|----|----------------|
| 1 | 2.5Y | 3/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物、酸化鉄、植物根を含む |
| 2 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | 細砂 | 酸化鉄を含む |
| 3 | 10YR | 4/3 | にがい黄褐色 | 細砂 | 酸化鉄を含む |
| 4 | 10YR | 3/2 | 黒褐色 | 砂 | |
| 5 | 10YR | 3/2 | 黒褐色 | 砂 | 酸化鉄を多量含む |
| 6 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | 砂 | 多量の炭化物、黒褐色砂を含む |

第22図 ST89~91土層断面図

他は約2m間隔と考えられる。3基まで主柱穴を検出したが、他は支柱穴と考えられる。覆土には炭化物を含む。特に東側の溝状の掘込みには、多量の炭化物が認められた。炉跡や焼土は未検出である。

ST83竪穴住居跡（第20図・図版10・17）

B区42~44-83~84Gで検出された。平面形は、径約4.2mの円形である。壁は緩く立ち上がる。遺存状態は悪く、床面までは10cm前後を測る1層のみである。1~1.5m間隔で壁柱穴を検出したが、主柱穴は未検出である。ST84との切り合い状況から新旧関係は、ST84→ST83である。炉跡、焼土は認められない。

ST84竪穴住居跡（第20図・図版17）

B区43~45-80~82Gで検出された。平面形は、長軸5.2m、短軸4.7mの楕円形である。遺存状態が悪く、床面までの深さは10cmに満たない。床面は平坦で細砂質のシルトで固く締まる。径20~40cmの柱穴16基を検出したが、主柱穴あるいは壁柱穴とは考えにくい。炉跡、焼土も未検出である。

ST85竪穴住居跡（第20図・図版11・17）

B区41~43-82~84Gで検出された。平面形は、長軸4.6m、短軸4mの楕円形である。壁は角度をもって立ち上がる。床面までは10cm前後を測り、当地区では比較的遺存状態がいいほうである。床面は細砂質シルトで、良く締まるが凹凸が見られる。壁柱穴は南東側に9基検出された。径30cm前後を測り、間隔は50cm~1m前後である。主柱穴は4基、他は支柱穴と考えられる。炉跡、焼土は未検出である。

ST86竪穴住居跡（第20図・図版11・17）

B区39~42-80~82Gで検出された。平面形は、径約5mの円形である。壁の立ち上がりは緩く、床面までは10cm前後の深さで、凹凸が見られる。径40cm前後の壁柱穴が1m~1.5mの間隔で検出された。主柱穴、炉跡、焼土ともに未検出である。

ST87竪穴住居跡（第20図・図版11・17）

B区38~41-78~80Gで検出された。平面形は、長軸5.9m、短軸約4.9mの楕円形である。床面までは10cmに満たない。径20cm前後の柱穴が壁周囲に見られるが、不規則な配置をとる。掘込みも10cm前後である。他に柱穴は19基程検出しているが、大きさにもばらつきがある。主柱穴は不明瞭である。炉跡、焼土は未検出である。

ST88竪穴住居跡（第21図・図版12）

B区45~47-77~79Gで検出された。ST89によって約3分の1切られるため全形は不明であるが、一辺約4.5mの隅丸方形と考えられる。深さは10cm未満しか残っておらず、遺存状態は極めて悪い。柱穴、炉跡等も未検出である。なお当地区から検出された竪穴住居跡群（ST88~91）は、削平によりいづれも深さ10cm前後にとどまり、遺存状態は悪い。遺物の出土もほとんど見られない。また、これらの住居跡群は切り合いの状態により、ST88→ST89→ST90→ST91の新旧関係が考えられる。

ST89竪穴住居跡（第21図・図版12）

B区46~48-77~79Gで検出された。平面形は、長辺4.7m、短辺3.3mの隅丸方形を呈する。柱穴3基を検出している。南側に深さ約40cmの掘込みがあり、多量の炭化物が認められる。

ST90竪穴住居跡 (第21図・図版12)

B区43~45-77~79Gで検出された。一部攪乱を受けているものの、平面形は、径約4.5mの円形と考えられる。柱穴3基の検出にとどまる。

ST91竪穴住居跡 (第21図・図版12)

B区42~44-76~77Gで検出された。平面形は、長軸3.9m、短軸3.6mの不整形を呈する。柱穴1基の検出にとどまる。

ST93竪穴住居跡 (第23図・図版12)

B区45~47-75~77Gで検出された。平面形は、長軸4.5m、短軸4mを測る小型の住居跡である。床面までの深さは、10cmに満たない。覆土には少量の炭化物を含む。支柱穴と考えられる7基の柱穴のほかに、外周に径20cm程の柱穴が6基巡る。中央部分と南側壁に小礫を検出したが、炉跡、焼土は認められない。

ST94竪穴住居跡 (第22図・図版13・17)

B区36~39-76~78Gで検出された。平面形は、長軸5.7m、短軸5mの楕円形である。壁は角度をもって立ち上がる。床面は平坦で、細砂質シルトが固く締まる。深さは20cm前後を測る。覆土には少量の炭化物を含む。壁柱穴と考えられる径20~40cmの柱穴が14基検出された。深さは30cm前後である。これらの柱穴は西側に集中する。特に4カ所において、50cm間隔で大小2基が隣接することから、建替が行われた可能性が考えられる。一方内側にも径30cm前後の柱穴が4基確認されており、西側への拡張も考えられる。これらの柱穴の間隔は1.5~2mを測る。主柱穴は不明瞭であるが、中程に径40cm大の比較的大きめの柱穴が5基検出された。炉跡、焼土は認められない。

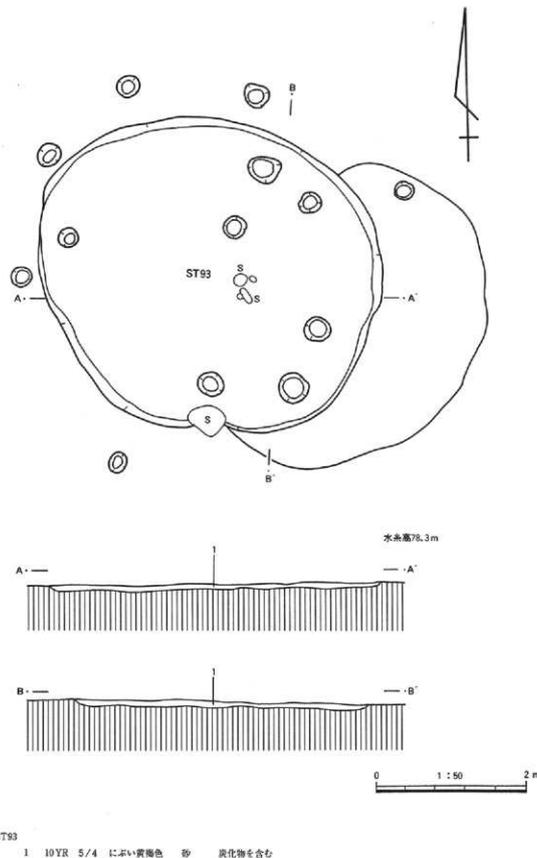
ST95竪穴住居跡 (第25図・図版13・17)

B区31~34-78~80Gで検出された。平面形は、長軸4.5m、短軸4mの楕円形である。覆土には炭化物を多量に含む。壁は緩く立ち上がる。床面までの深さは、約30cmである。床面は西側に傾斜し、深さ約40cmの掘込みが見られる。径30cm前後を測る柱穴が4基、壁際に廻る。壁柱穴と考えられるこれらの他に、径約20cmの柱穴が5基、径約40cm前後の柱穴が4基検出された。炉跡、焼土は認められない。

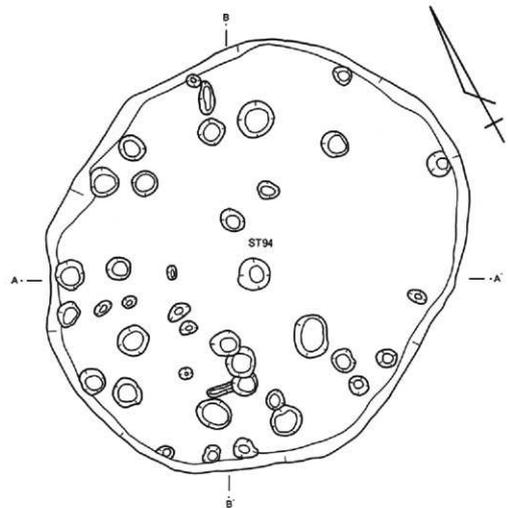
ST96竪穴住居跡 (第26図・図版14・17)

B区33~35-76~78Gで検出された。平面形は、長軸6m、短軸4.3mの長楕円形である。壁は緩く立ち上がる。床面までの深さは40cm前後で、ほぼ平坦であるが、中央から西側にかけて4カ所の掘込みが見られる。覆土層には多量の炭化物を含む。壁柱穴と考えられる径20~30cmの柱穴が壁周囲に巡るが、間隔は不規則である。他は径40cm前後の柱穴を検出している。主柱穴については不明瞭である。炉跡、焼土は認められない。

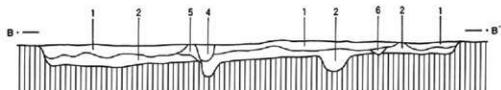
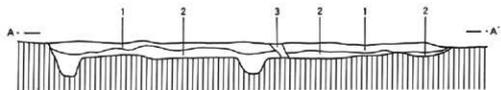
ST97との切り合い状態から、ST97→ST96の新旧関係が考えられる。



ST93
1 10YR 5/4 に近い黄褐色 砂 炭化物を含む



水高78.4m

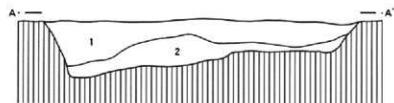
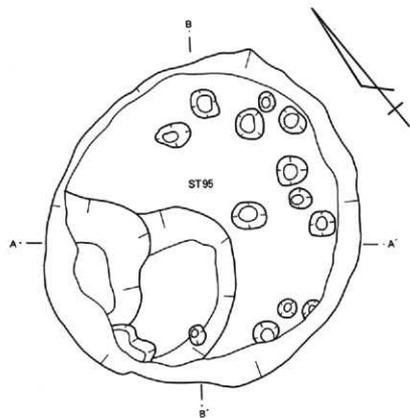


0 1:50 2m

ST94

- | | | | | |
|---|----------|--------|-----|------------|
| 1 | 10YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 2 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 細砂 | 炭化物を少量含む |
| 3 | 10YR 3/4 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、植物炭を含む |
| 4 | 10YR 3/3 | 暗褐色 | 砂 | |
| 5 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を微量含む |
| 6 | 10YR 4/2 | 灰黄褐色 | 砂 | 炭化物を微量含む |

第24図 ST94



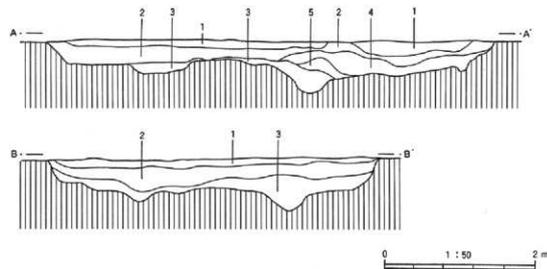
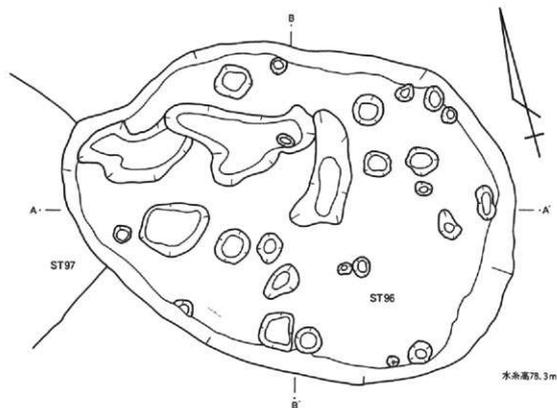
水高78.3m

0 1:50 2m

ST95

- | | | | | |
|---|----------|--------|-----|----------|
| 1 | 10YR 3/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物を多量含む |
| 2 | 10YR 4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 | 炭化物を含む |

第25図 ST95



ST96

1	7.5 YR	3/1	黒褐色	シルト	炭化物を多量含む
2	7.5 YR	3/3	暗褐色	砂	炭化物を少量含む
3	10 YR	5/3	にぶい黄褐色	粗砂	
4	7.5 YR	3/3	暗褐色	砂	炭化物を少量、灰質褐色腐砂含む
5	10 YR	4/2	灰黄褐色	細砂	炭化物を少量含む
6	10 YR	3/2	黒褐色	砂	炭化物を含む

第26図 ST96

ST97竪穴住居跡 (第27図・図版17)

B区31~33-76~77Gで検出された。平面形は、径約4.7mの円形である。壁は角度をもって立ち上がる。床面までの深さは約50cmである。床面は一部凹凸が認められるものの、ほぼ平坦である。覆土には炭化物を含む。径20cm~30cmの柱穴10基を検出している。炉跡、焼土は認められない。

ST99竪穴住居跡 (第28図・図版17)

B区28~30-75~77Gで検出された。2棟の竪穴住居跡と重複するため、全形は不明であるが、長軸5m以上、短軸5m未満の楕円形と考えられる。壁は緩く立ち上がる。床面までの深さは20cm前後を測る。ほぼ平坦であるが部分的に掘込みが見られる。覆土には少量の炭化物を含む。西側に径20~40cmの柱穴が5基検出された。間隔は50cmと1.5mである。この中で、1.5m間隔がとれる3基については壁柱穴と考えられる。炉跡、焼土ともに認められない。

ST100竪穴住居跡 (第28図・図版14・17)

B区26~28-79~81Gで検出された。平面形は、長軸4m、短軸3.6mの小型の楕円形である。壁は緩く立ち上がる。床面までは10cmと浅く、西側が幾分深くなる。中央部に二次的な掘込みがあり、覆土上層には炭化物を含む。径約30cmの柱穴が5基検出された。炉跡、焼土は認められない。

ST101竪穴住居跡 (第29図・図版15)

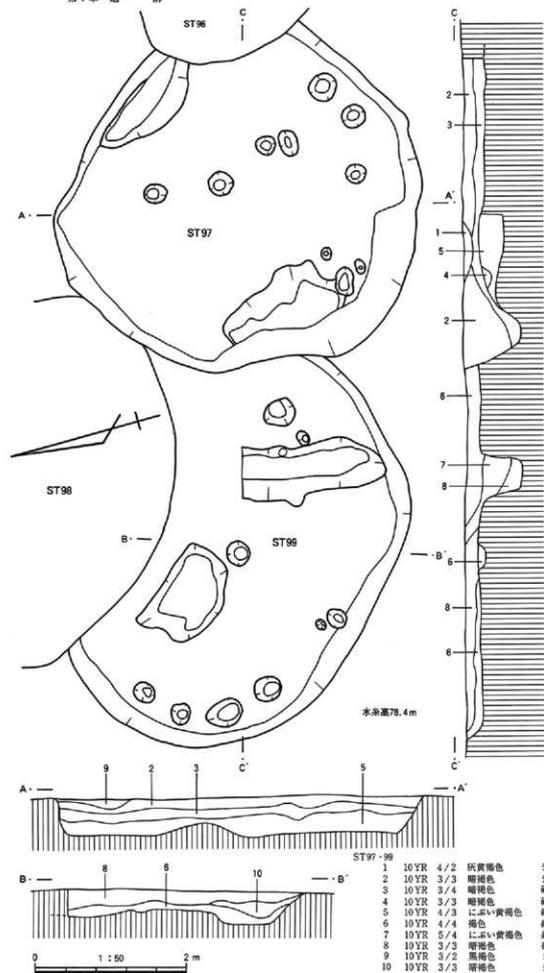
B区24~26-81~83Gで検出された。平面形は、長軸4.8m、短軸4.1mの楕円形である。壁は緩く立ち上がる。床面までは10cm前後しかなく、遺存状態は良くない。径約30cmの柱穴13基が壁周辺に巡るが、間隔は50cm~1mと不規則である。中央やや西寄に径約40cmの柱穴が1基検出されている。主柱穴と考えられるものであるが、他は未検出である。炉跡、焼土は認められない。

ST103竪穴住居跡 (第30図・図版15)

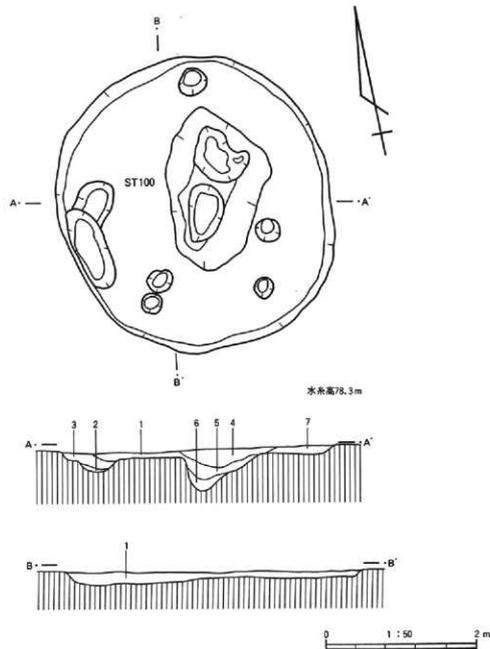
B区28~30-70~72Gで検出された。平面形は、長辺4.6m、短辺3~3.6mの不整形の方形である。壁は緩く立ち上がる。床面までの深さは10cm前後である。四隅の角、あるいは角に近い位置に、一辺60cm~1mの掘込みが見られる。柱穴は、径約10cmのものが2基、径約30cmのものが8基検出された。炉跡、焼土ともに認められない。

ST104竪穴住居跡 (第31図)

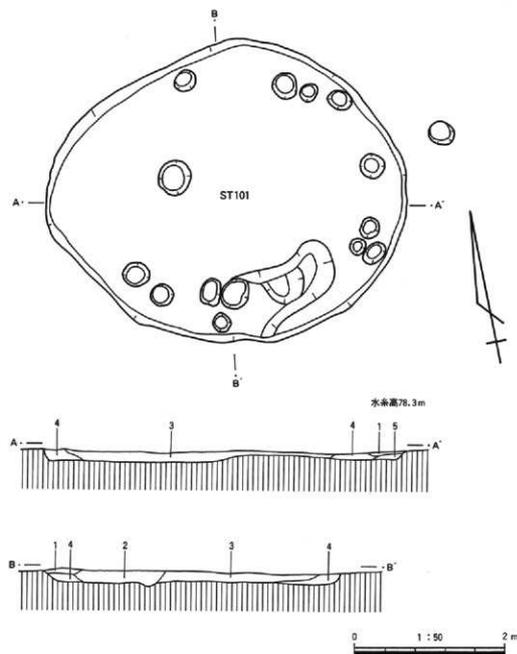
B区28~30-68~70Gで検出された。平面形は、長軸3.6m、短軸3mの楕円形である。壁は緩く立ち上がる。床面までの深さは10cmに満たない。当地区で検出された竪穴住居跡群 (ST103~109) はいずれも床面までの深さが10cm未満で、極めて悪い遺存状態である。ST104に関しては、径30~40cmの柱穴が3基、10cm前後の柱穴が7基検出したにとどまる。炉跡、焼土は認められない。ST104を含む7棟の竪穴住居跡の切り合いの状況から、ST109→ST108→ST107→ST104→ST103・ST106→ST105の新旧関係が考えられる。



第27図 ST97・99



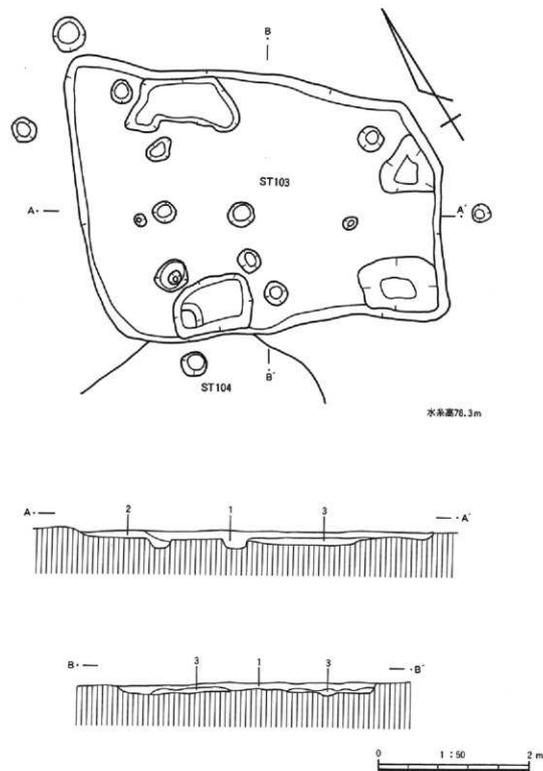
第28図 ST100



ST101

- | | | | | | |
|---|------|-----|---------|-----|-------------|
| 1 | 2.5Y | 4/3 | オリブ褐色 | シルト | 酸化鉄を含む、弱い粘性 |
| 2 | 2.5Y | 3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト | 炭化物を含む |
| 3 | 10YR | 4/4 | 褐色 | 砂 | 弱い粘性 |
| 4 | 2.5Y | 4/4 | オリブ褐色 | 砂 | 弱い粘性、堅くしまる |
| 5 | 10YR | 4/6 | 褐色 | 砂 | 弱い粘性、堅くしまる |

第29図 ST101



ST103

- | | | | | | |
|---|------|-----|------|-----|----------|
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗褐色 | シルト | 酸化鉄を含む |
| 2 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐色 | 砂 | 酸化鉄を含む |
| 3 | 10YR | 3/4 | 暗褐色 | 砂 | 酸化鉄を少量含む |

第30図 ST103

ST105竪穴住居跡（第31図・図版16）

B区24～27-70～73Gで検出された。平面形は、径6mの円形である。壁の立ち上がりは緩い。東側から北にかけて、溝状の掘込みが見られる。幅約1m、最深部の深さは約50cmである。柱穴は径20～40cmのものが9基、60～70cmのものが2基検出された。また外周北側には、径20cmの柱穴が4基認められる。炉跡、焼土は認められない。

ST106竪穴住居跡（第31図）

B区26～29-68～70Gで検出された。平面形は、径4.1mの円形を呈する。東側から南にかけて、幅50～60cm、深さ10cm程度の溝が見られる。柱穴は、径20～40cmのものが8基検出された。炉跡、焼土は認められない。

ST107竪穴住居跡（第31図・図版16）

B区27～30-67～69Gで検出された。平面形は、長軸5.5m以上の楕円形と考えられる。径約10cmと約30cmの大小各々2基の柱穴を検出したにとどまる。

ST108竪穴住居跡（第31図）

B区27～29-63～66Gで検出された。平面形は、長軸4.7m以上の楕円形と考えられる。径約30cmの壁柱穴と考えられるのも6基、その他2基の柱穴を検出した。

ST109竪穴住居跡（第31図）

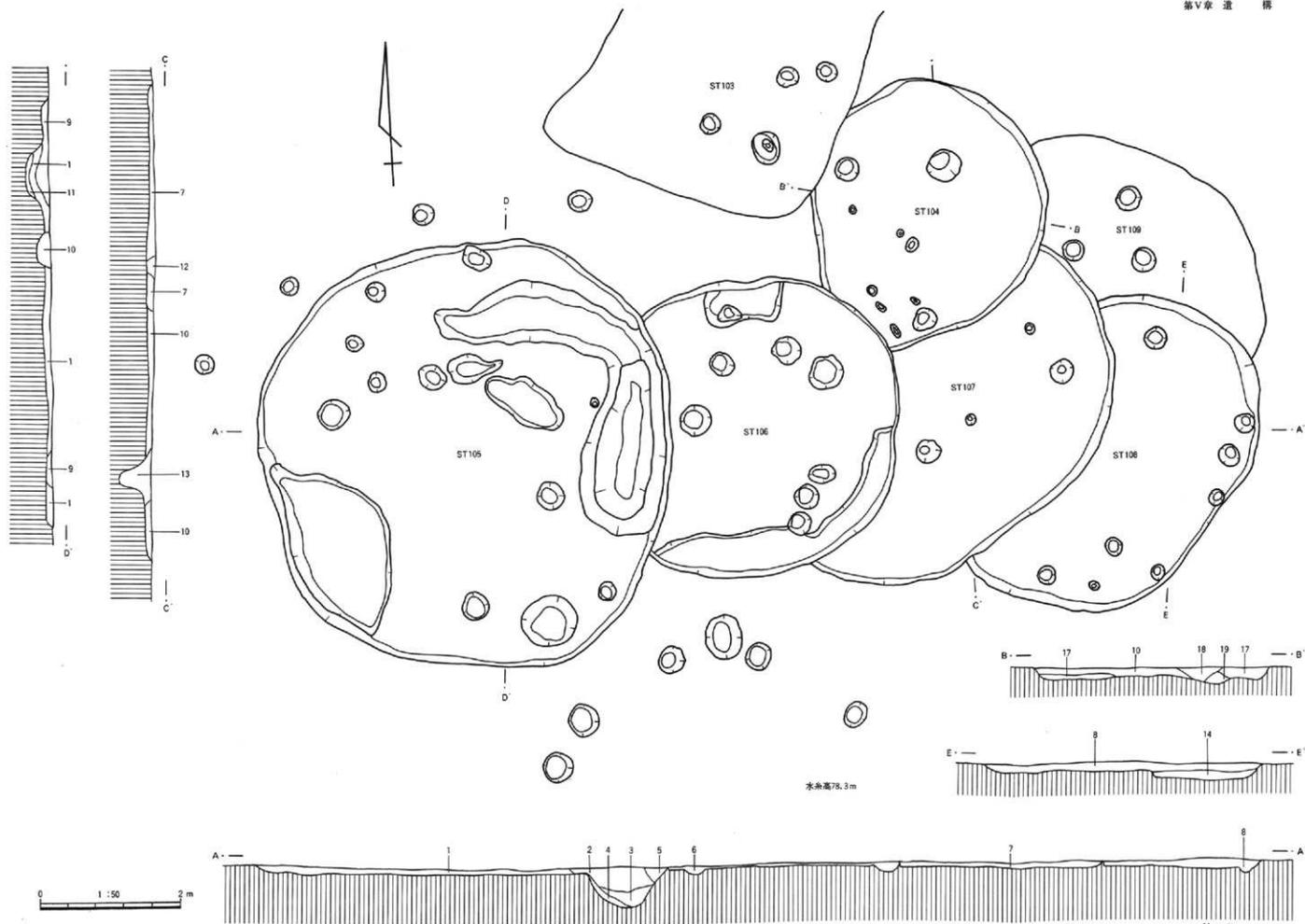
B区29～30-67～69Gで検出された。平面形は円形もしくは楕円形であるが、重複の関係上規模は不明である。径30cmの柱穴3基を検出したにとどまる。

2 炉跡

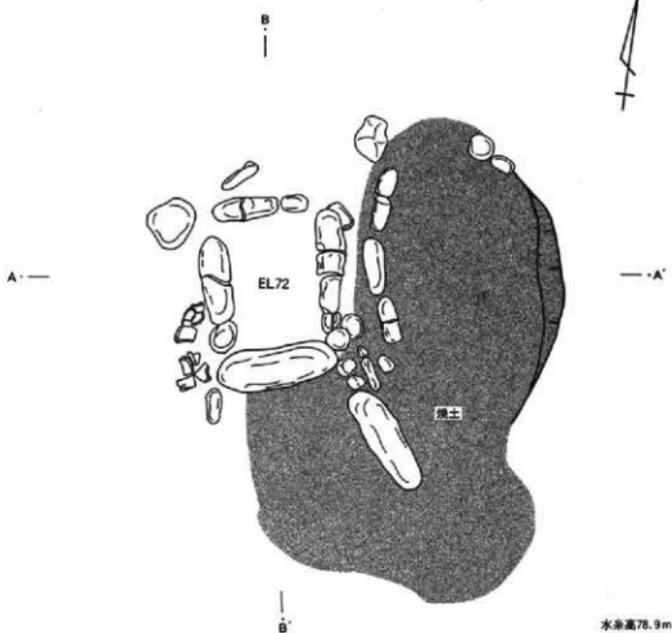
本調査において検出された炉跡及び炉跡と考えられる焼土の広がり、5ヵ所のみである。その内3ヵ所（EL46・47・ST3内焼土）については、竪穴住居跡の項で述べてきたので、ここではその他2基について説明する。

EL72炉跡（第32図・図版23）

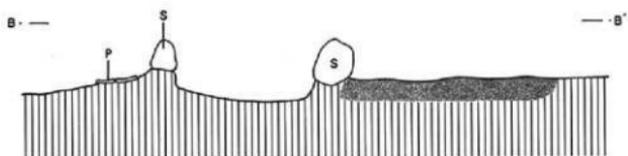
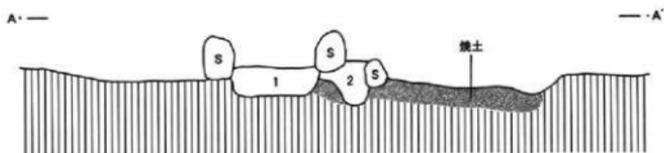
ST1竪穴住居跡の北側で検出された。周辺が粗い砂地であったことと、多くが調査区外にあたるため、この炉跡がともなう竪穴住居跡の形態、規模は不明である。炉跡は形態の違う2基が隣り合って検出された。主軸は、2基とも若干西に振れるものの、ほぼ磁北に沿っている。東側の炉は長さ25cm前後、幅10cmの棒状の礫を用いて作られている。礫は西側に3個のみ残る。焼土の範囲や礫が抜かれた痕跡から、EL46・47と同形態の馬蹄形と考えられる。焼土の範囲は、南北2m、東西60cmである。一方西側の炉は、方形に組まれたものである。長さが40～50cm、幅10～15cmの棒状の礫を4個組んで作られている。火熱のため礫はもろく、割れている。また南東側にも長さ48cm、幅16cmの棒状の礫が残る、左右対称に八の字型に開いていたものと考えられる。炉内の底には焼土は見られない。焼土は南側に広がり、南北75cm、東西1.1m（東側炉部分も含む）の範囲に見られる。覆土には炭化物と白色シルトのブロックを含む。この炉内の覆土については、自然科学分析を行っているので、付編を参照されたい。断面観察の結果、西側の方形の炉跡より東側の馬蹄形の炉跡の方が先行するものと考えられる。



第31図 ST103~109



水深高78.9m



EL.72

- | | | | | |
|---|----------|-----|-----|------------------|
| 1 | 10YR 3/4 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、白色シルトブロックを含む |
| 2 | 10YR 3/4 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、焼土を含む |

3 集石遺構

SM39集石遺構 (第33図・図版20)

A区32-20Gで検出された。平面形は、径70cmの円形である。北側の掘込みは緩いが、他は急である。深さは30cm、3層に別れる。上面には、径10~20cmの礫3個が残る。

SM40集石遺構 (第33図・図版20)

A区33-19Gで検出された。平面形は、長軸80cm、短軸66cmの楕円形である。掘込みは急である。深さは40cm、覆土は3層に別れる。上面には、5~12cmの礫28個が残る。

SM41集石遺構 (第33図・図版21)

A区34-20Gで検出された。平面形は、径約90cmの円形である。掘込みは急である。深さは30cm、2層に別れる。上面には、中心に30cmの礫1個と、その周辺に径6~12cmの礫25個が残る。

SM42集石遺構 (第33図・図版21)

A区34-21Gで検出された。平面形は、長軸80cm、短軸62cmの楕円形である。掘込みは南側が急で、他は緩やかである。深さは34cm、3層に別れる。上面には、径20cm前後の礫4個、10cm前後の礫11個が残る。

SM43集石遺構 (第33図・図版22)

A区35-22Gで検出された。平面形は、長軸80cm、短軸68cmの楕円形である。掘込みは急で、深さ33cmである。3層に別れる。上面には、中心に径30cmの礫1個と、その周辺に径10cm前後の礫16個が残る。

SM71集石遺構 (図版22)

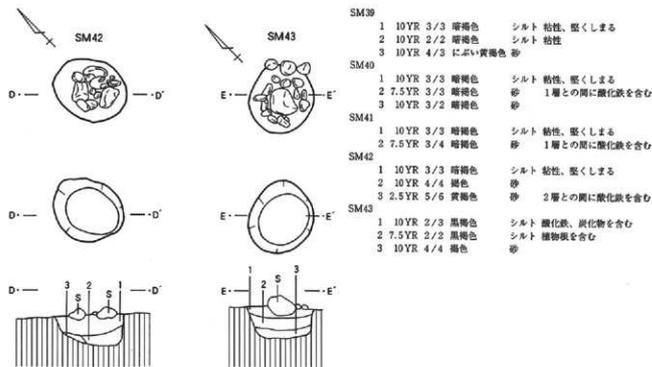
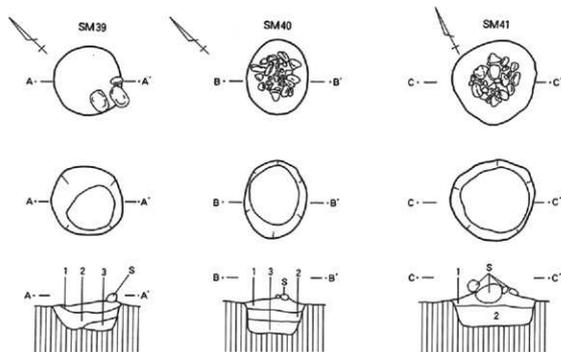
A区33-35-23~24Gで検出された。平面形は、不整形で東西3.1m、南北1.9mの広がりをもち、長さ50cm大の棒状の礫5個、10~20cm大の礫300個以上が集石する。礫の中には磨石、凹石、石皿等も混入する。この集石遺構は、礫のまとまりから、4ないし5のブロックから構成される可能性も考えられる。しかし、これらの周辺に掘込みは確認できなかった。

なおSM39~42、71の礫下部の土について、自然科学分析を行っているので、詳細は付録を参照されたいが、リン酸、カルシウム含量とも低い値でなかったことから、墓塚の可能性が示唆された。

4 土器埋設遺構

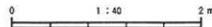
EU25・26土器埋設遺構 (第34図・図版30)

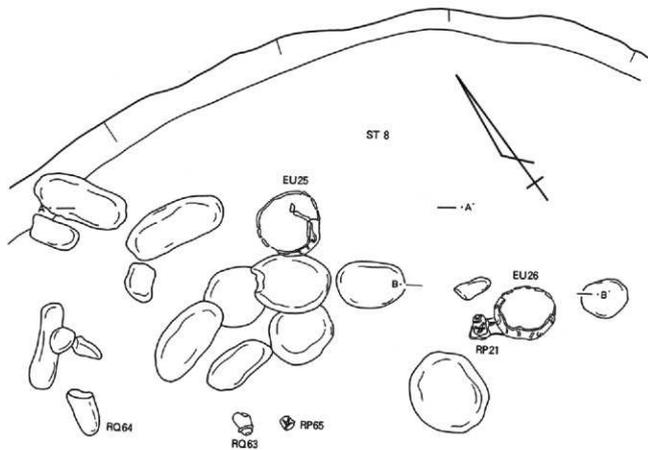
A区33~34-27Gで検出された。位置はST8整穴住居跡の中にあたるが、床面を掘込んで埋設したものではなく、覆土中にありST8廃絶後埋設されたものである。埋設時の掘り方は、土色、土質ともST8の覆土と比べ違いが見い出せず、確認できない。埋設は正位である。土器は2個体とも口縁部が欠損する。底部に関しては、EU26が穿孔されている。EU25の土器(第58図2・図版47)は隆線による渦巻文の深鉢である。EU26の土器(第58図1・図版47)は枕線による渦巻文の深鉢である。



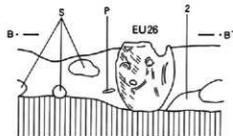
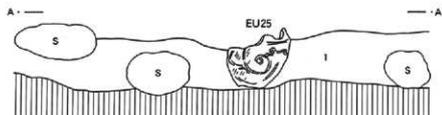
SM39	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト 粘性、堅くしまる
	2	10YR 2/2 暗褐色	シルト 粘性
	3	10YR 4/3 濃い黄褐色	砂
SM40	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト 粘性、堅くしまる
	2	7.5YR 2/3 暗褐色	砂 1層との間に酸化鉄を含む
	3	10YR 3/2 暗褐色	砂
SM41	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト 粘性、堅くしまる
	2	7.5YR 3/4 暗褐色	砂 1層との間に酸化鉄を含む
	3	2.5YR 5/6 黄褐色	砂 2層との間に酸化鉄を含む
SM42	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト 粘性、堅くしまる
	2	10YR 4/4 褐色	砂
	3	2.5YR 5/6 黄褐色	砂
SM43	1	10YR 2/3 黒褐色	シルト 酸化鉄、炭化物を含む
	2	7.5YR 2/2 黒褐色	シルト 構造鉄を含む
	3	10YR 4/4 褐色	砂

水糸高78.8m





水深79.0m



EU25・26

- | | | | | | |
|---|-------|-----|-----|---|-----------------|
| 1 | 7.5YR | 2/2 | 黒褐色 | 砂 | 炭化物を含む |
| 2 | 10YR | 3/4 | 暗褐色 | 砂 | 粘性、明暗褐色砂ブロックを含む |

第34図 EU25・26

5 土 壤

検出された土壌は、総数139基を数える。その分布は、A・B区とも堅穴住居跡の周辺に比較的多く見られる他は、B区の南東部と南西部に若干検出されたにすぎない。

SK27土壌 (第35図)

A区32~33-23Gで検出された。長軸2.8m、短軸2.2mを測る不整楕円形である。深さ38cm、6層に別れる自然堆積である。全体的に掘込みは急である。ST10と切り合っており、新旧関係はST10→SK27となる。

SK29土壌 (第35図・図版18)

A区29-19-20Gで検出された。長軸4.1m、短軸1.6mの溝状の遺構である。深さ32cmを測る。覆土は3層に別れ、自然堆積と考えられる。南西部の掘込みは急であるが、他は緩く掘込まれている。

SK120土壌 (第36図)

B区45~46~56Gで検出された。長軸1.8m、短軸1.5mを測る楕円形である。覆土は1層、深さ14cmにとどまる。掘込みは緩く、底面は平坦である。削平を受けている地区にもあたり、本来の掘込みはさらに深かったものと考えられる。縄文土器の深鉢細片が数点出土している。

SK133・134土壌 (第37図・図版19)

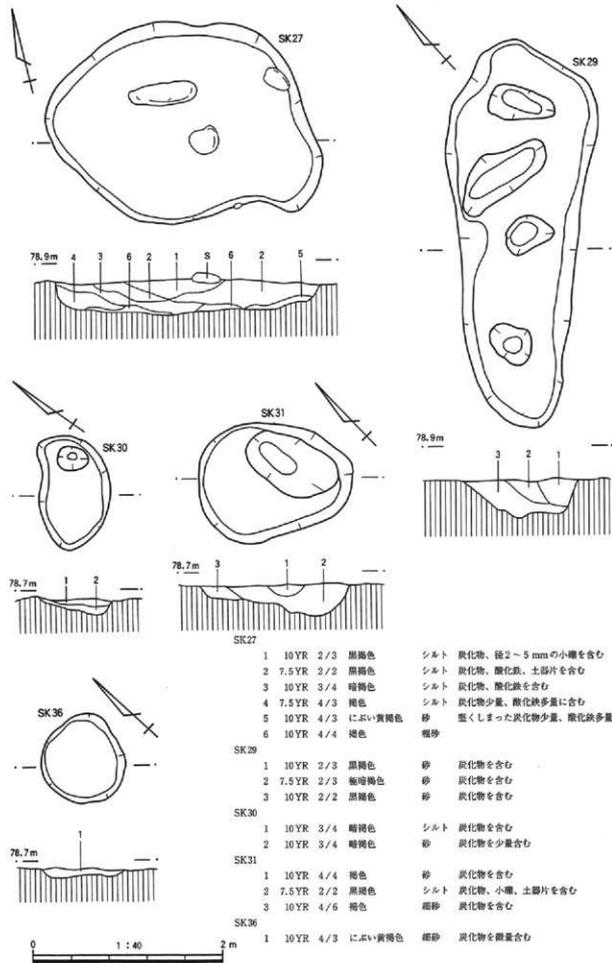
B区38-43Gで検出された。2基の土壌は切り合っており、SK133-134の新旧関係にある。SK133は、径約70cmの円形と考えられる。深さは10~15cmである。掘込みは緩やかで、底面は平坦である。覆土には炭化物を含む。SK134は、径1m前後のほぼ円形である。深さは20cm、覆土は3層からなり、炭化物、灰を含む。1層から縄文土器深鉢と凹石が出土した。ともに二次火熱を受けているため、深鉢はもろく円化は困難、凹石は第114図11に円化した。

その他の土壌 (第35・36図・図版18・19)

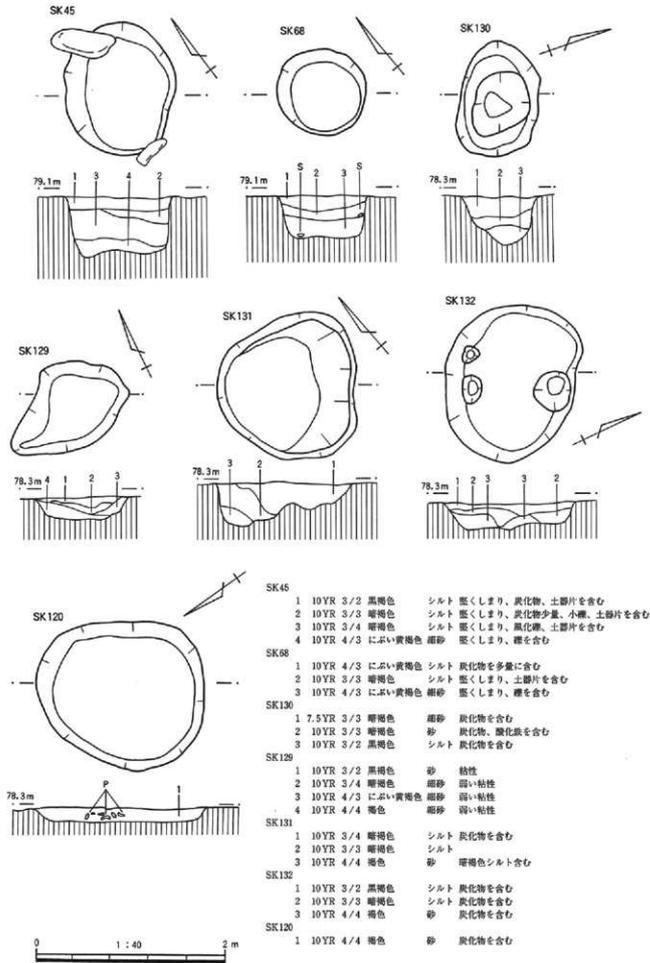
平面形は、径1~1.5mを測る、円形もしくは楕円形である。掘込みは大半が緩く掘込まれたものであるが、中にはSK45やSK68の様に深く、急に掘込まれたものも見られる。深さはまちまちであるが、全体的に浅く、10~60cmの範囲内におさまる。底面は平坦なもの他に、SK31、SK130、SK131の様に2段に掘込まれるもの、SK30、SK132の様に底面にピット状の小穴が掘込まれるもの等が見られる。覆土には炭化物を含む。ほとんどが自然堆積によるものである。

SG137河川跡 (第38図)

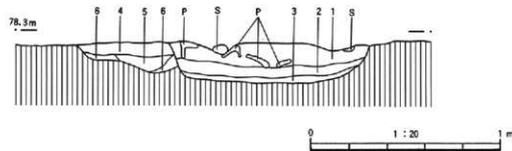
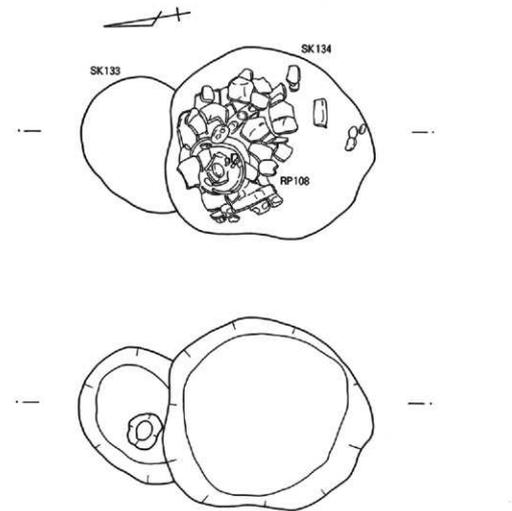
B区47~50-39~50Gで検出された。長さ15mにわたって調査を行った。さらに北東方向と南に広がりをもつものと考えられるが、調査区外にあたる。最小幅は2.5m、最大幅は5m以上であるが、中央部分が幾分高まり、さらに東側が深くなる様子がうかがえる。深さは確認できるところで90cmである。覆土には多量の有機物と炭化物を含む。底面付近からは多量の土器片と石匙、石笥や磨石、凹石、石皿等が出土した。



第35図 土壌(1)



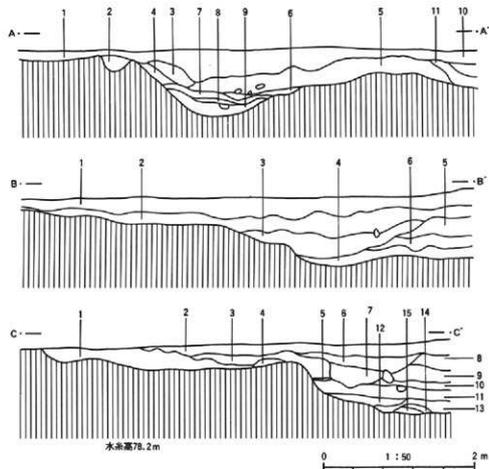
第36図 土壌(2)



SK133-134

1	10YR 2/1	黒色	砂	炭化物、灰を多量含む
2	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂	炭化物を少量含む
3	10YR 4/4	褐色	砂	炭化物を微量含む
4	10YR 4/4	褐色	砂	炭化物を多量含む
5	10YR 4/4	褐色	砂	炭化物を多量含む
6	10YR 4/4	褐色	砂	炭化物を多量含む

第37図 土壌(3)



SG137

A-A				
1	10YR 3/2	黒褐色	シルト	炭化物多量を含む、粘性
2	10YR 4/1	褐灰色	砂	炭化物含む、粘性
3	10YR 4/1	褐灰色	粘土	炭化物含む、粘性強い
4	5Y 4/2	灰色	シルト	炭化物含む、粘性強い
5	10YR 3/1	黒褐色	シルト	炭化物含む、粘性強い
6	5Y 4/1	灰色	砂	有機物を多量含む、粘性
7	5Y 4/1	灰色	砂	土砂、有機物を含む、粘性
8	5Y 3/2	暗オリーブ褐色	砂	弱い粘性
9	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂	弱い粘性
10	2.5Y 4/1	灰褐色	粘土	炭化物、有機物を含む、粘性強い
11	2.5Y 3/2	黒褐色	砂	粘性強い
B-B				
1	10YR 3/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む、粘性強い
2	10YR 2/2	黒褐色	シルト	土砂、炭化物、有機物含む、粘性強い
3	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	砂	有機物が凝結に富む、弱い粘性
4	10YR 3/1	黒褐色	シルト	一様土砂、弱い粘性
5	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	有機物を多量含む、粘性強い
6	10YR 4/1	黒褐色	シルト	炭化物、有機物を含む、粘性強い
C-C				
1	5Y 4/2	灰オリーブ褐色	砂	弱い粘性
2	10YR 3/2	黒褐色	シルト	炭化物含む、粘性強い
3	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	土砂、有機物含む、粘性がある
4	10YR 2/3	黒褐色	シルト	砂混入、粘性がある
5	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	砂	炭化物、有機物含む、弱い粘性
6	10YR 2/2	黒褐色	シルト	土砂、炭化物、有機物含む、粘性強い
7	10YR 3/2	黒褐色	粘土	炭化物、有機物を多量含む、粘性強い
8	10YR 2/3	黒褐色	シルト	炭化物、有機性
9	10YR 2/3	黒褐色	シルト	有機物多量含む、弱い粘性
10	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	砂	炭化物、有機物含む、弱い粘性
11	10YR 3/1	黒褐色	砂	土砂、有機物含む、弱い粘性
12	2.5Y 4/1	黄灰色	砂	有機物含む、弱い粘性
13	5Y 3/1	オリーブ黒色	有機物層	
14	5Y 4/1	灰色	砂	弱い粘性
15	10YR 4/2	灰黄褐色	砂	炭化剤少量含む、弱い粘性



第38図 SG137

第VI章 遺物

今回の調査で出土した遺物の総数は、整理箱にして404箱である。その中で約8割を縄文土器が占め、残り約2割を石器類が占める。遺物の分布は、9割以上がA区からの出土である。前述したように、B区についてはすでに削平を受けており、竪穴住居跡も半分以上崩り取られた状態であったため、SG137河川跡やわずかな竪穴住居跡、土壌を除いて遺物の出土は見られなかった。A区では竪穴住居跡からの出土が大半を占め、住居跡後に投棄されたことがうかがえることから、ある程度の一括性は認められるもの、必ずしも選擇単位で器種毎のセット関係を示すものではないと考えられる。

1 縄文土器

大木7から大木9式期の範囲内におさまる土器群が出土している。以下、各群毎に住居跡内から出土した土器を中心に概観する。

第I群土器

大木7 a式と考えられる一群である。出土数はきわめて少なく、数点しか見られない。さらに破片資料のみで、全形を知りえるものはない。第50図11、第79図33、35は波状口縁の深鉢の波状部と考えられる。口縁部に沿って平行する沈線あるいは沈線と渦巻文が描かれる。他の資料の確認には至らない。

第II群土器

大木8 a式期の土器である。確認できたのは1点にとどまる。第47図6は胴部中央で最大径をもち、頸部から口縁部にかけて外反する器形となる。口縁部には立体的な横位の「S」状文と円文の組み合わせで、隆線と沈線で描かれる。

第III群土器

大木8 b式期の範囲で捉えられる土器を一括した。今回の調査で最も多く出土した土器群である。A区の竪穴住居跡内から多量に得られており、集落の主体をなす時期と考えられる。器形から以下のように分類できる。

深鉢

- a: 波状口縁で、胴下部がわずかに膨らみ、口縁部が内弯する大形のもの。(第61図3)
 b: 平縁で、胴下部がわずかに膨らみ、口縁部が内弯する大形のもの。(第60図3)
 c: 胴部中央で膨らみ、口縁部が内弯する大形のもの。(第65図1)
 d: 胴部中央で膨らみ、口縁部が外反する大形のもの。(第48図7)
 e: 胴部がわずかに膨らみ、口縁部が内弯するもの。(第40図2・第70図7)
 f: 胴部が直線的あるいは外反気味で、口縁部が内弯するもの。(第46図2・3・第51図1・2・4・第56図7・第59図2・3・5・第71図1～3他)
 g: 胴部がわずかに膨らみ、波状となる口縁が外反するもの。(第54図2・第66図1・3・第73図1・第76図1) h: 胴部が直線的あるいは外反気味で、波状となる口縁部が外反するもの。(第45図3・第52図4・第53図1・第54図5・第56図1)

本群の施文には、沈線あるいは隆線による渦巻文が主体となる。fの口縁部には立体的でバリエーション豊かな装飾が施したのが見られる。またfの中には、文様帯が頸部無文帯により明確に二分されるものと、地文が口縁部から胴部まで連続して施文され、頸部無文帯を形成しないものが見られる。後者の施文には粘土紐貼付による隆線で有縁渦巻文が描かれ、隆線には沈線に沿わないものが多く見られる(第45図1・第46図2・第47図4・第62図9・第71図1等)。これらは、本群の中でも古い様相を示すものと考えられる。

- 浅鉢
 a: 体部は丸味を帯びて、緩やかに立ち上がり、口縁部にいたるもの。(第46図10・11)
 b: 体部は丸味を帯びて、緩やかに立ち上がり、口縁部が内弯するもの。(第64図11・12・第75図5)
 c: 体部は外反気味に立ち上がり、口縁部が波状になるもの。(第46図8・第57図2・第64図13)
 d: 体部は直線的に立ち上がり、口縁部が強く屈曲するもの。(第51図8)

bの口縁部には、沈線により施文されたものが見られる。cの口縁部には、無文のもの、沈線や隆線により渦巻文が描かれるものが見られる。dでは沈線、隆線の他に、刺突文が施されるものがある。多くのものは体部が無文である。

第IV群土器

大木9式期の土器を一括する。破片資料が大半を占めるため、詳細については不明瞭な点が残る一群である。

深鉢の口縁部形態は、波状になるものも見られるが、多くは内傾あるいは外反する平縁のものである。平縁の口縁部には隆線より、隅丸方形に近い楕円文を連続して施すもの(第39図3・第41図6・第50図8・第74図1・2)、渦巻文をとまない、楕円文の中に刺突文を施すもの(第39図4)が見られる。また、沈線や隆線で退化した渦巻文が描かれるもの(第44図6・第63図7・第77図4等)がある。一方、波状口縁となるものには、おたまじゃくし形に退化した縦位の渦巻文が描かれ、磨消が発達しはじめのもの(第40図1・3・4・第70図4等)が見られる。浅鉢に関しては、口縁部が内傾あるいは外反するもの両者があり、口縁部を除く器面全体に多様な条線を描いたものが多く見られる。これらの土器は、大木9式期の中でも比較的古い様相を示すものと考えられる。

第V群土器

深鉢、浅鉢を除くその他の器形を一括する。第76図3は小型の壺である。一部欠損するものの、ほぼ完形に近い。バランスのとれた三角形を呈し、頂に大きめのつまみが作られる。つまみは3方向に大きな窪みをもち、すき間に小さな窪みをもつ。器面には5条の山形の沈線が描かれる。所属する時期は、共存する土器から、大木8 b式期と考えられる。

第50図1は高さ6.1cm、推定される上面径は9cm、脚部径は14cmの台形を呈する。器面には放射状の沈線と、同じく沈線で描かれた渦巻文が施される。第80図13は、上面に孔が設けられたものである。器面にはミガキ調整が施される。この2点とも器台と考えられ

る。

第68図3・4・第80図15・16は、注口土器である。第68図3の様なドーナツ状を呈し、口は一箇所だけ設けられるものである。内部の断面形は卵形で、底面が安定する。口は上向きに開き、内容物の流出をさける働きをしたものと考えられる。器面には沈線の伴う隆線で有轡渦巻文が描かれる。第80図15・16は浅鉢状の器形に注口が設けられたものと考えられる。15は管状の注口をもたず、孔のみである。器面は無文でミガキ調整である。16は管状の注口をもつ。器面には沈線と沈線が伴う隆線で渦巻文が描かれる。第86図4は注口のみ資料で、形状は不明である。沈線が伴う隆線による文様が認められる。これらも大木8b式期の所産と考えられる。

第39図10・第64図10・第76図8・第80図11・12は小型土器である。深鉢形を呈するものは器高約7~12cm程のものである。内面の調整が不十分で粘土粒の痕跡が明瞭に見られるものもある。器面は無文、縄文、沈線文等が認められ、口縁部に隆線や孔で裝飾するものも見られる。浅鉢形には、口縁部に隆帯をもつもの、波状口縁となり、沈線による渦巻文が描かれるもの等が見られる。その他破片資料で小型土器と考えられるものが10点程出土している。

2 土偶 (第80図20・21・第82図1・2)

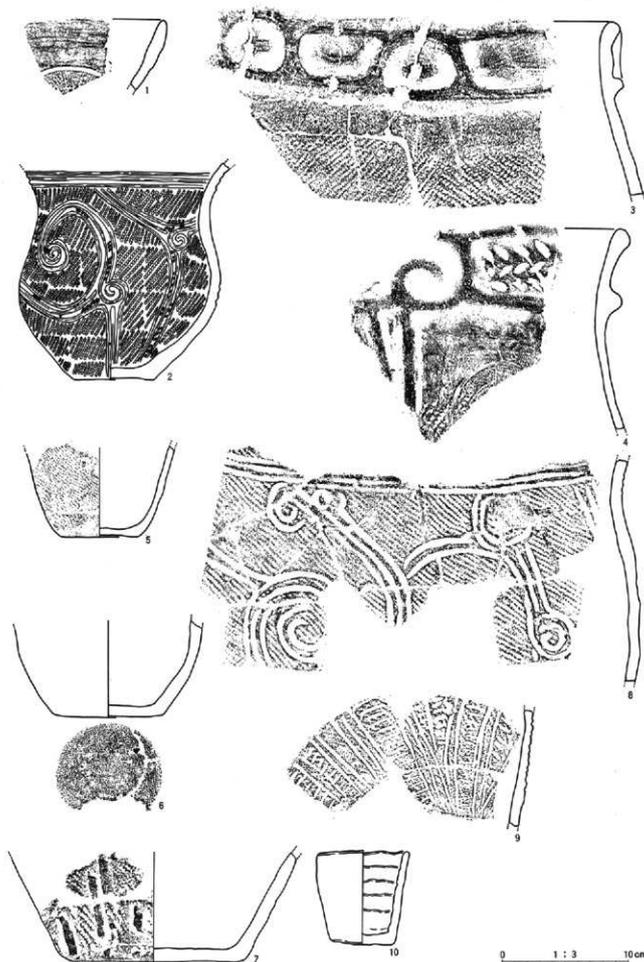
土偶と認められるのは、破片資料も含めて4点の出土である。第82図2は板状土偶の完形品である。長さ5cm、腕部幅4.9cm、厚さ1.1cmである。腕部を横方向に広げた十字架状を呈する。顔や体の特徴は表現されておらず、一見表裏も不明瞭であるが、頭部と脚部の先端がわずかに引き出される方が正面と考えられる。第82図1は頭部資料である。目、口を窪みで表現している。後頭部には沈線で渦巻状の文様が描かれる。第80図20は右脚部と思われる資料である。胴部が中空になるものと考えられる。表現されるものは認められない。第80図21は腕部の資料と考えられるが、左右どちらかは不明である。両面とも沈線が施され、先端部には渦巻状の文様が見られる。

3 円盤状土製品 (第81図)

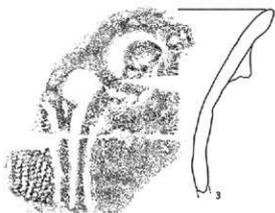
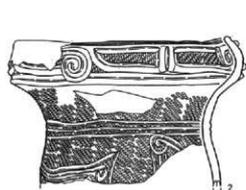
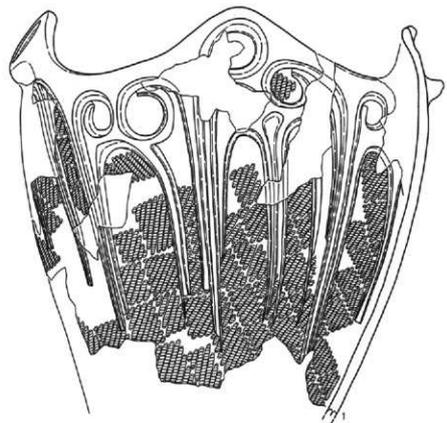
16点の出土である。厚さは1cm前後で、ほぼ均一である。大きさは、最小径2.8cm、最大径7.7cmを測り、大小様々である。

4 その他の土製品

第82図8は管状土製品の先端部である。舟形町西ノ前遺跡から同様の資料が得られている。第80図18は小型土器の脚部と考えられるもの。14・19は不明である。

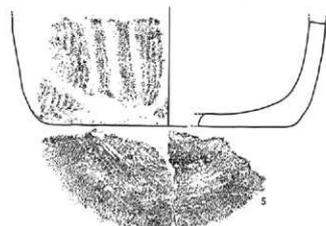
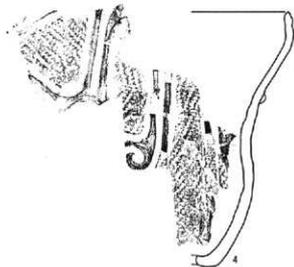
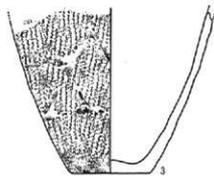
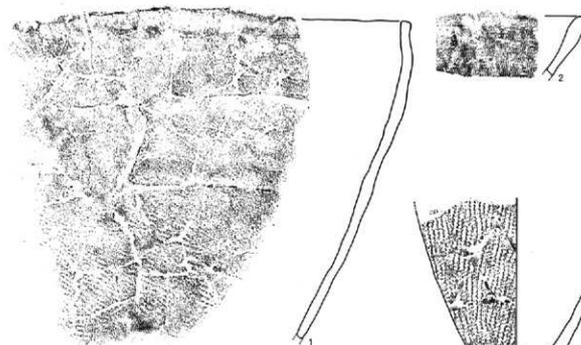


第39図 ST 1 出土土器



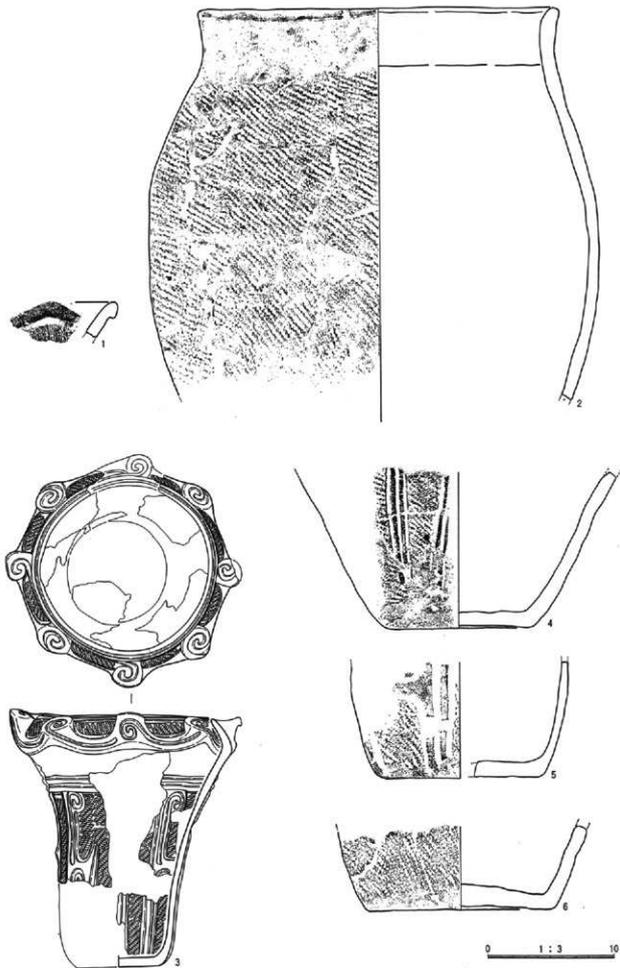
0 1:3 10 cm

第40圖 ST 1・ST 2出土土器

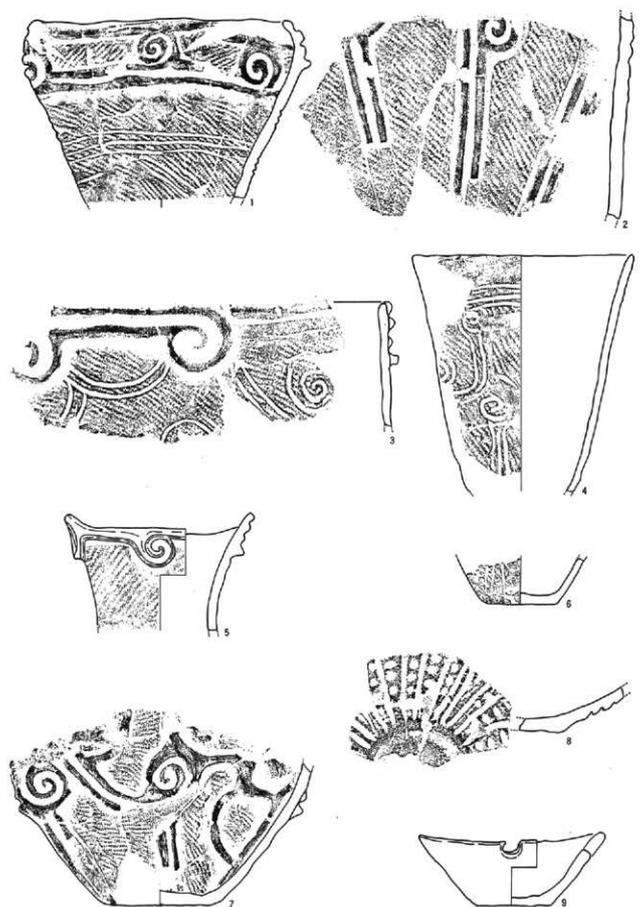


0 1:3 10 cm

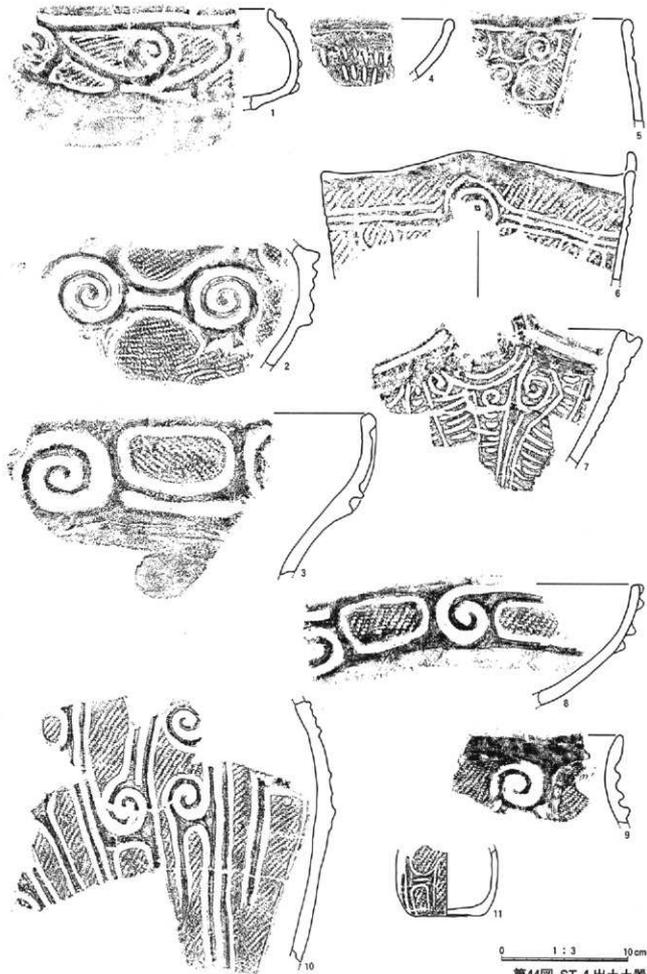
第41圖 ST 2出土土器



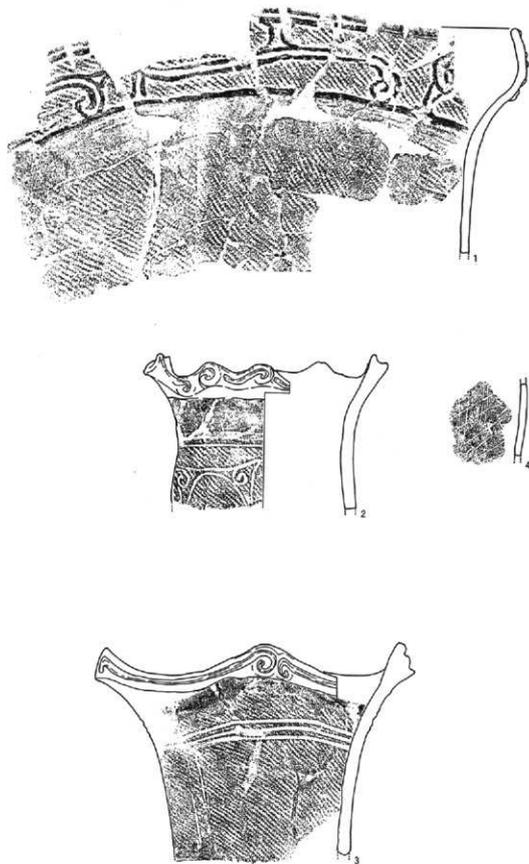
第42图 ST 2・ST 3 出土土器



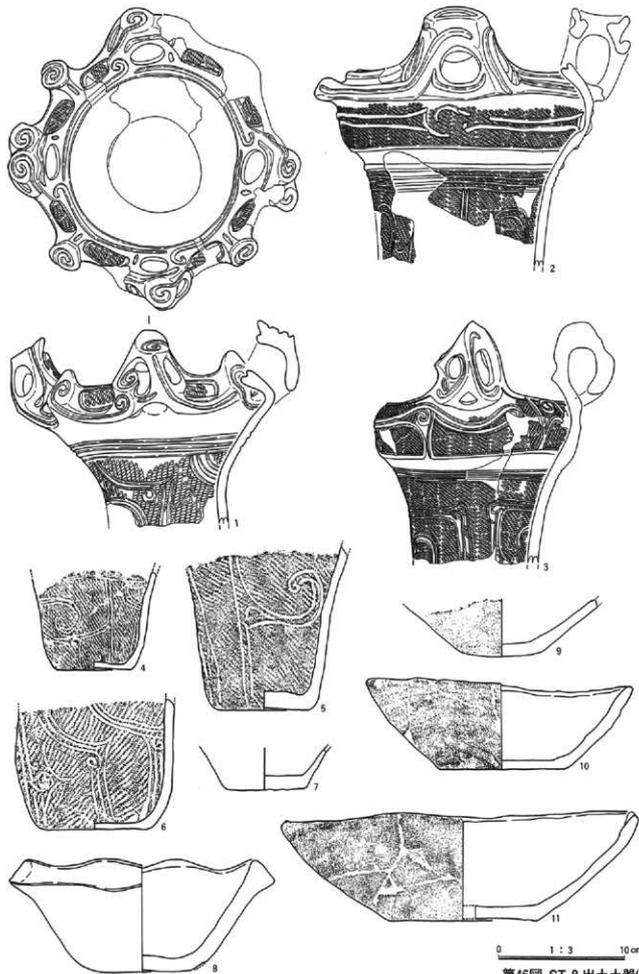
第43图 ST 3 出土土器



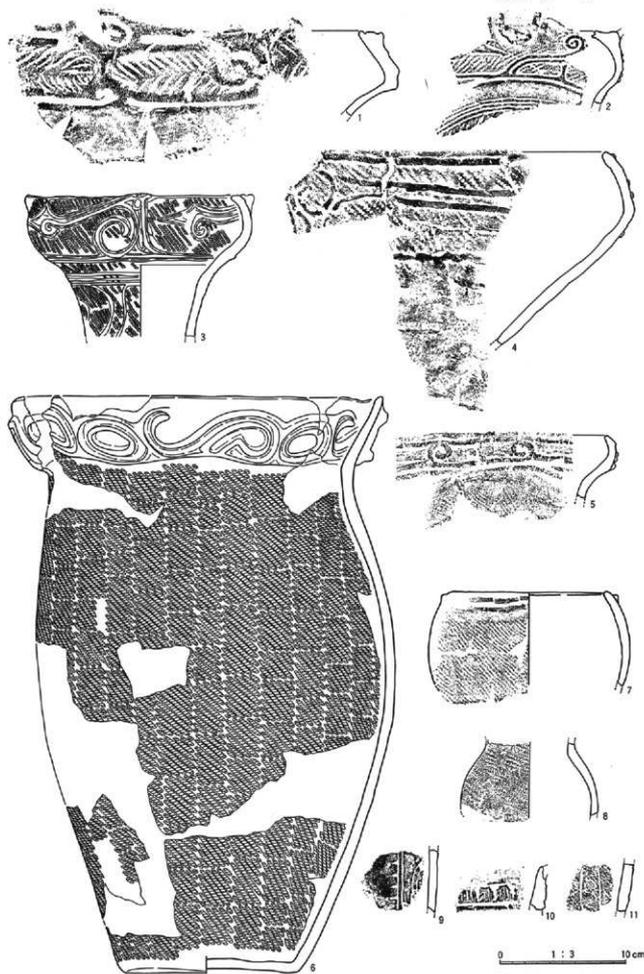
第44圖 ST 4 出土土器



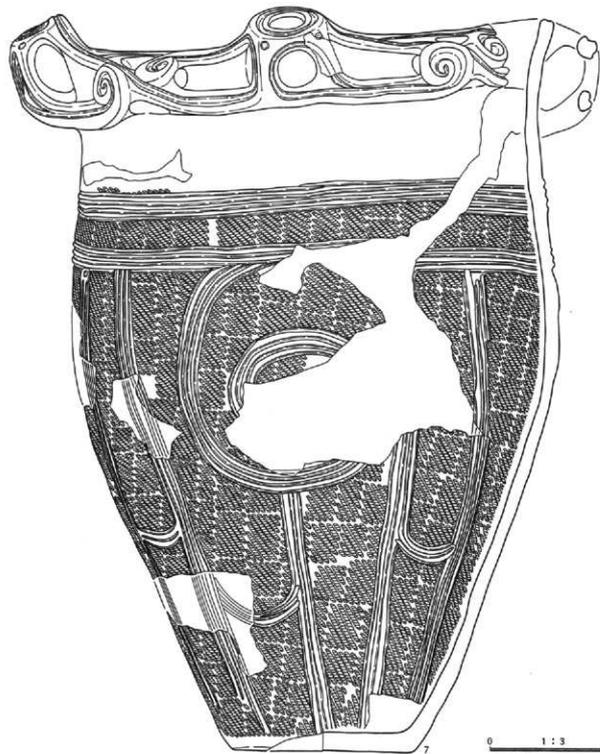
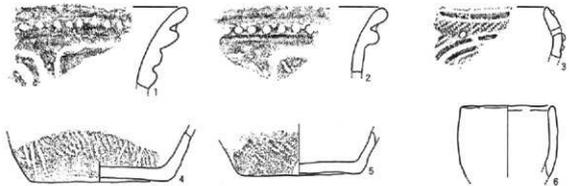
第45圖 ST 5 出土土器



第46图 ST 8 出土土器(1)

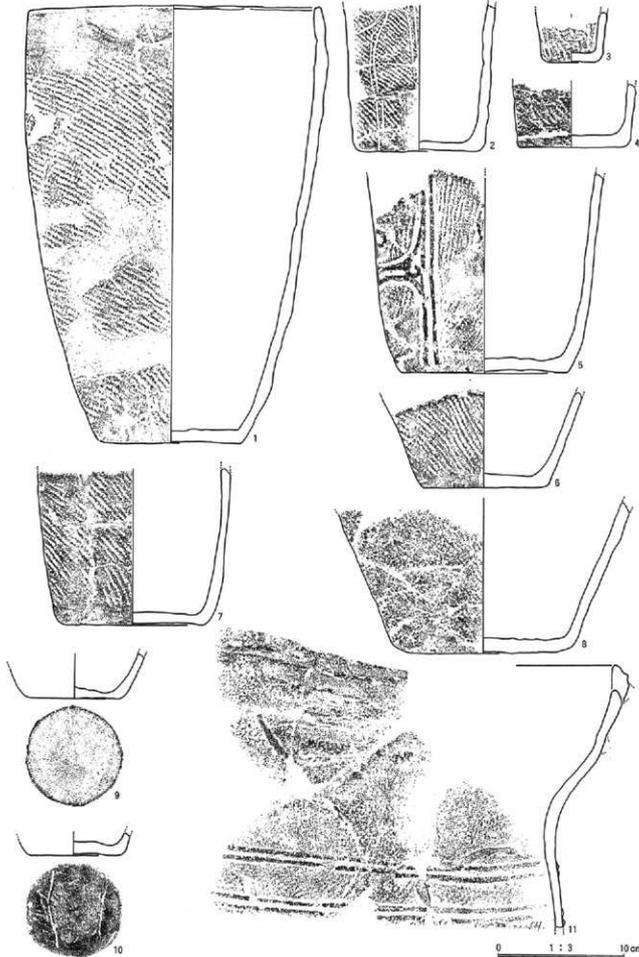


第47图 ST 8 出土土器(2)



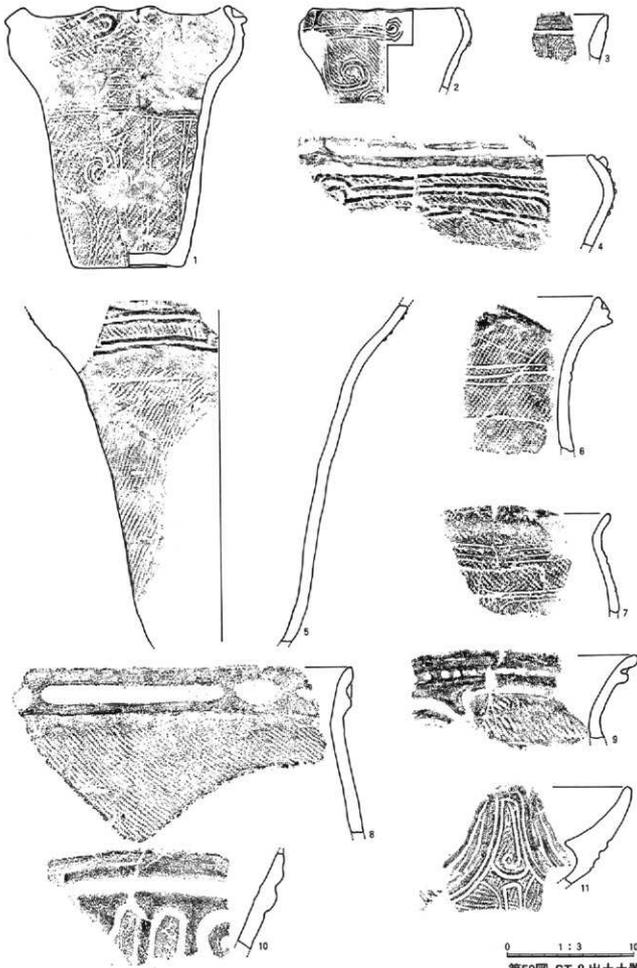
0 1 : 3 10cm

第48图 ST 8 出土土器(3)

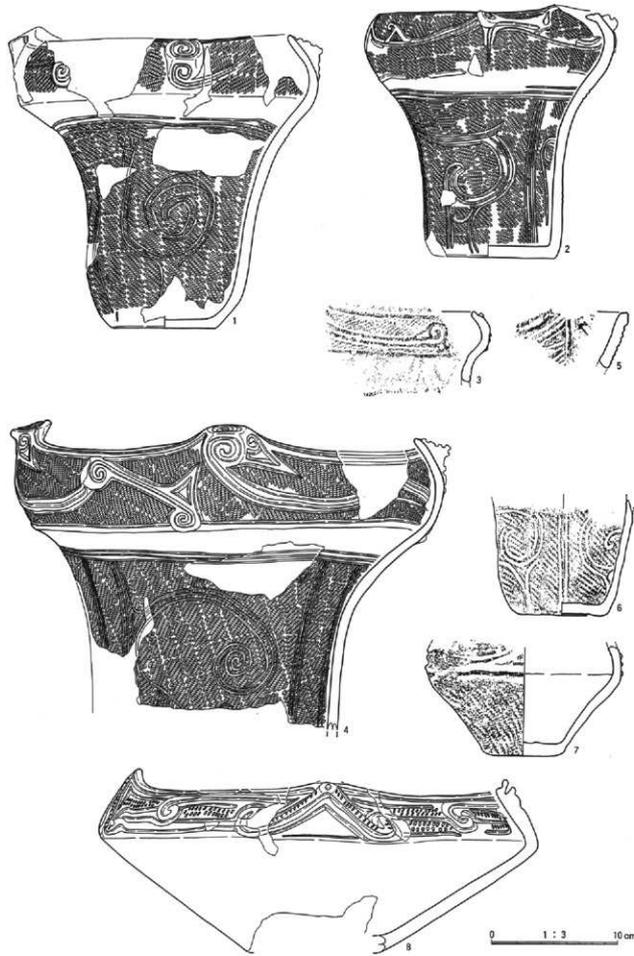


0 1 : 3 10cm

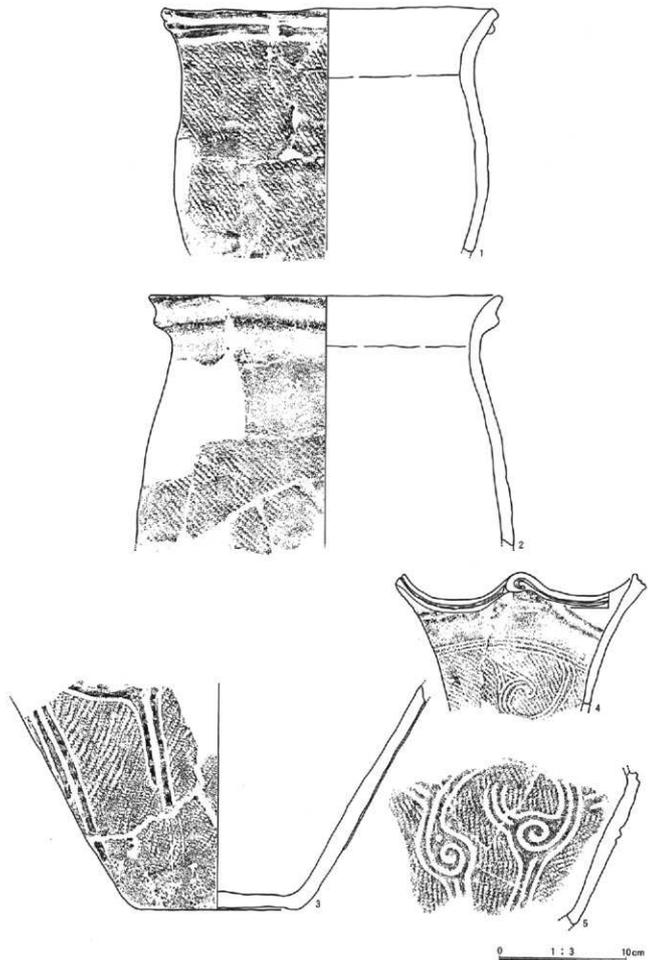
第49图 ST 8 出土土器(4)



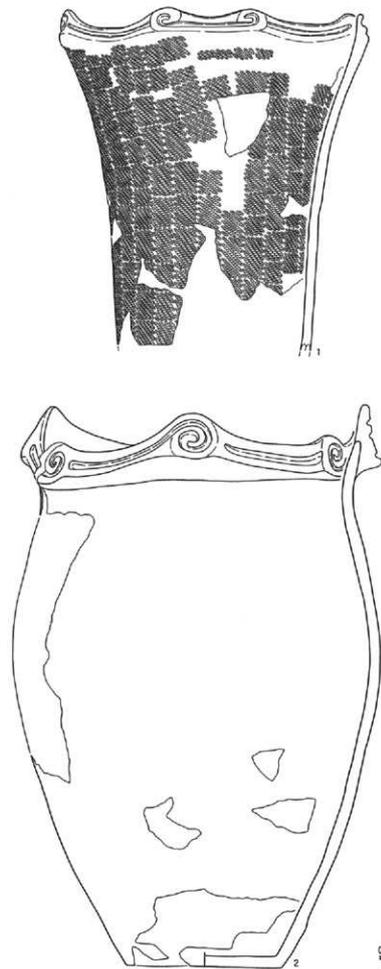
第50圖 ST 8出土土器(5)



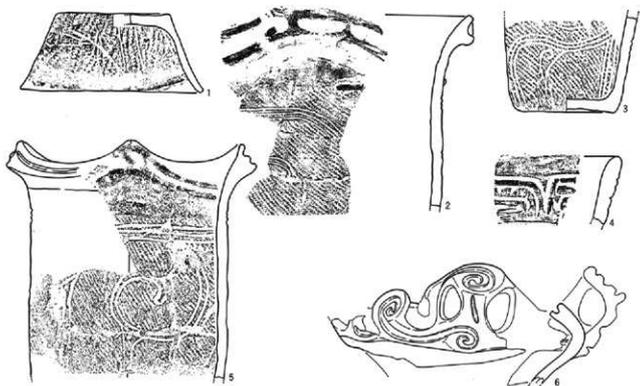
第51圖 ST 11出土土器(1)



第52圖 ST11出土土器(2)

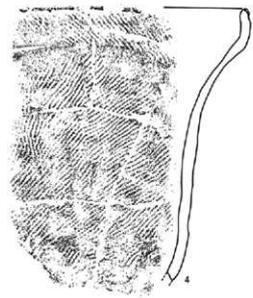
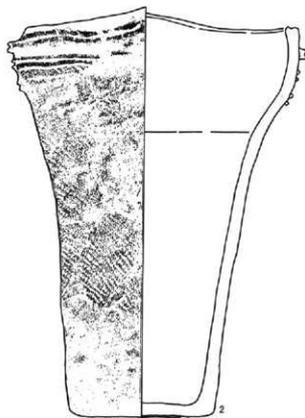
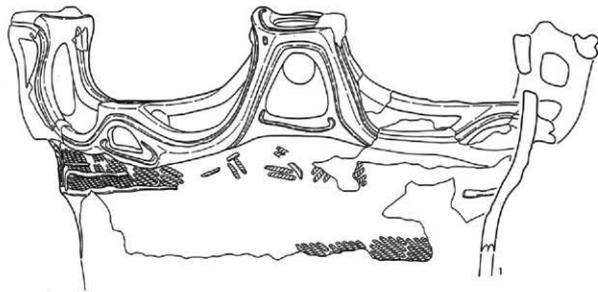


第53圖 ST11出土土器(3)



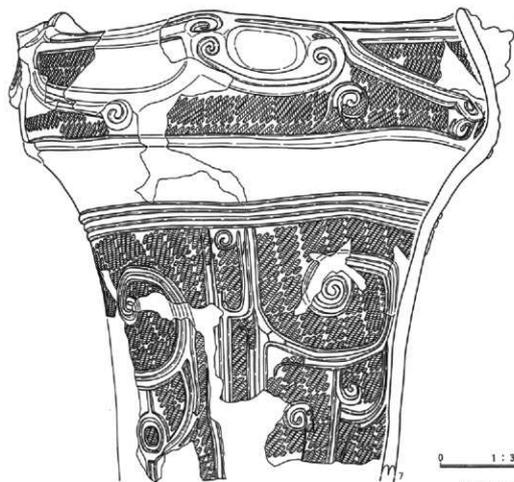
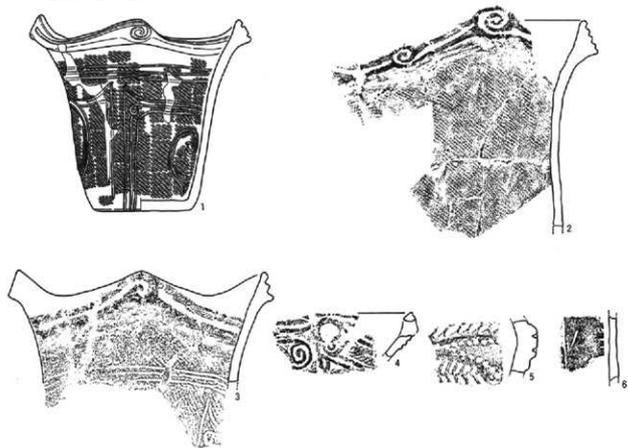
0 1 : 3 10cm

第54圖 ST 9・ST 10・ST 12出土土器



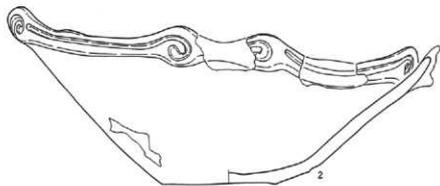
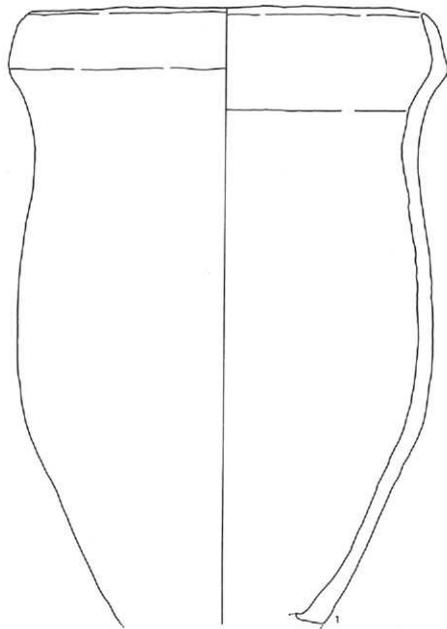
0 1 : 3 10cm

第55圖 ST 12・ST 13・ST 14出土土器(1)



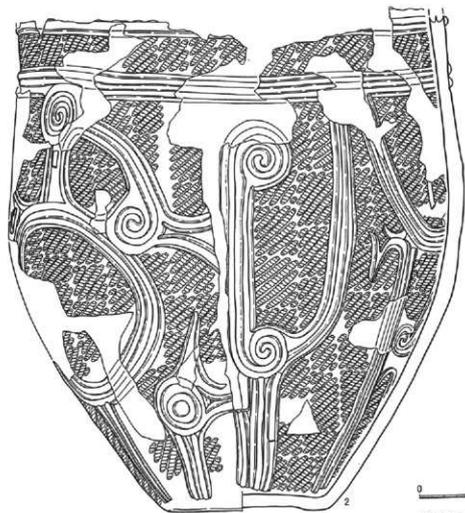
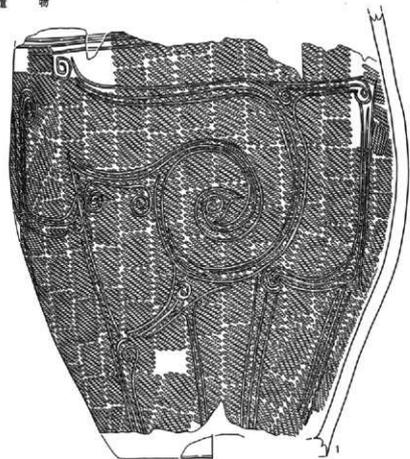
0 1 : 3 10 cm

第56图 ST14出土土器(2)



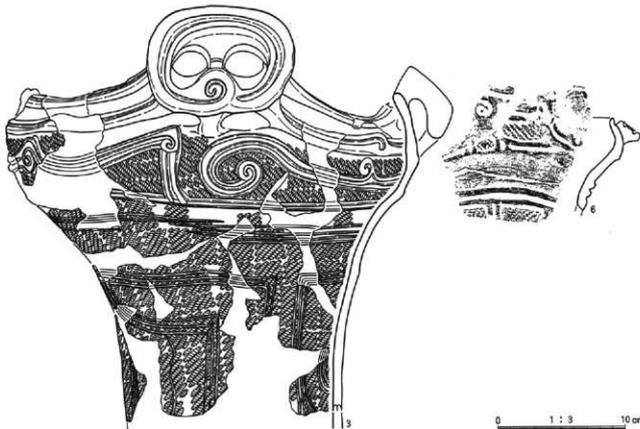
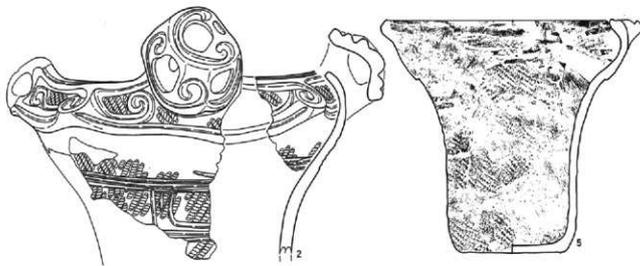
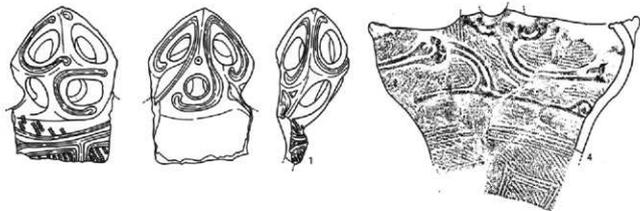
0 1 : 3 10 cm

第57图 ST14出土土器(3)



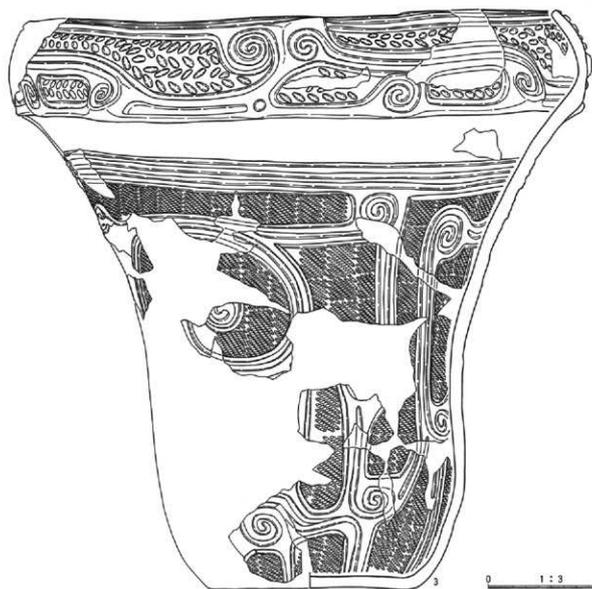
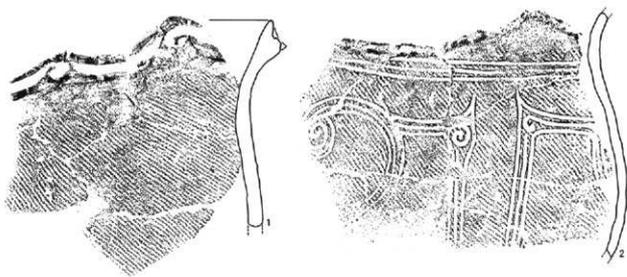
0 1:3 10cm

第58圖 EU25・26出土土器



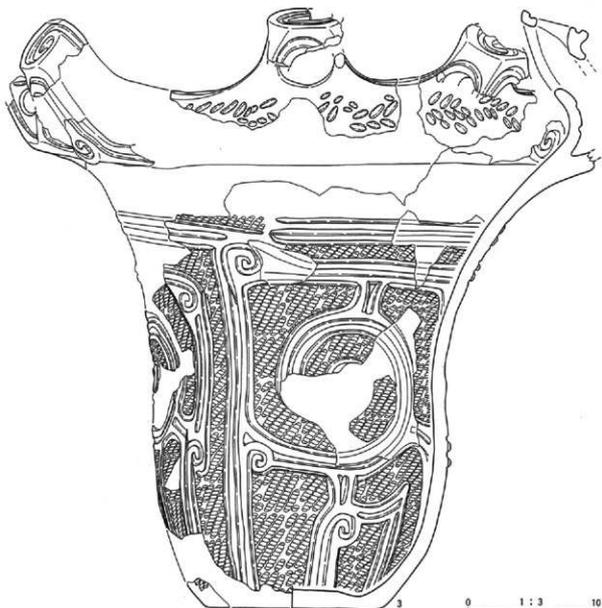
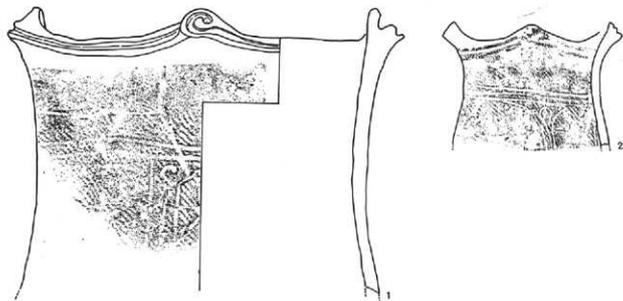
0 1:3 10cm

第59圖 ST15出土土器(1)



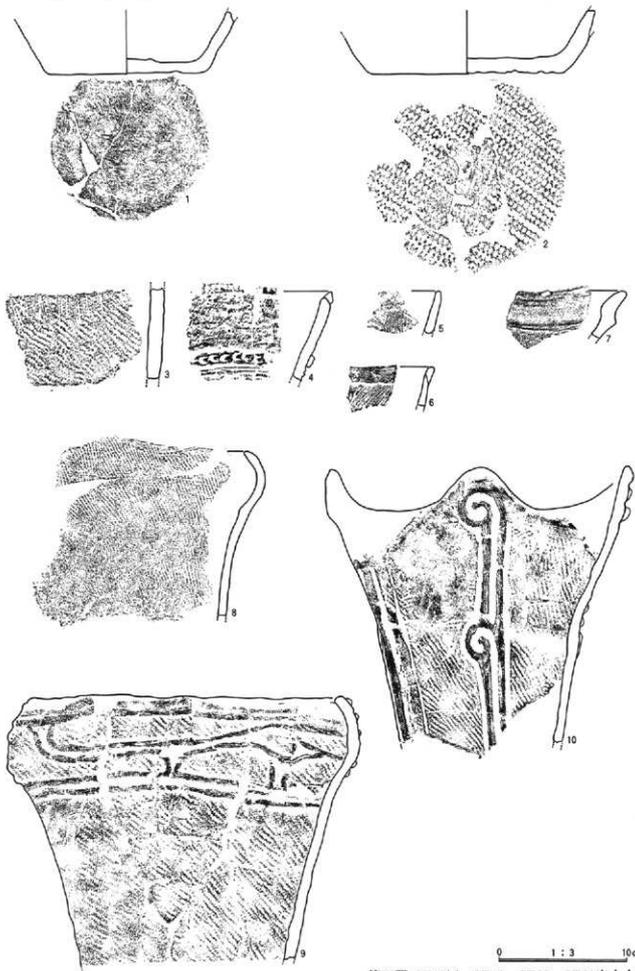
0 1:3 10cm

第60圖 ST15出土土器(2)

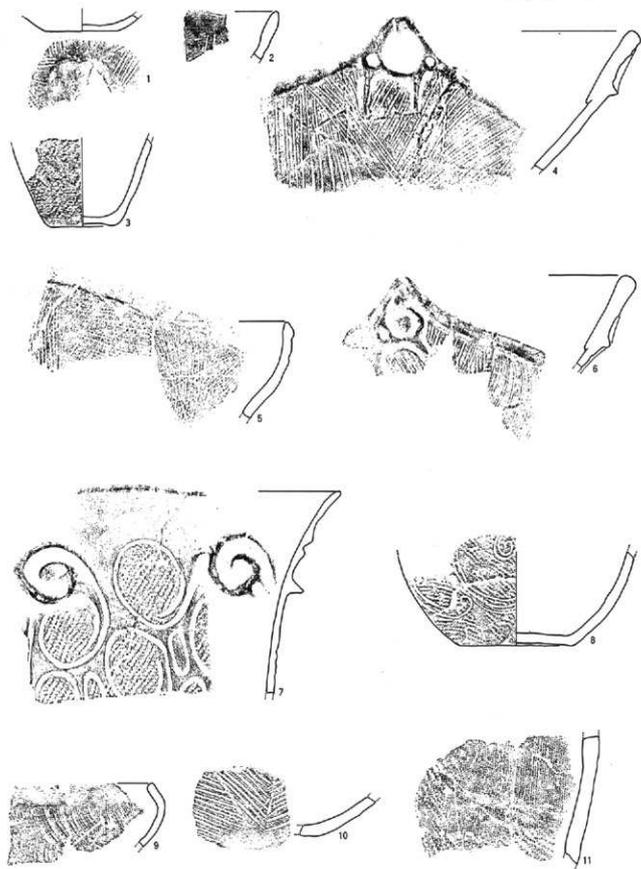


0 1:3 10cm

第61圖 ST15出土土器(3)



第62図 ST15(4)・ST18・ST20・ST21出土土器

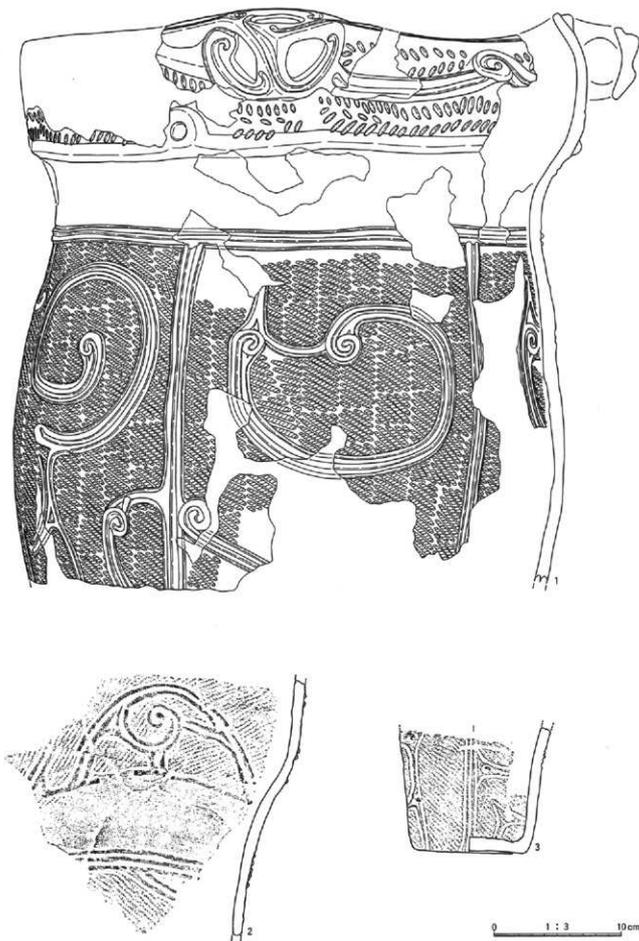


第63図 ST24・ST60・ST61・ST63出土土器



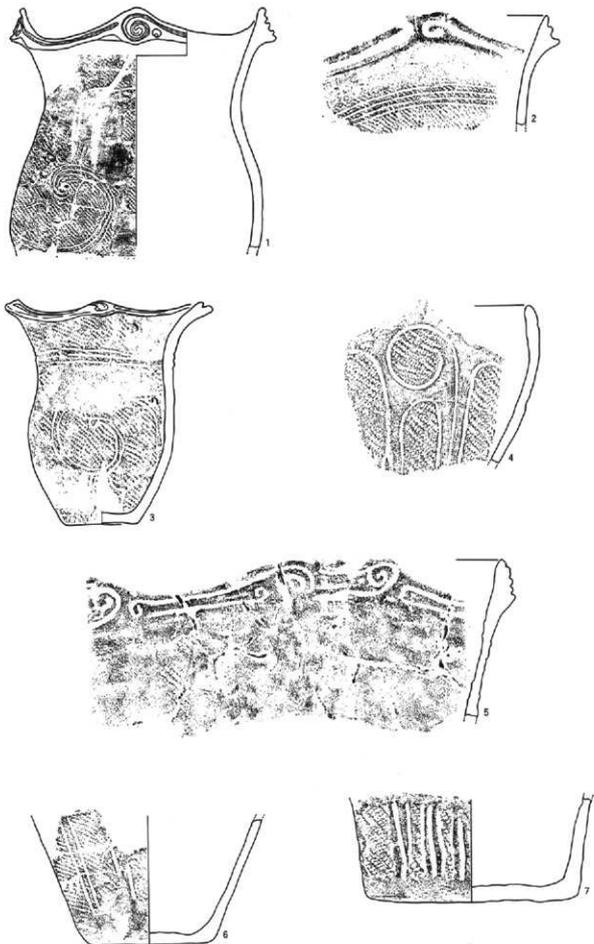
0 1:3 10cm

第64圖 ST70出土土器(1)



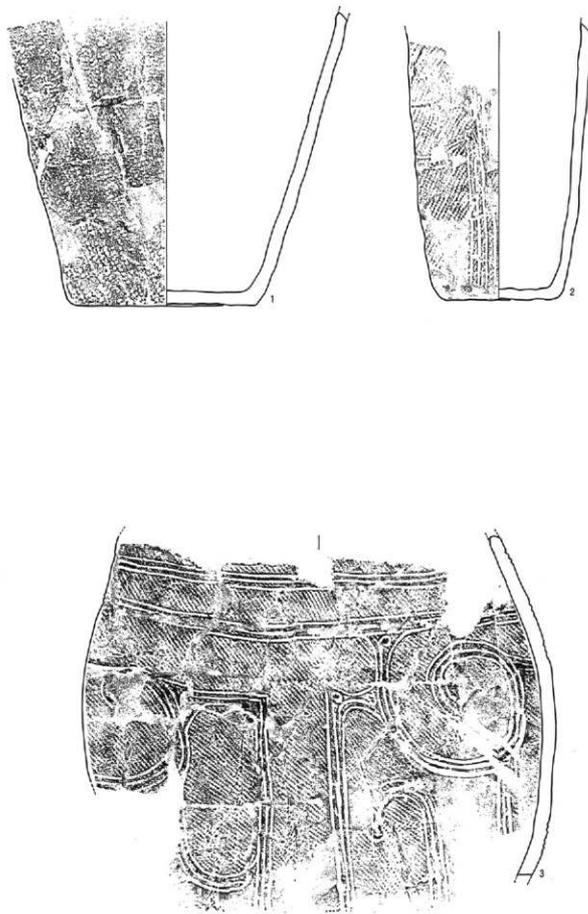
0 1:3 10cm

第65圖 ST70出土土器(2)



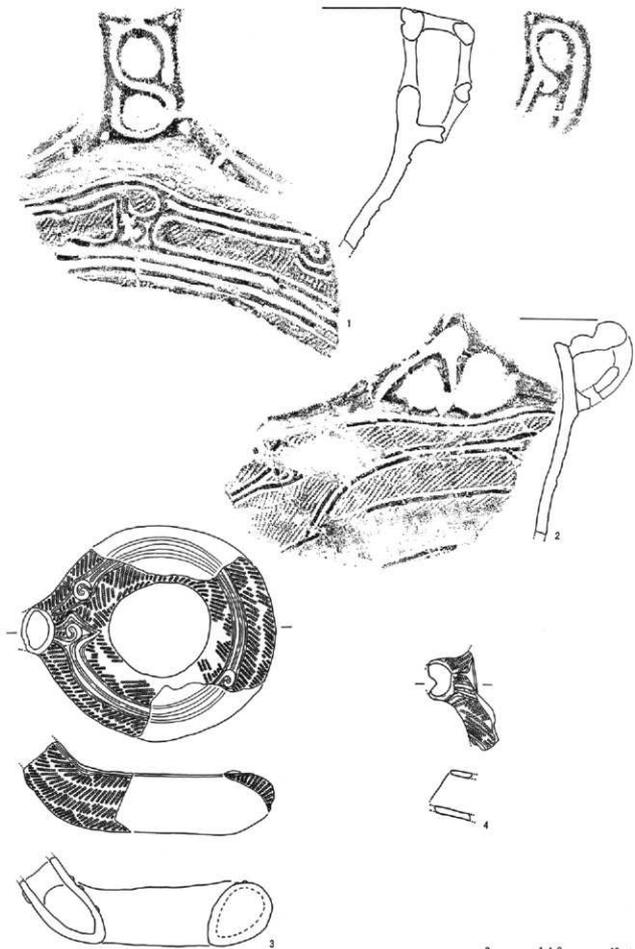
0 1:3 10cm

第66圖 ST70出土土器(3)

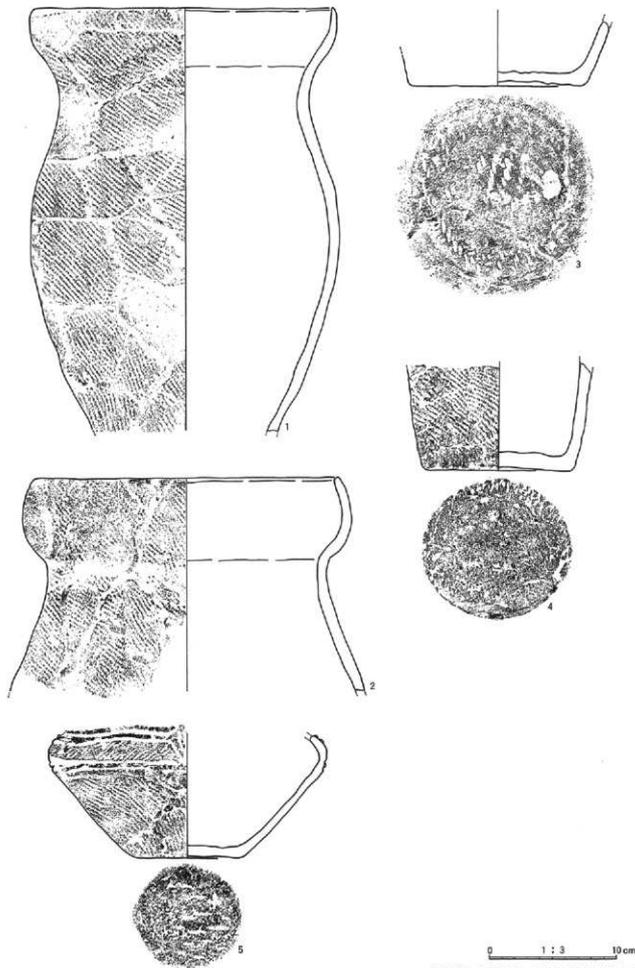


0 1:3 10cm

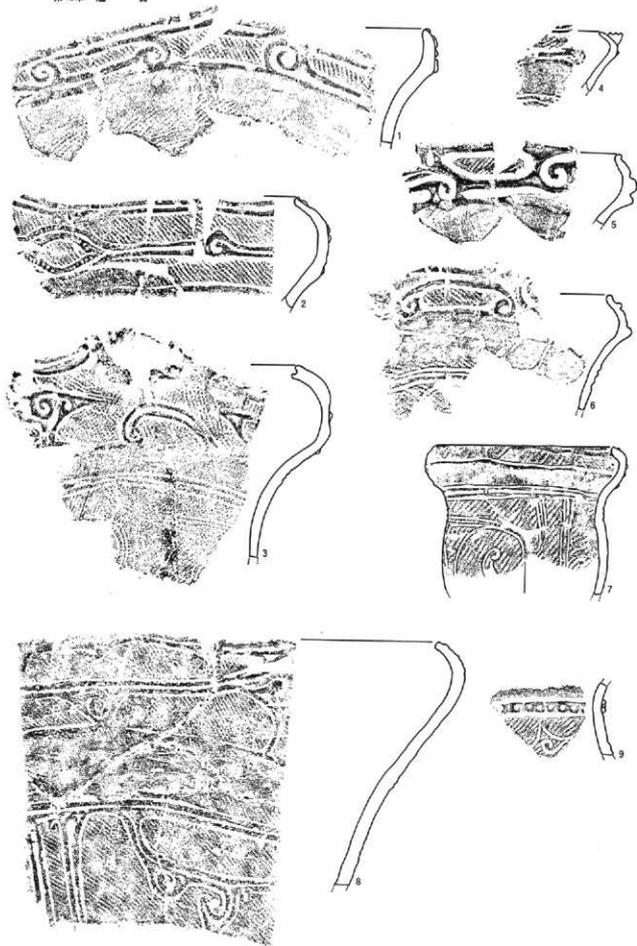
第67圖 ST70出土土器(4)



第68圖 ST70出土土器(6)

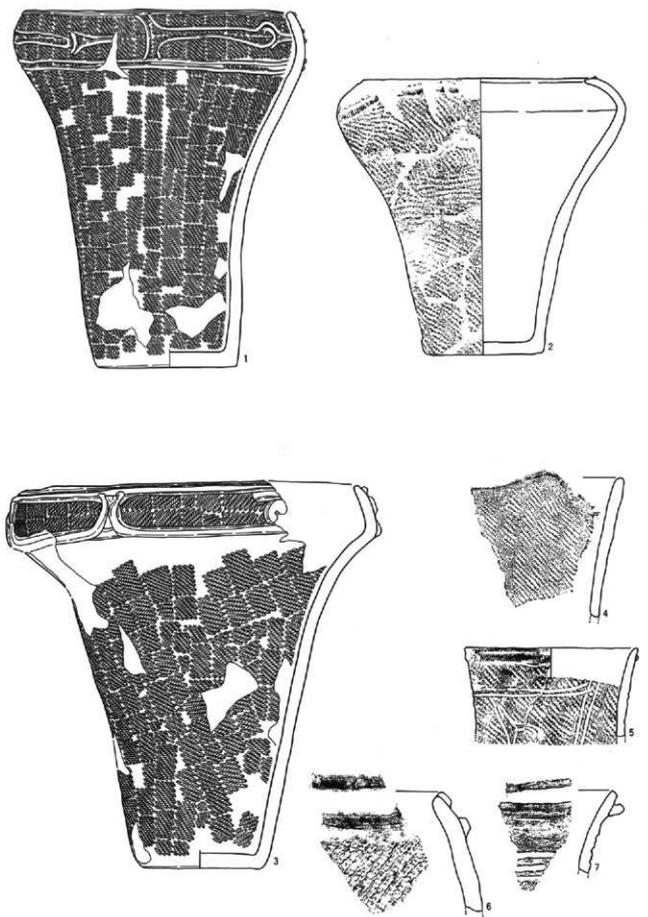


第69圖 ST70(6)・ST78出土土器(1)



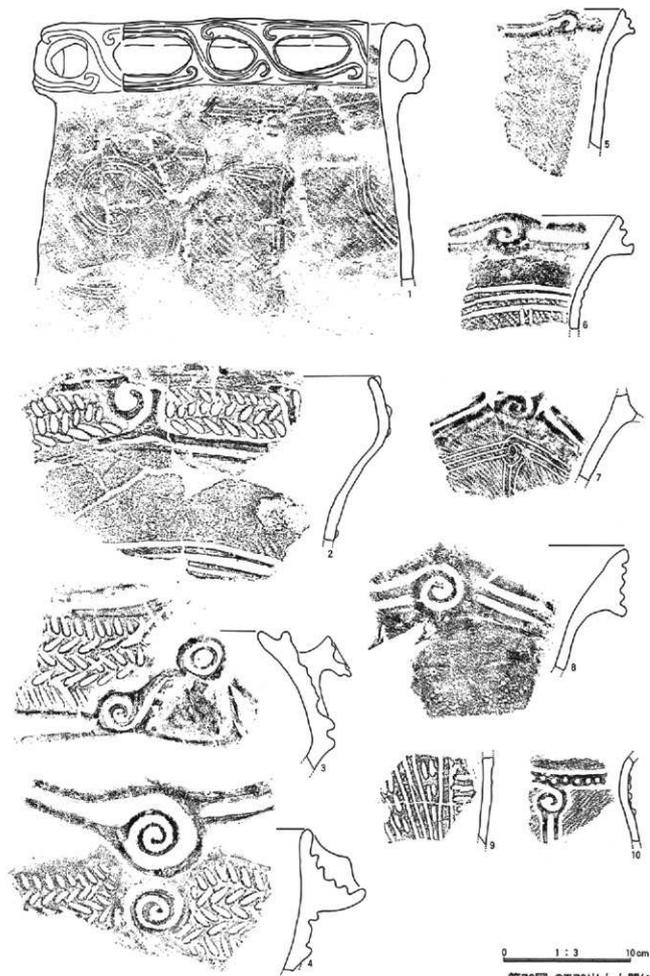
0 1 : 3 10 cm

第70圖 ST78出土土器(2)

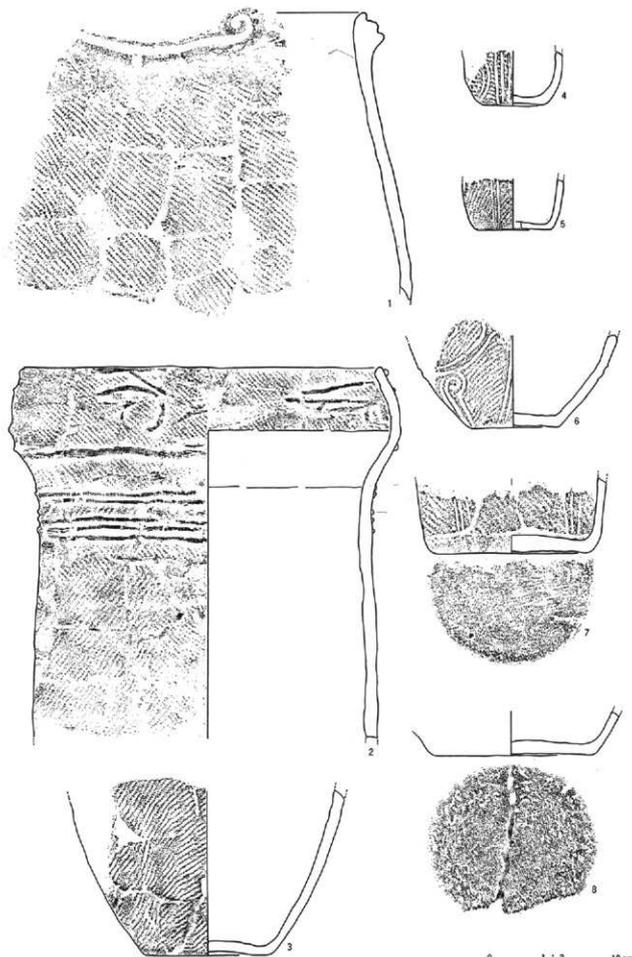


0 1 : 3 10 cm

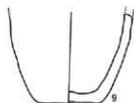
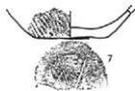
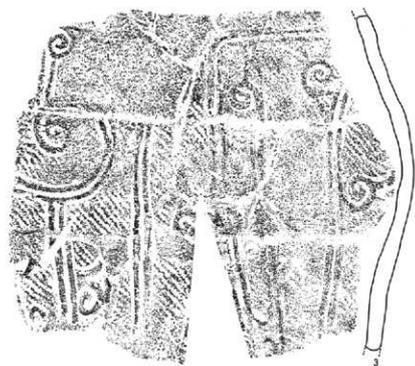
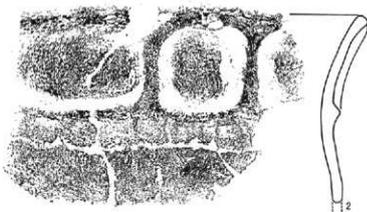
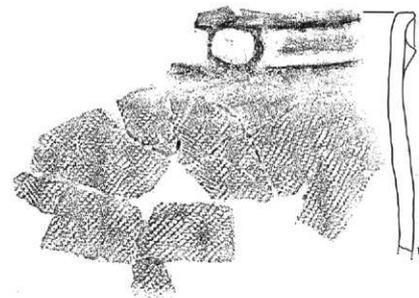
第71圖 ST78出土土器(3)



第72図 ST78出土土器(4)

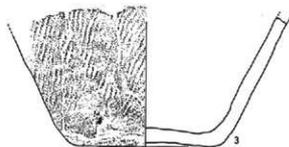
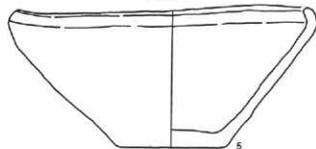
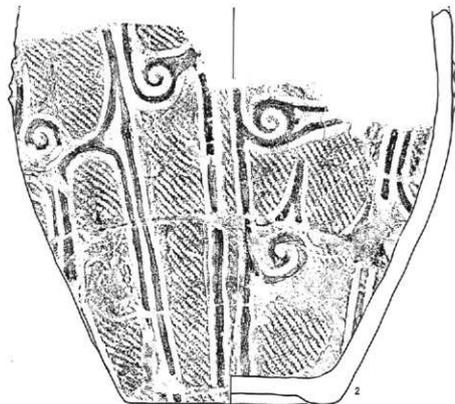
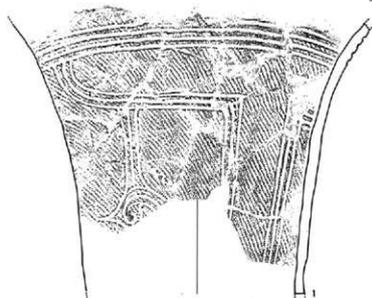


第73図 ST78出土土器(5)



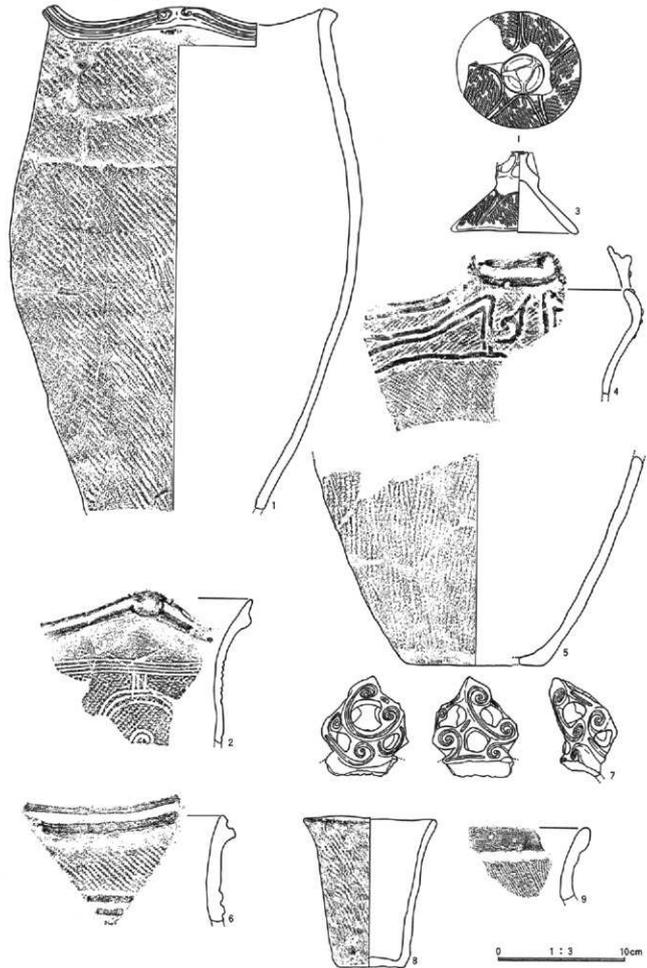
0 1:3 10cm

第74圖 ST78出土土器(6)

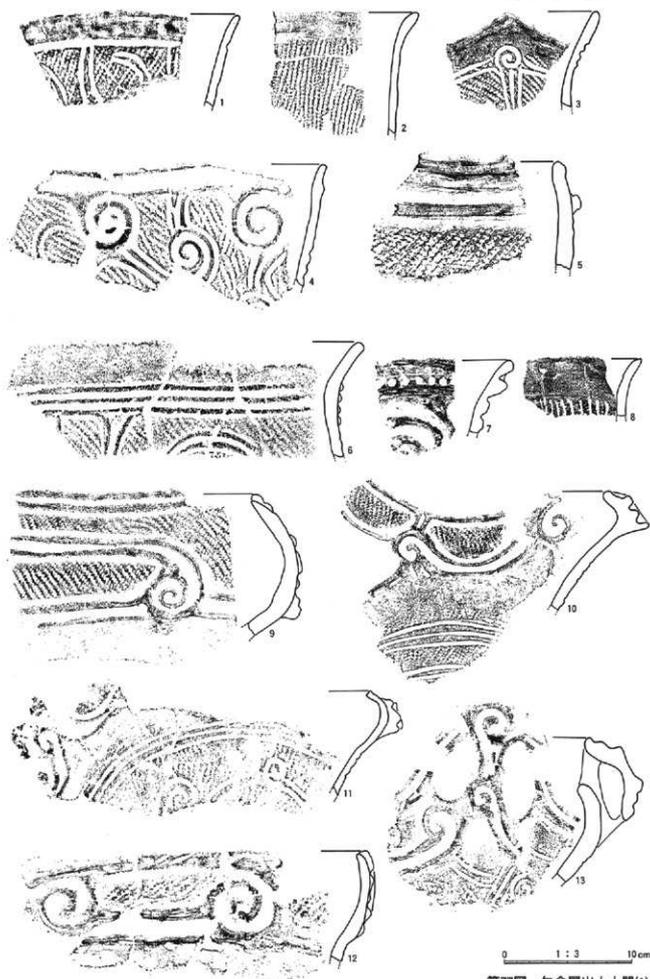


0 1:3 10cm

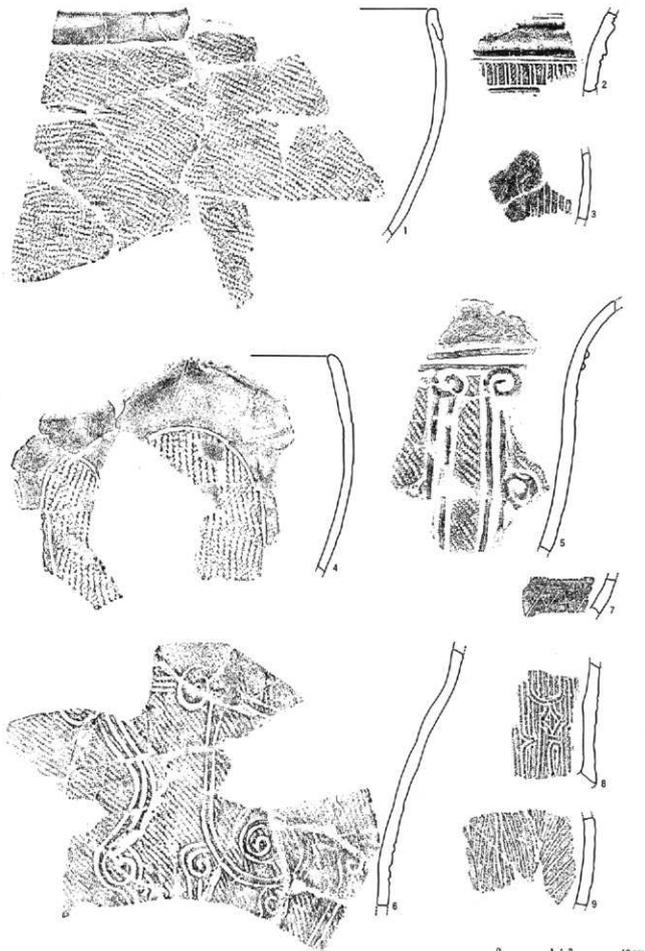
第75圖 ST78出土土器(7)



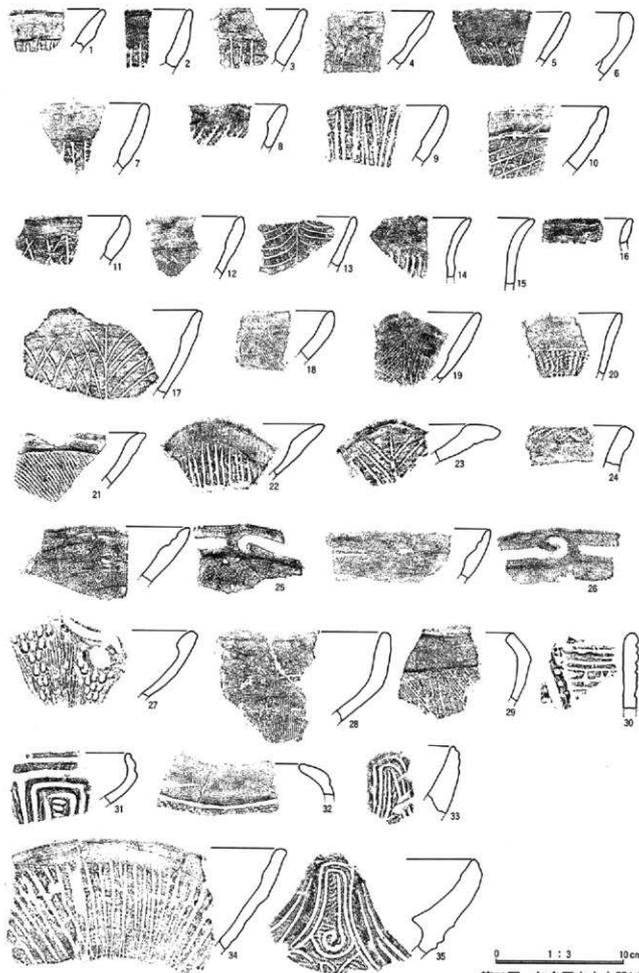
第76図 ST80・ST87・SG137・トレンチ出土土器



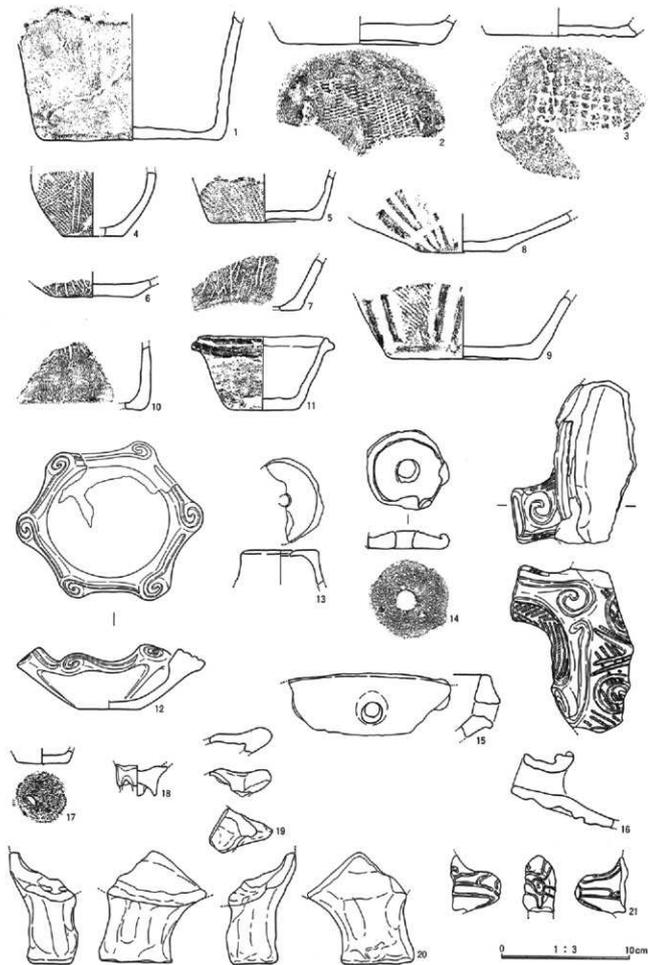
第77図 包含層出土土器(1)



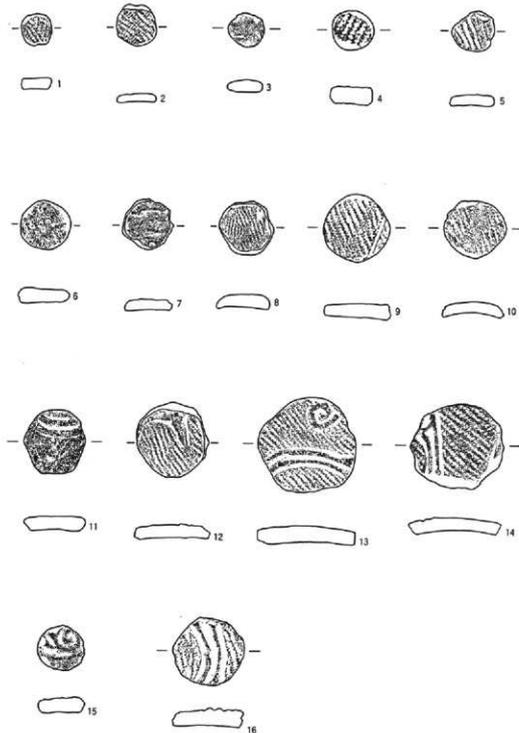
第78図 包含層出土土器(2)



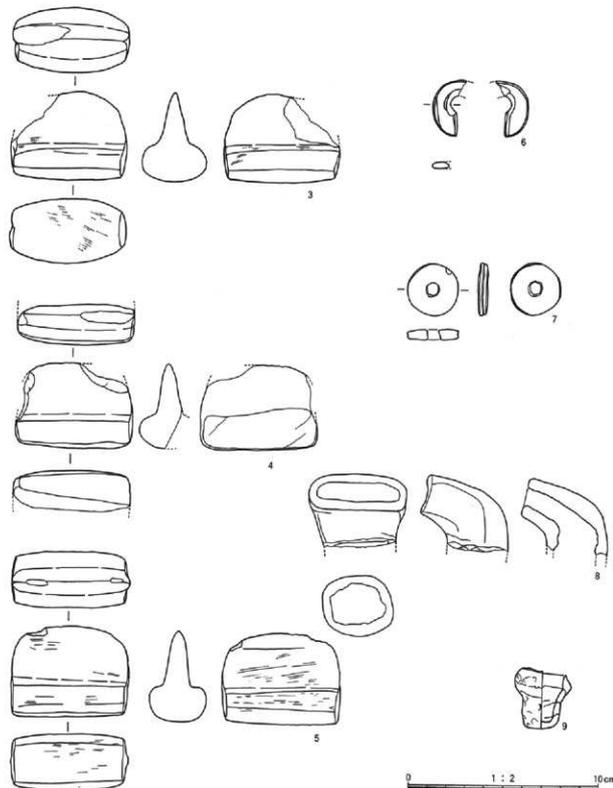
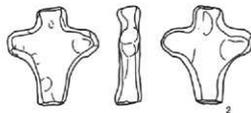
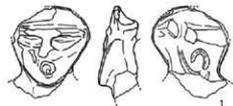
第79図 包含層出土土器(3)



第80圖 包含層出土土器(4)・土製品



第81圖 円盤状土製品



第82図 土偶、土製品、石製品

5 石器

今回の調査で出土した石器は、総数1,031点である。その内訳は、打製石器469点、石核6点、磨製石器35点、2次調整が見られるものは96点である。礫石器は425点である。以下、各器種毎に概要を述べる。

石 鏃 (第83図・図版57・58)

出土数は88点、内23点が完形品である。石材はほとんどが頁岩であるが、黒曜石を石材とするもの5点の他メノウ、鉄石英、玉髓質のものが若干認められる。第83図1、3、6、7、9、11、22、25、31、35、42を含む15点の着柄部両面にアスファルトの付着が認められた。以下のように分類できる。

I類：基部に挟り込みの入るもの。

- a 1：丸味を帯びた深い挟り込みを持つもので、尖頭部の長いもの。22点
- a 2：丸味を帯びた深い挟り込みを持つもので、尖頭部の短いもの。7点
- b：「く」字状の浅い挟り込みを持つもの。5点
- c：半円状の浅い挟り込みを持つもの。12点
- d：凹弧状のわずかな挟り込みを持つもの。3点

II類：基部が丸味を帯びるもの。円基鏃。1点

III類：基部が茎を持つもの。有茎。3点

IV類：尖頭器と似た形状を持つが、大きさからみて尖頭器とは成り得ないもの。6点

V類：基部が長い、尖頭部中頃で肩が張るものなど、特殊な形態となるもの4点

VIa類：折損して基部の形状が不明なもの。8点

VIb類：未製品。17点

尖頭器 (第84図46~51点図版58)

出土数は6点、内完形品1点である。石材はすべて頁岩である。2種類に分類できる。

I類：槍先形の形となり、厚みのあるもの。4点

II類：木葉形の形となり、薄手のもの。2点

石 鏃 (第84図52~68・第85図69~81・図版59・60)

出土数は38点1、内完形品20点である。石材はメノウ1点の他はすべて頁岩である。4類に分類できる。

I類：尖頭部と基部の境にノッチが入り、その境界が明瞭なもの。

- a：長い尖頭部を持つもの。14点
- b：尖頭部の短いもの。幅広の基部を持つ。4点

II類：細長い棒状の形態を持ち、基部と尖頭部の境界が不明瞭なもの。両面加工となる。10点

Ⅲ類：素材となる剥片の形を大きく変えることなく、刃部を作り出したもの。7点
Ⅳ類：基部資料。3点

石 匙（第85図82～88・第86図・第89図・図版60～62）

出土数は81点、内48点が完形品である。鉄石英、メノウ、黒曜石を石材とするものが各々1点、不明3点の他は頁岩が占める。第86図96、第87図110、第89図140・143を含む5点のノッチの入った部分にアスファルトが付着する。3類16種に細分できる。

I類：つまみを上方に置いた時に側縁が刃部となる経型のもの。

- a：つまみを上にした時に両側縁が左右対称となるもの。
- a 1：尖頭器様の尖頭部を持ち、両面加工となるもの。2点
a 2：尖頭器様の尖頭部を持ち、片面加工となるもの。1点
a 3：先端部が幅広く、両面加工となるもの。2点
a 4：先端部が幅広く、片面加工となるもの。1点
a 5：その他定型を認められないもの。2点
- b：つまみを上にした時に両側縁が左右対称とならないもの。
- b 1：体部から先端が右に傾くもので、左側縁が凸弧を描き、右側縁が直線状になるもの。両面加工。6点
b 2：体部から先端が右に傾くもので、左側縁が凸弧を描き、右側縁が直線状になるもの。片面加工。14点
b 3：体部から先端が右に傾くもので、左側縁が「く」字状に曲がって肩を張り、右側縁が凸弧を描くもの。4点
b 4：体部から先端が右に傾くもので、左側縁は直線状、右側縁が凸弧を描くもの。1点
b 5：体部から先端が左に傾くもので、右側縁が凸弧を描き、左側縁が直線状となるもの。両面加工。2点
b 6：体部から先端が左に傾くもので、右側縁が凸弧を描き、左側縁が直線状となるもの。片面加工。11点
b 7：体部から先端が左に傾くもので、右側縁が「く」字状に曲がって肩を張り、左側縁が凸弧を描くもの。6点
b 8：体部から先端が左に傾くもので、右側縁は直線状、左側縁が凸弧を描くもの。2点

Ⅱ類：つまみを上方に置いた時、その下端の縁辺が刃部となる横型のもの。

- a：両面加工となるもの。2点
b：片面加工のもの。3点

Ⅲ類：折損していて側縁形態が不明なもの。14点

石 鏡（第90～93図・図版62・63）

出土数は102点、内40点が完形品である。石材は、玉髄質のもの2点、鉄石英のもの1点、他はすべて頁岩である。また第95図153他2点にアスファルトが付着する。これらは6類17種に分類できる。

I類：両面加工となるもの。

- a 1：断面が厚く、三角形となるもので、刃部は丸味を帯びるもの。12点
a 2：断面が厚く、三角形となるもので、刃部は直線状となるもの。3点
b：断面の角度が小さくて全体的に平らなもの。刃部は丸味を帯びる。5点
c：素材のほぼ全面が調整加工で覆われるもの。2点
d：刃部に自然面、剥離面を残すもの。10点
e：刃部が尖頭状にとがり、厚みがあるもの。8点
f：刃部が片刃に近い状態となるもの。6点

Ⅱ類：片面加工となるもの。

- a 1：刃部調整が直線に近い角度で施される。主要剥離面に浅い加工が認められるもの。1点
a 2：刃部調整が直線に近い角度で施される。主要剥離面に調整が認められないもの。2点
b 1：刃部調整が石器全体の長さの約1/2の位置にまで及び、鋭角的な調整が施されるもの。主要剥離面に浅い加工が認められるもの。2点
b 2：刃部調整が石器全体の長さの約1/2の位置にまで及び、鋭角的な調整が施されるもの。主要剥離面に調整が認められないもの。2点
c：断面が円弧状となり、主要剥離面側は刃部のみに浅い加工が認められるもの。1点
d：断面に自然面が認められ、周縁部に浅い加工が施されるもの。3点

Ⅲ類：定型を示さないが、長軸先端が刃部と認められるもの。6点

Ⅳ類：撥形であるが、刃部が折損しているもの。28点

Ⅴ類：短冊形であるが、刃部が折損しているもの。9点

Ⅵ類：石鏡の未製品と考えられるもの。2点

接 器（第94図200～第95図226・図版64・65）

出土数は32点である。石材はすべて頁岩である。5類に分類できる。

I類：素材の全周が刃部となり得るもの。6点

Ⅱ類：素材の三縁辺が刃部となり得るもの。13点

Ⅲ類：素材の左側縁と末端が刃部となり得るもの。3点

Ⅳ類：素材の右側縁と末端が刃部となり得るもの。8点

Ⅴ類：素材の長軸先端部に刃部を作り出したもの。2点

削 器 (第95図227~第99図294・図版65-67)

出土数は115点である。石材は鉄石英が1点認められる以外はすべて頁岩である。6類31種に細分できる。

I類：縦長剥片を素材とし、両面加工によって刃部が作り出されるもの。

- a：素材の左側縁が刃部となるもの。1点
- b：素材の右側縁が刃部となるもの。2点
- c：素材の両側縁が刃部となるもの。
 - c1：末端が収斂しないもの。1点
 - c2：末端が収斂するもの。3点
- d：素材の右側縁と末端が刃部となるもの。1点
- e：素材の両側縁と末端が刃部となるもの。1点

II類：縦長剥片を素材とし、両面加工によって作り出された刃部と、片面加工によって作り出された刃部をあわせ持つもの。

- a：素材の左側縁が両面加工の刃部となり、右側縁が片面加工の刃部となるもの。3点
- b：素材の右側縁が両面加工の刃部となり、左側縁が片面加工の刃部となるもの。
 - b1：末端が収斂しないもの。3点
 - b2：末端が収斂するもの。4点
- c：素材の末端が両面加工、両側縁が片面加工の刃部となるもの。3点
- d：素材の右側縁が両面加工、左側縁が片面加工の刃部となるもの。1点
- e：素材の右側縁が両面加工、左側縁と末端が片面加工の刃部となるもの。3点

III類：縦長剥片を素材とし、片面加工によって刃部が作り出されるもの。

- a：素材の左側縁が刃部となるもの。3点
- b：素材の右側縁が刃部となるもの。6点
- c：素材の両側縁が刃部となるもの。
 - c1：左側縁は主要剥離面側に、右側縁は背面側に加工が施されるもの。2点
 - c2：左側縁は背面側に、右側縁は主要剥離面側に加工が施されるもの。1点
 - c3：c2の中で、末端の収斂するもの。1点
 - c4：両側縁に加工が施され、末端が収斂するもの。31点
 - c5：両側縁に加工が施され、末端が収斂しないもの。15点
- d：素材の一侧縁と末端に加工が施されるもの。
 - d1：左側縁と末端が刃部となるもの。1点
 - d2：右側縁と末端が刃部となるもの。4点
- e：素材の三縁辺が刃部となるもの。
 - e1：三縁辺とも背面側に加工が施されるもの。6点
 - e2：両側縁が背面側、末端が主要剥離面側に加工が施される。1点
 - e3：左側縁と末端が背面側、右側縁が主要剥離面に加工が施される。2点

IV類：横長剥片を素材とし、両面加工によって刃部が作り出されるもの。3点

V類：横長剥片を素材とし、両面加工と片面加工の刃部を合わせ持つもの。6点

VI類：横長剥片を素材とし、片面加工によって刃部が作り出されるもの。

- a：素材の末端が刃部となるもの。すべて主要剥離面側に加工が施される。5点
- b：素材の左側縁と末端が刃部となるもの。両側辺とも背面側に加工が施される。1点

異形石器 (第99図296~298・図版67)

出土数は図化した3点のみである。296は完形品で、釣針形、他2点は折損しているものの、297は三日月形、298は落花生形になるものと考えられる。いずれも両面に2次調整が認められる。石材は296が頁岩、297、298が黒曜石である。

ピエス・エフスキーユ (第99図299・300・図版67)

SG137から2点の出土である。石材は2点とも頁岩である。両端に剥離痕が認められ、端部に片面あるいは両面加工が施される。

石 核 (第100図301~303・図版67)

ST4から2点、SG137から1点、包含層より3点、計6点の出土である。石材は石英1点、他は頁岩である。多方向からの剥離面が認められる。

加工痕ある剥片 (第100図304~307)

出土数は96点である。剥片に2次加工を施しているが、刃部を形成するまでには至っていないものである。

磨製石斧 (第101図~第103図・図版68)

出土数は35点、内8点のみ完形品である。石材には、砂岩、安山岩、蛇紋岩質のものが見られる。完形品中最も軽いもので41g、重いもので352g、破片資料では426gを超えるものまで出土している。大小の格差は大きいものがあるが、形状にあまり差異は認められず、3類にとどまった。

I類：両側縁を面取りする、いわゆる定角式磨製石斧。26点

I'類：面取りが行われているが、1よりも厚みがあり、横断面形が楕円形に近くなるもの。5点

II類：破片資料で分類不能なもの。4点

磨 石 (第104図~第111図・図版69)

出土数は315点である。今回の調査で出土した石器中最も多い点数で、出土石器の約31%を占める。これらは磨面の特徴から2類に分類できる。

I類：平面形は楕円形で、横断面は三角形もしくは卵形のもの。一側縁に細長い磨面を持つ。77点

II類：平面形は楕円もしくは円形で、横断面は楕円形のもの。磨面は表裏面か全面に見られる。238点

四 石 (第112図～第116図・図版69)

出土数は70点である。磨痕を有するものが多く認められる。以下凹痕の位置により、3類に分けられる。

I類：1面に凹痕を持つもの。24点

II類：2面に凹痕を持つもの。45点

III類：3面に凹痕を持つもの。1点

石 III (第116図～第118図・図版70)

出土数は破片資料も含め、40点である。石材は多孔質のもの、凝灰岩質のものが主体である。形状は円形あるいは楕円形に調整してあるものと、礫そのままの状態をとどめるものがある。また使用面は、ほぼ平坦になるもの(第116図8・第117図3)、浅く凹むもの(第116図7・第117図4・第118図2)、わずかに周縁が作り出されたもの(第118図1)、しっかりした周縁と脚が作り出されたもの(第117図1、2)などが見られる。

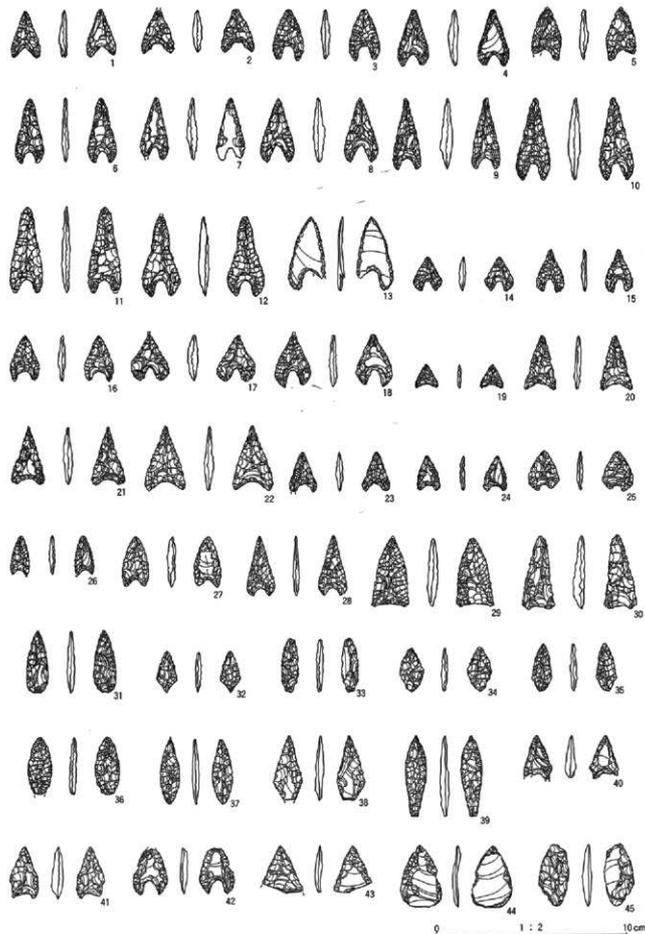
石 棒 (第119図・図版70)

5点の出土である。1は先端付近に明確に凸帯を作り出し、先端部はわずかに凹む。3分割した状態でST 8の床面直上から出土した、全体的に2次の火熱を受けている。また、下半には変色が認められ、土中に埋め、立てられていた痕跡をとどめる。2は不明瞭ながら凸帯が回り、先端部は凸状である。3、4は接合しなが同一個体と考えられるものである。2点とも縦方向への磨痕が見られる。3は破損部に叩打痕が認められ、再利用されたものと考えられる。

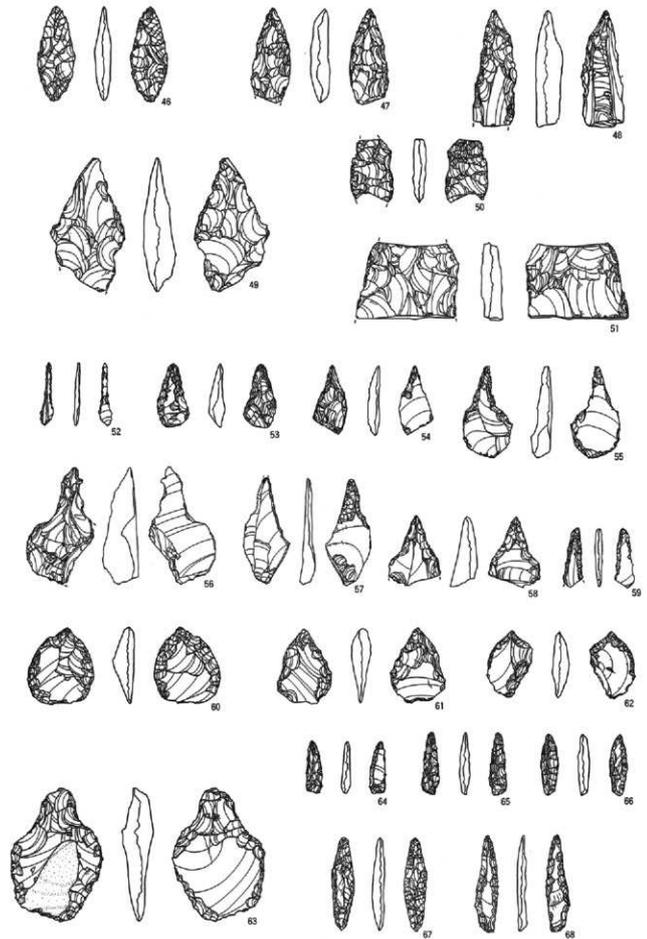
その他の石製品 (第82図3～6・図版56)

石冠は3～5の3点が出土した。いずれも横断面が楕円形を呈する台の上部に、薄い斧形が突出する形状と考えられる。3、4は軟質の石材を用いていることから磨減が著しいが、5は硬質の石材を用いており、よく研磨された様子が認められる。

6は球状耳飾である。約1/2残存する。推定される径は約4 cm、孔径は約1 cmである。



第83図 石器実測図(1)・石楯



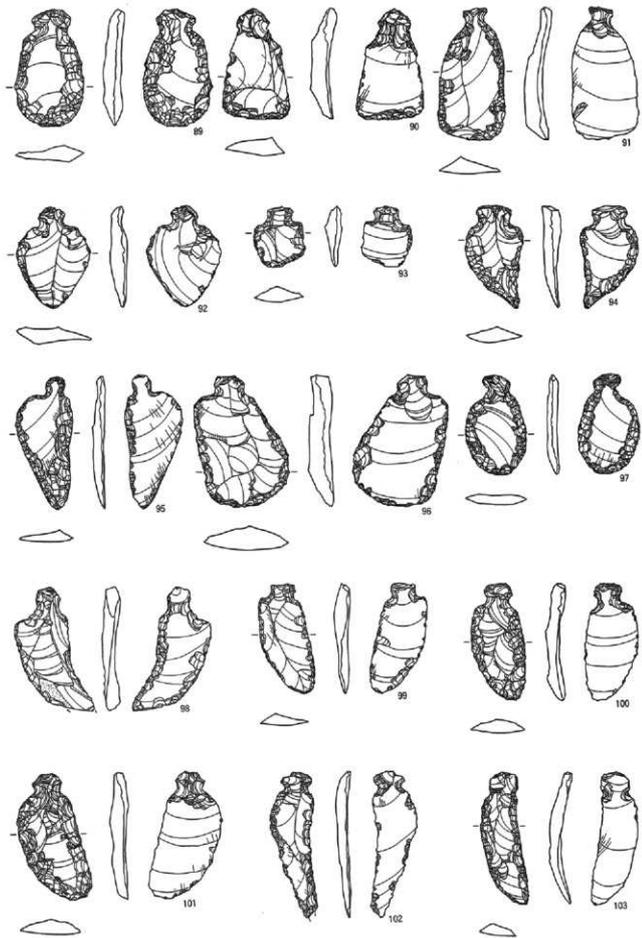
0 1:2 10cm

第84圖 石器実測図(2)・尖頭器・石鏃(1)



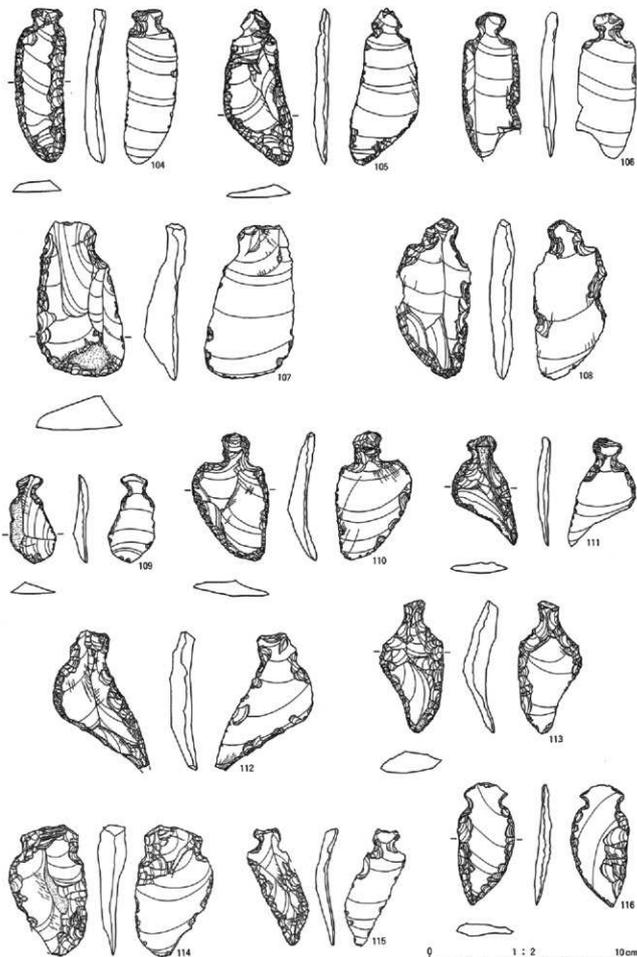
0 1:2 10cm

第85圖 石器実測図(3)・石鏃(2)・石匙(1)



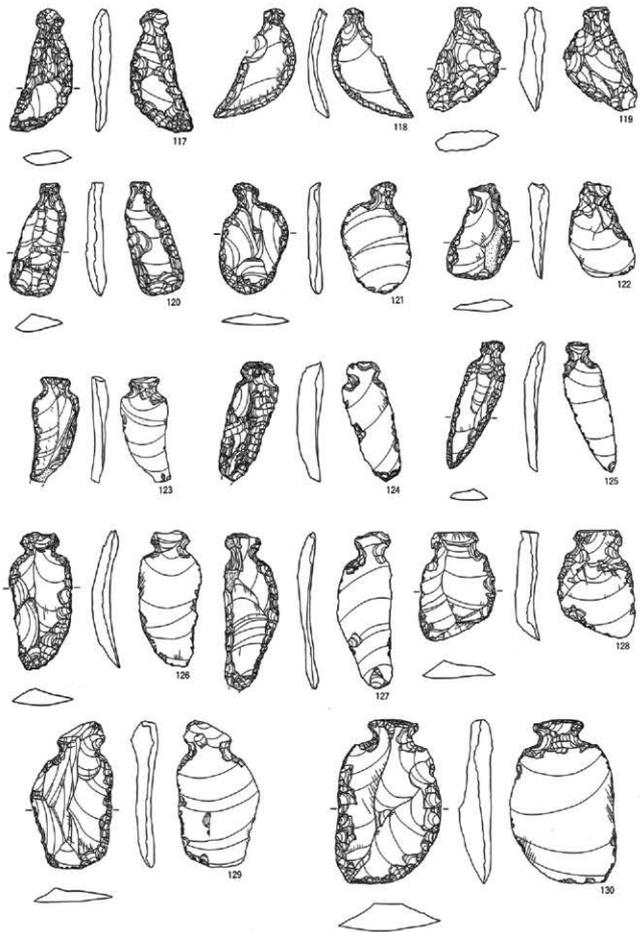
0 1 : 2 10 cm

第86图 石器实测图(4)·石匙(2)



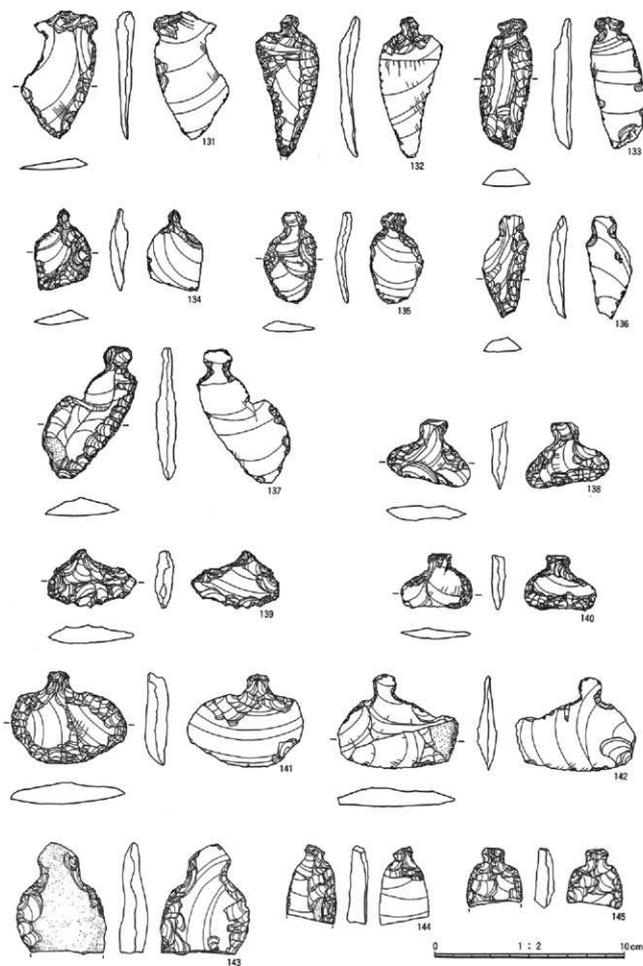
0 1 : 2 10 cm

第87图 石器实测图(6)·石匙(3)



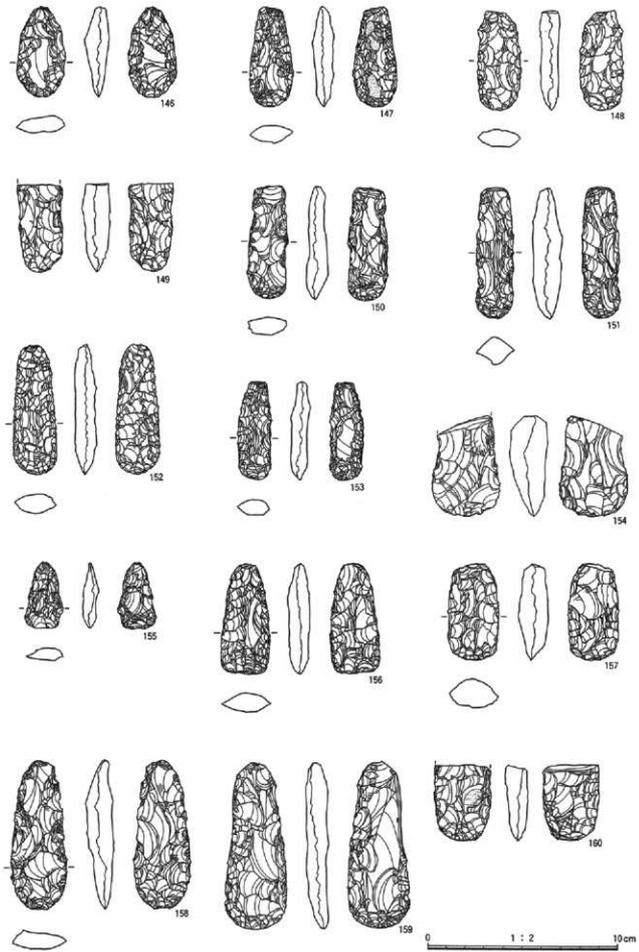
0 1 : 2 10cm

第88图 石器实测图(6)·石匙(4)

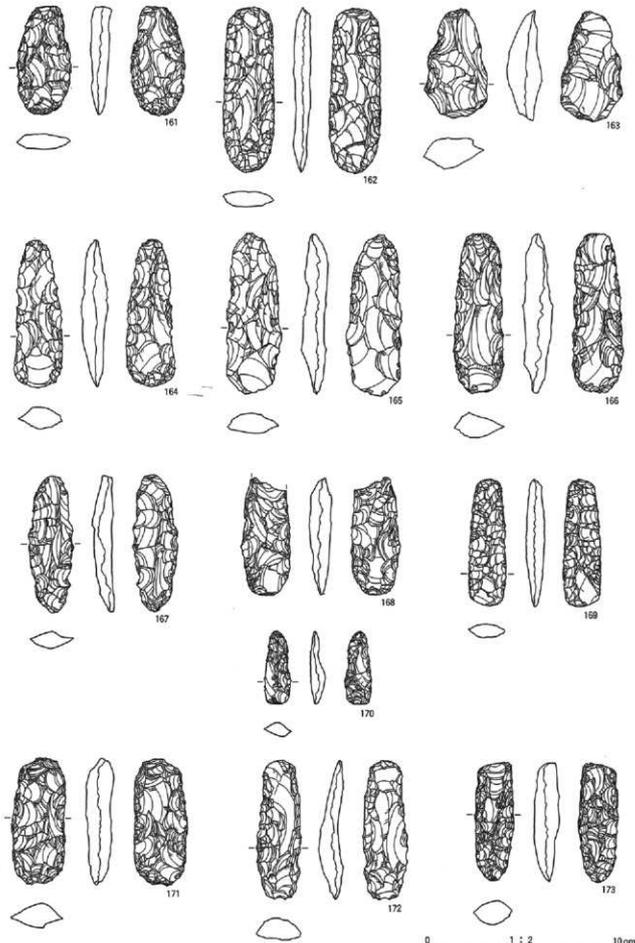


0 1 : 2 10cm

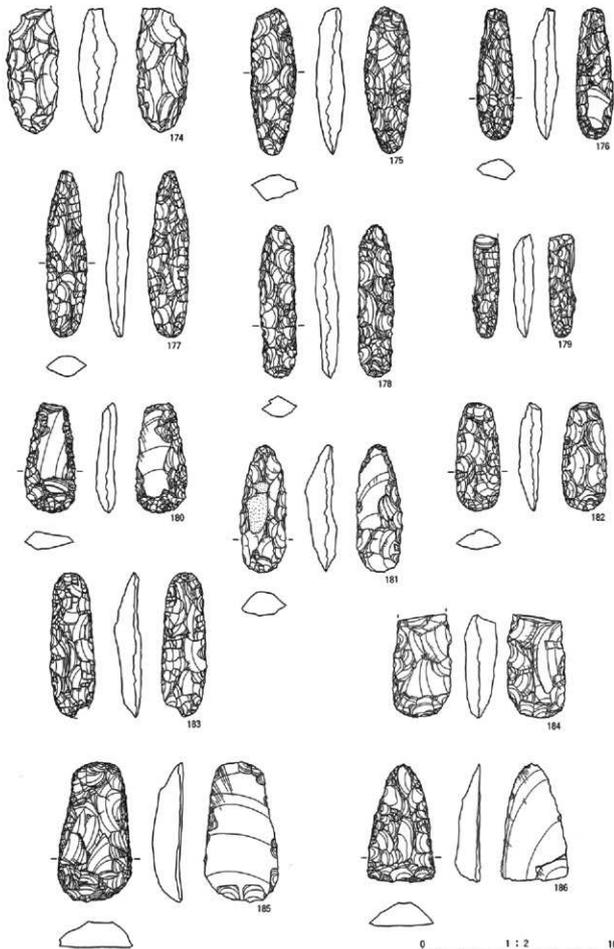
第89图 石器实测图(7)·石匙(5)



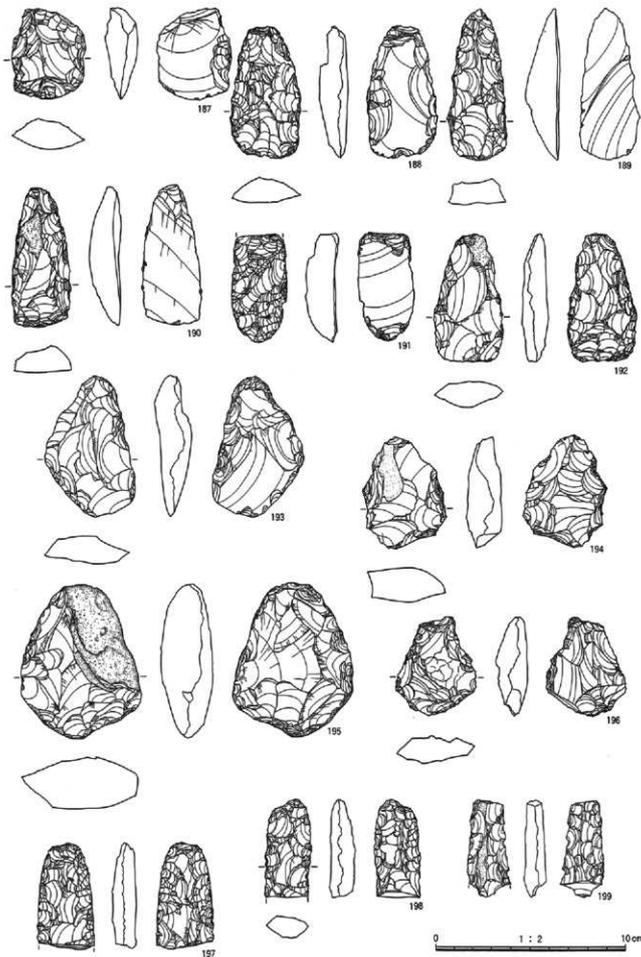
第90图 石器实测图(甲)・石筴(1)



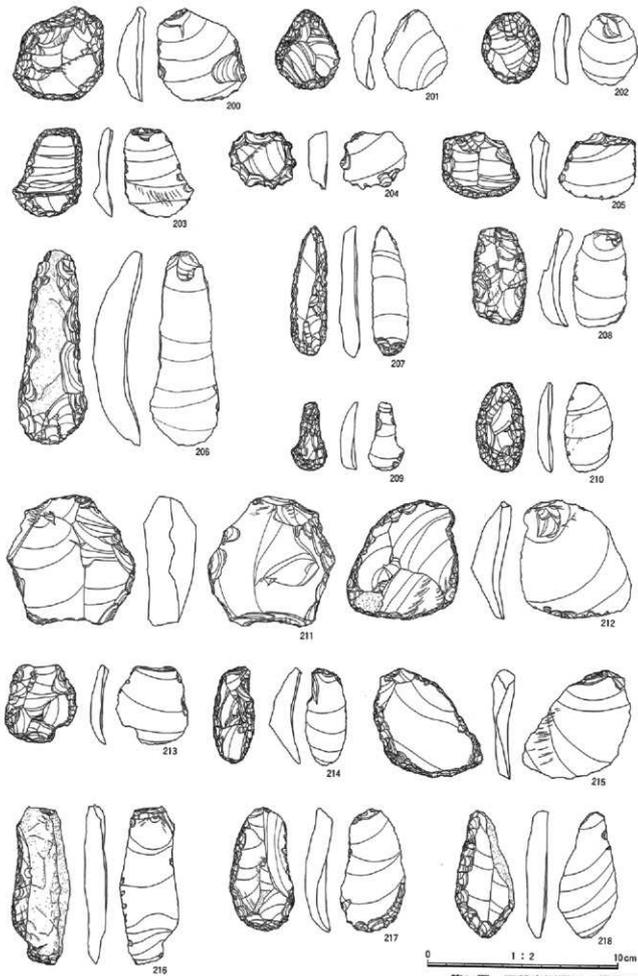
第91图 石器实测图(甲)・石筴(2)



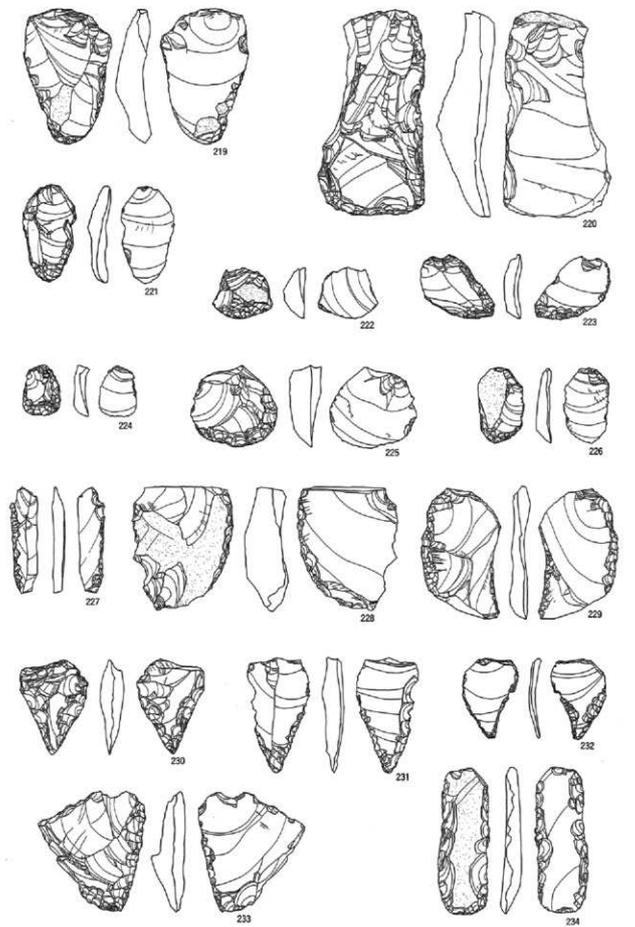
第92圖 石器実測圖(10)・石鏡(3)



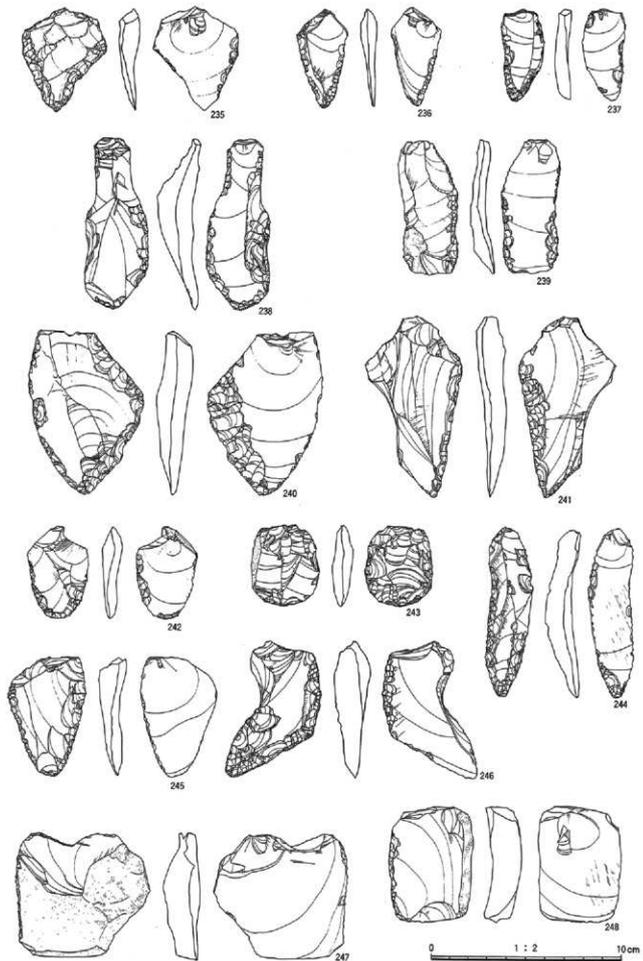
第93圖 石器実測圖(11)・石鏡(4)



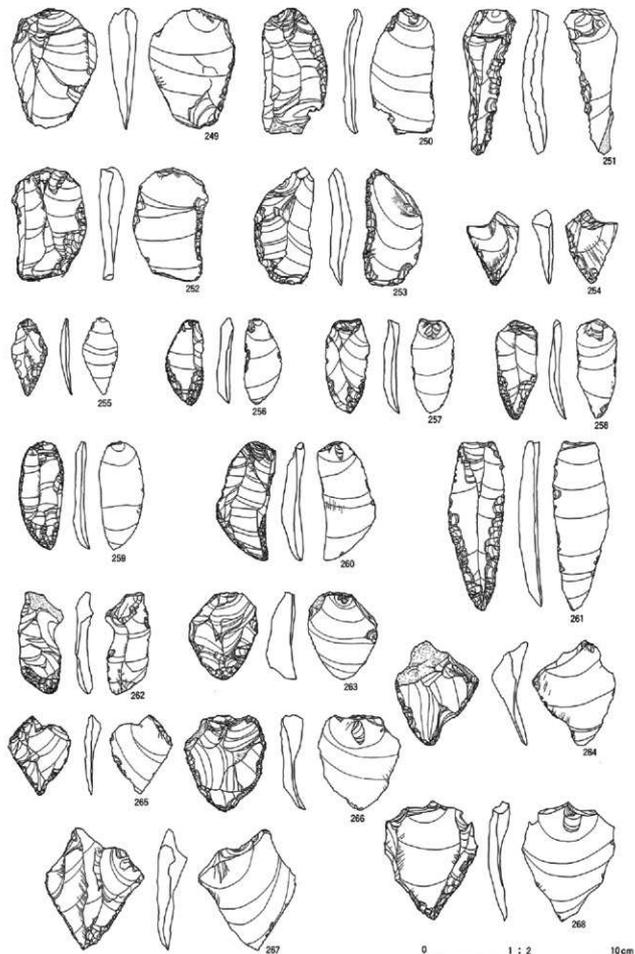
第94図 石器実測図(2)・搔器(1)



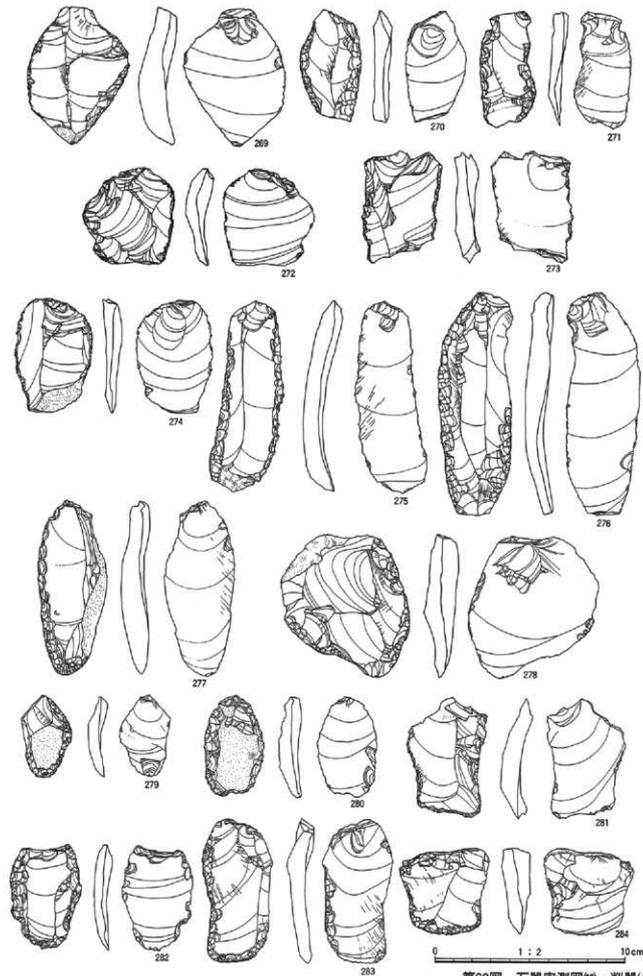
第95図 石器実測図(2)・搔器(2)・刮器(1)



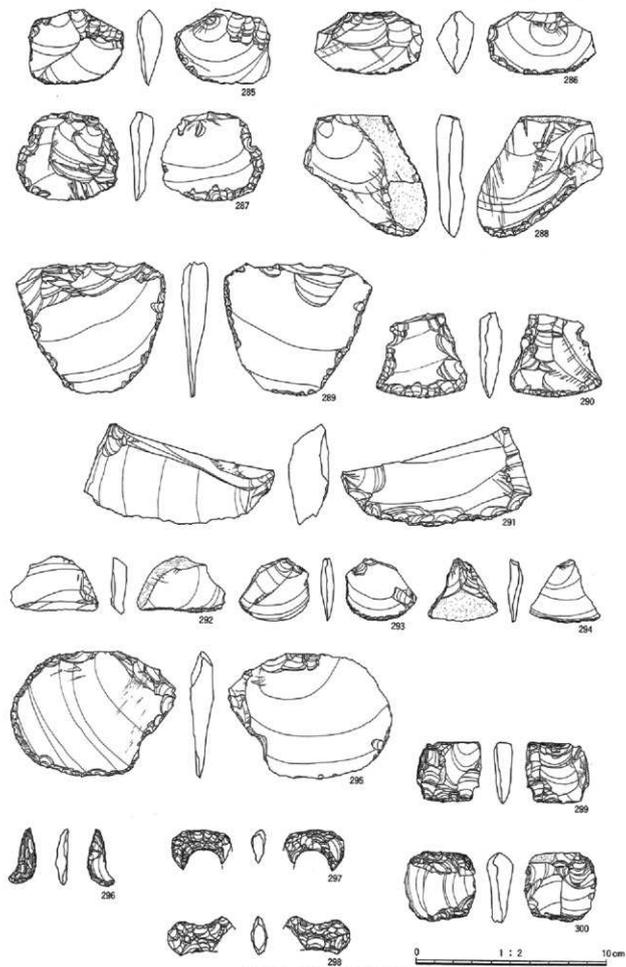
第96图 石器实测图(04)·削器(2)



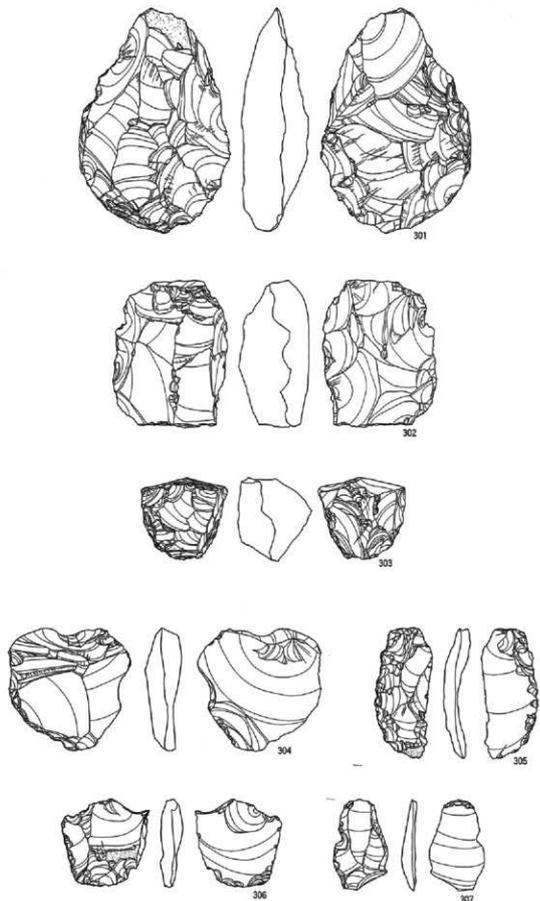
第97图 石器实测图(05)·削器(3)



第98図 石器実測図(46)・削器(4)

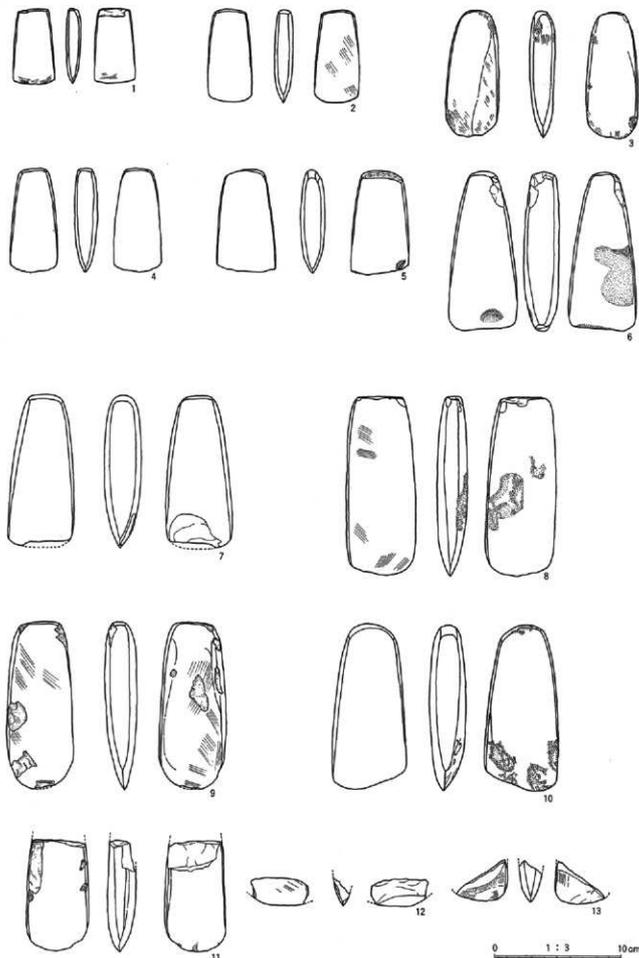


第99図 石器実測図(47)削器(5)・異形石器・ピエス・エフスキュー



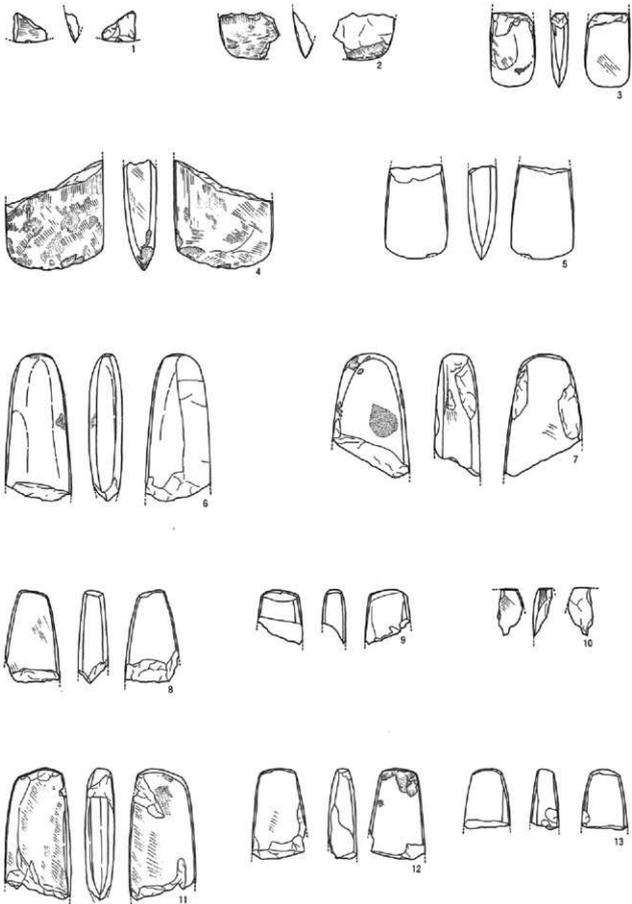
0 1 : 2 10cm

第100回 石器実測図(燧石核・加工痕ある剥片)



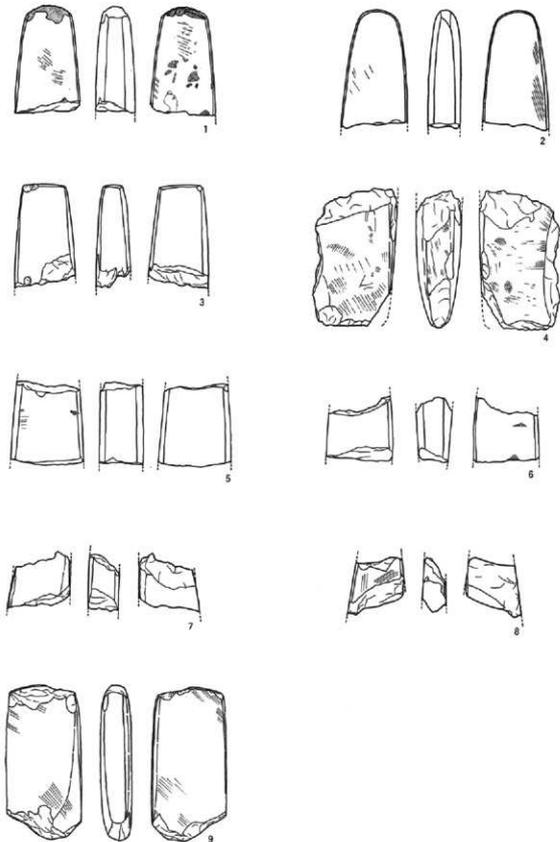
0 1 : 3 10cm

第101回 磨製石斧(1)



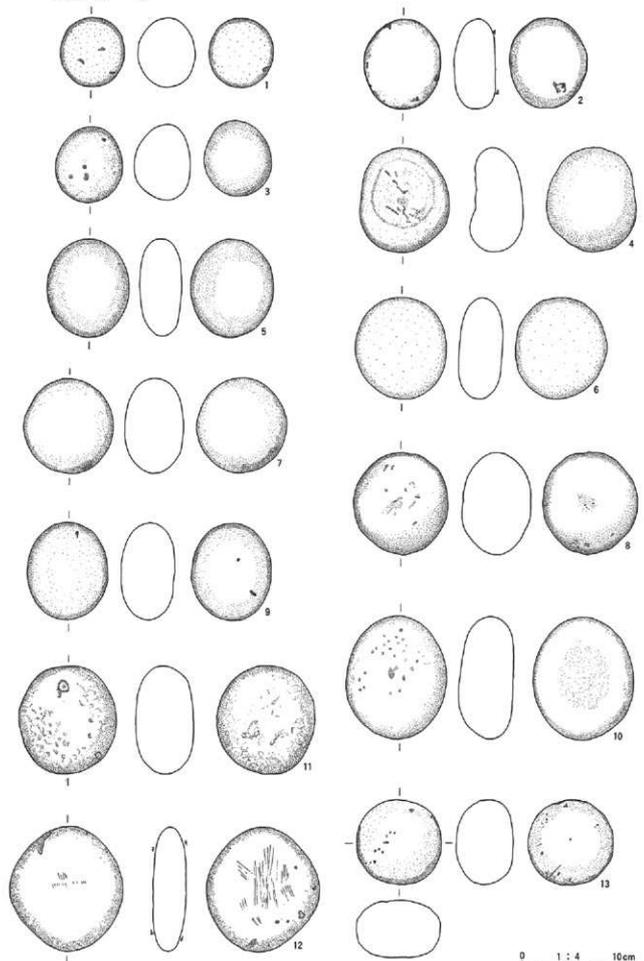
0 1 : 3 10cm

第102圖 磨製石斧(2)

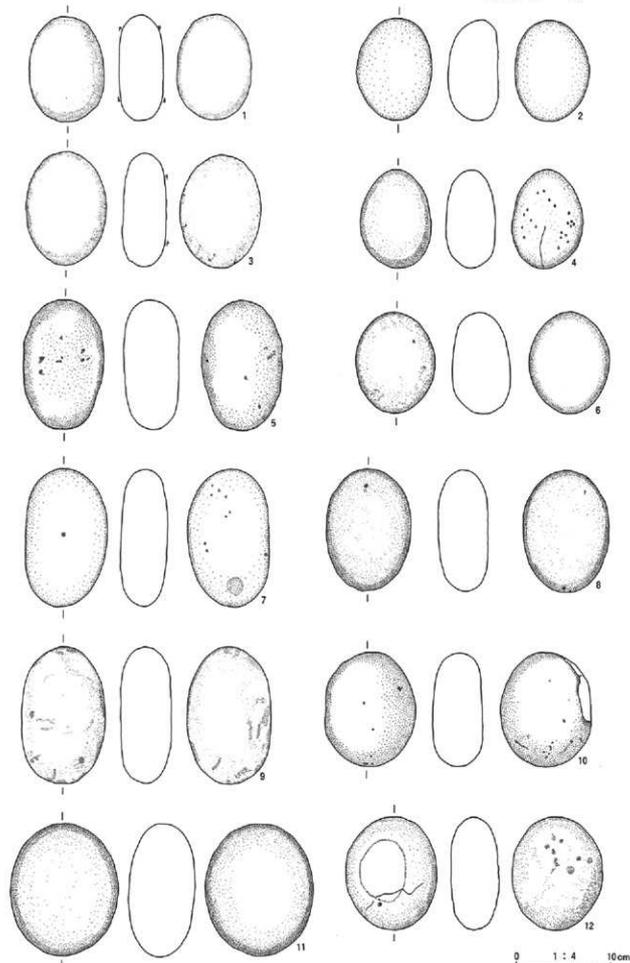


0 1 : 3 10cm

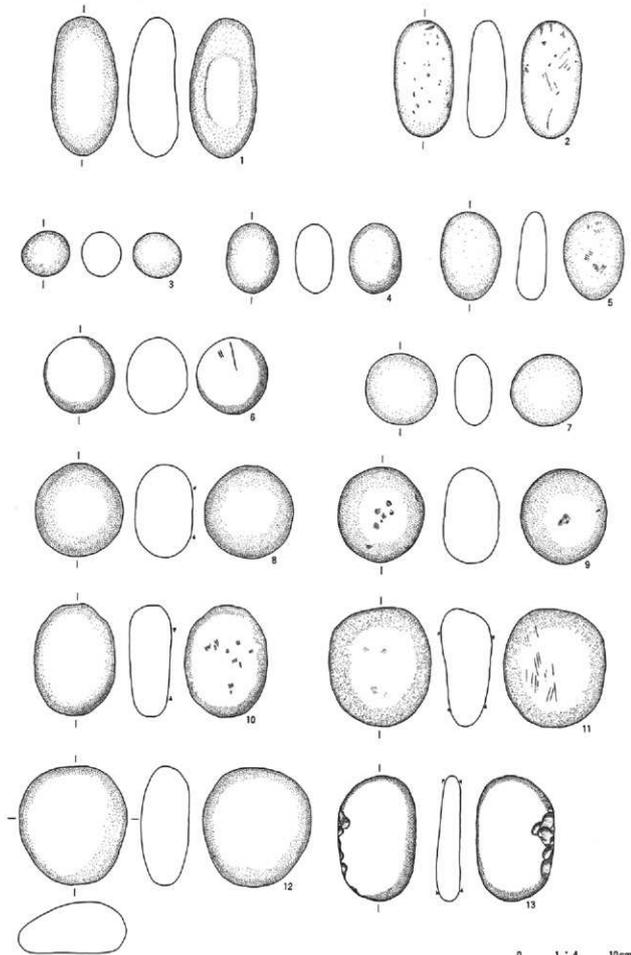
第103圖 磨製石斧(3)



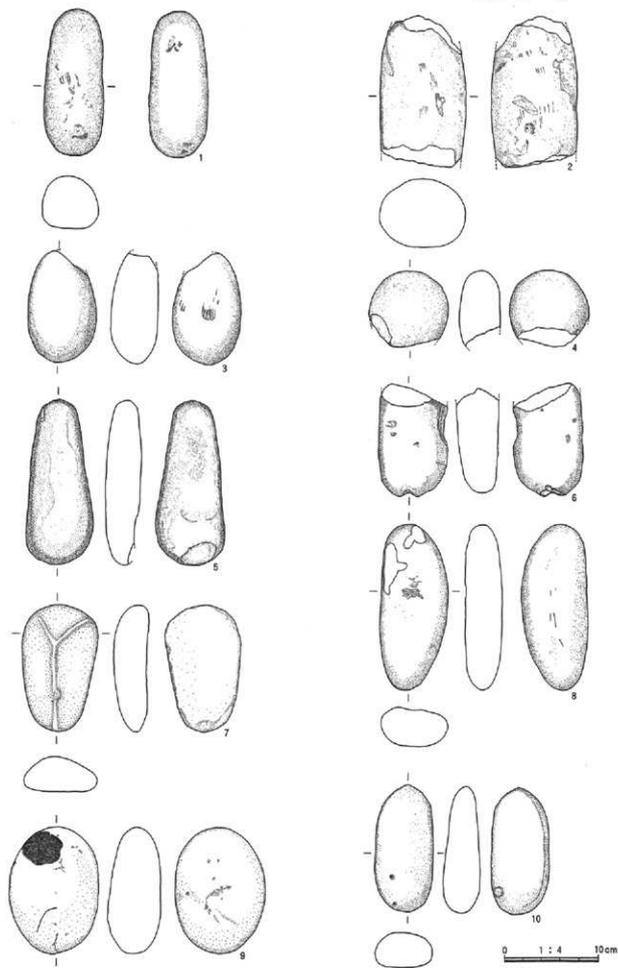
第104圖 磨石(1)



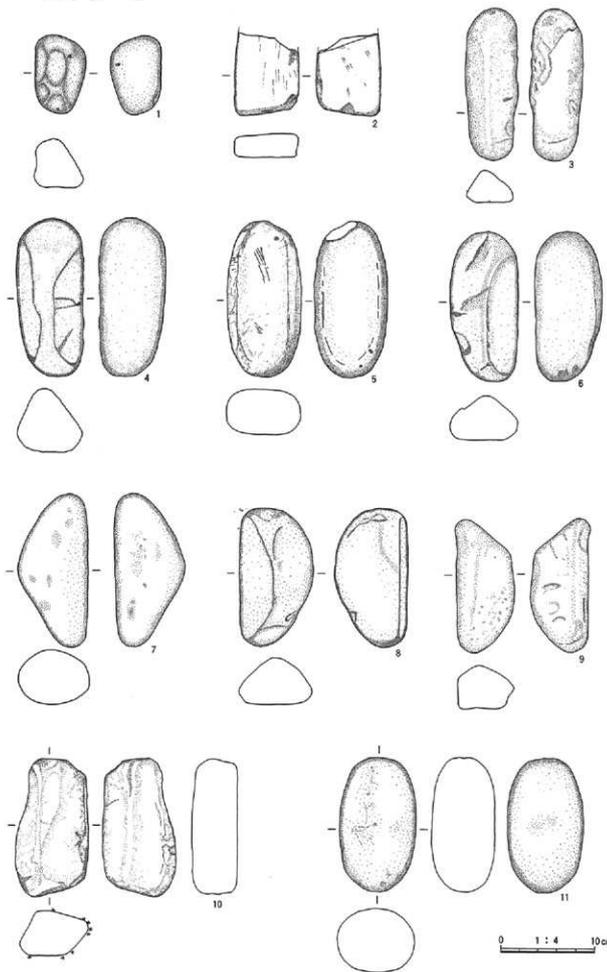
第105圖 磨石(2)



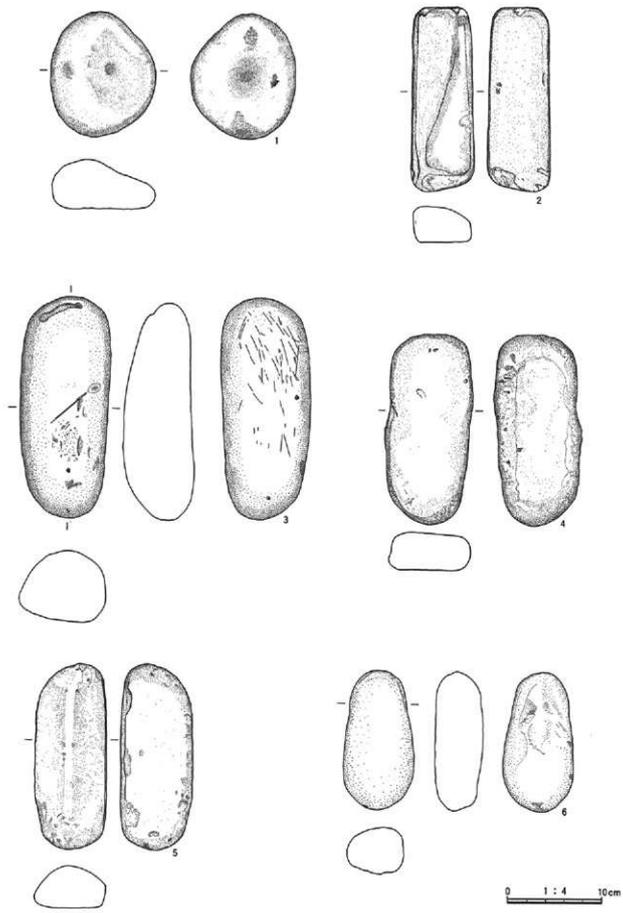
第106図 磨石(3)



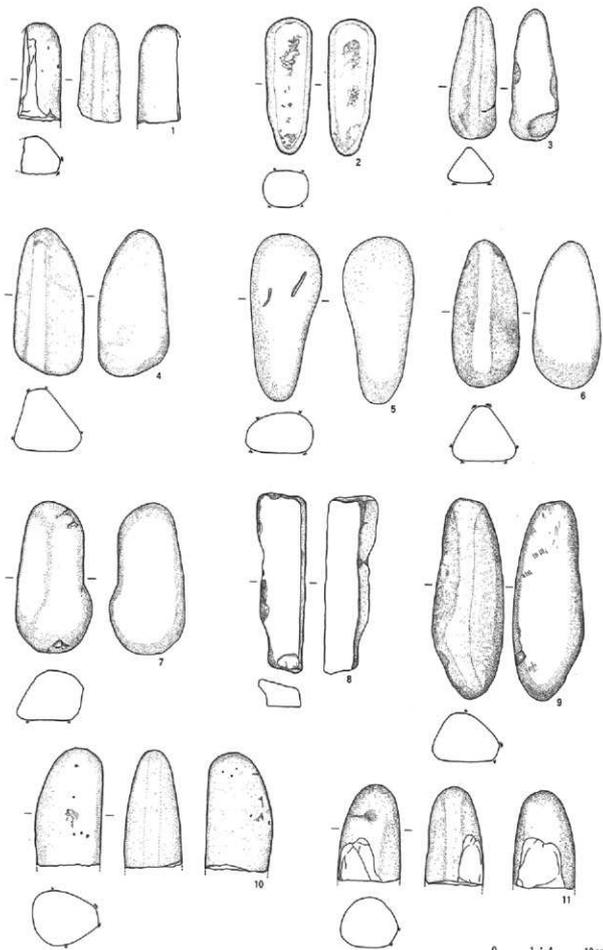
第107図 磨石(4)



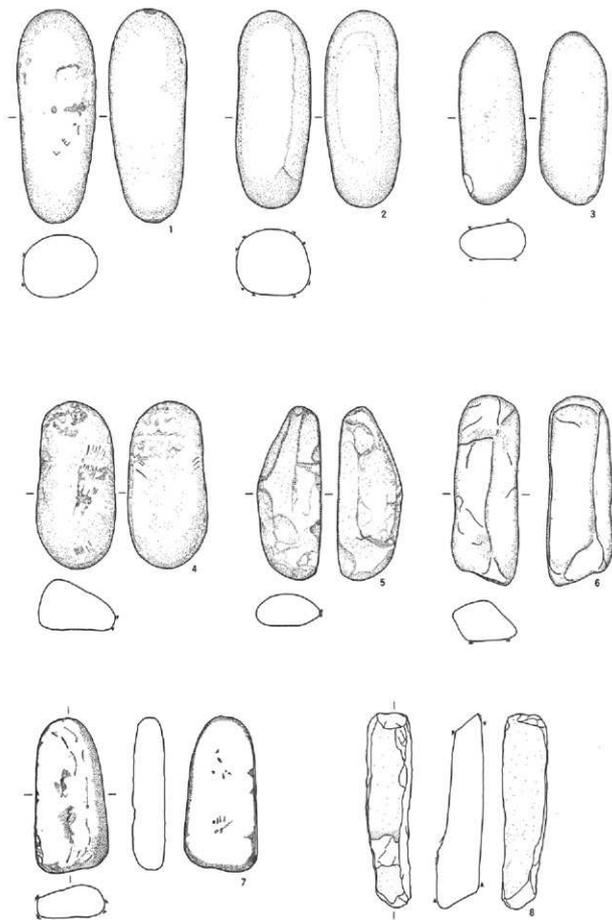
第108図 磨石(5)



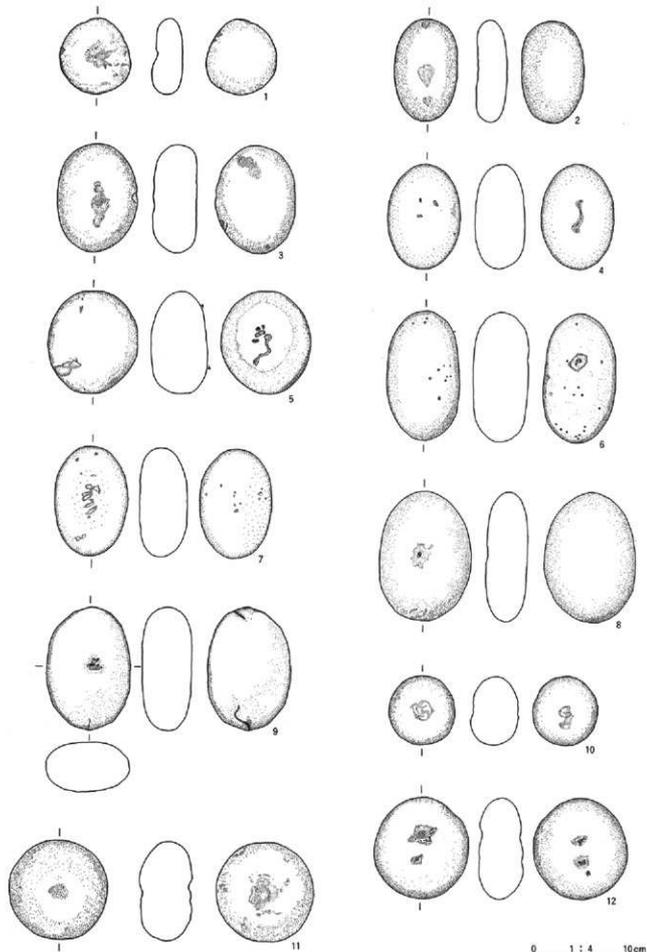
第109図 磨石(6)



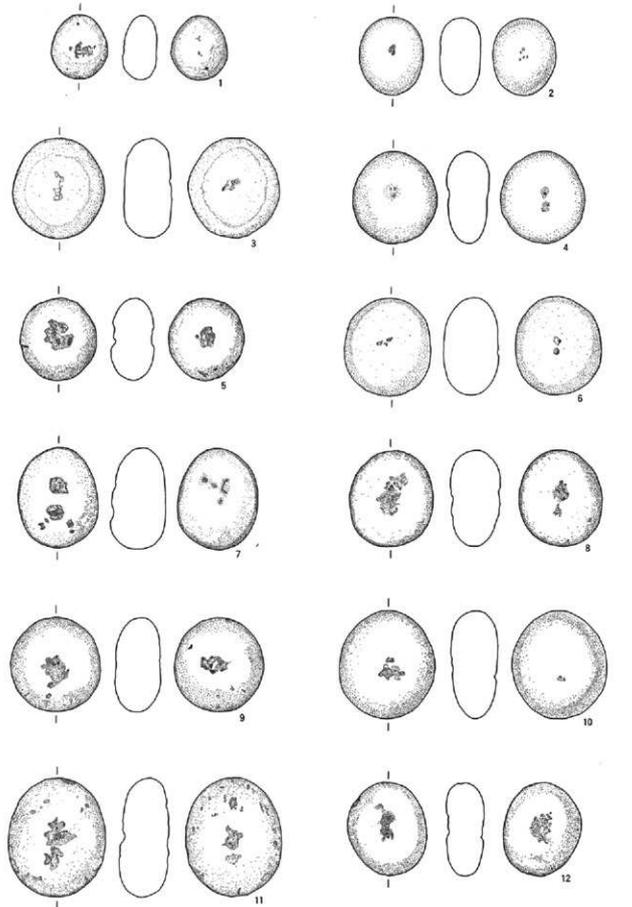
0 1:4 10cm
第110图 磨石(7)



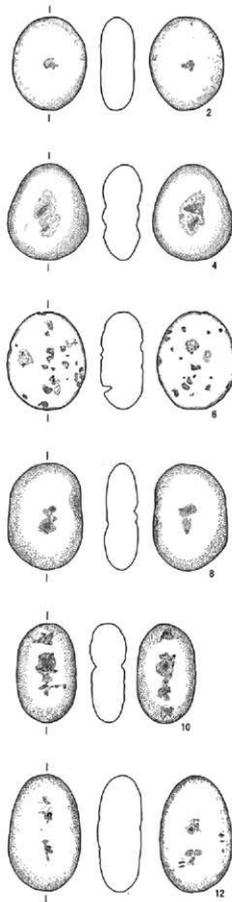
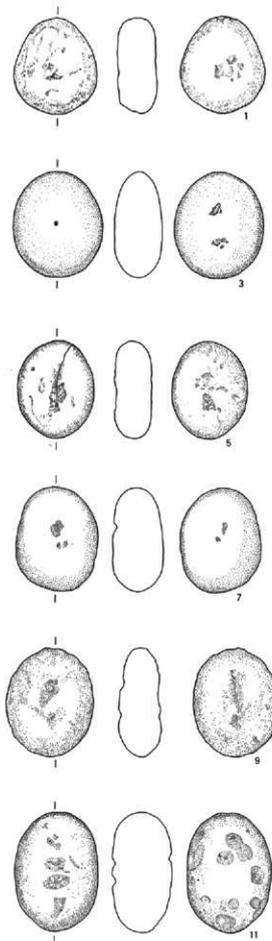
0 1:4 10cm
第111图 磨石(8)



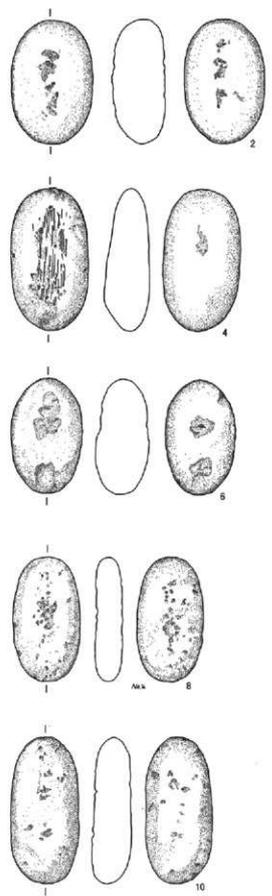
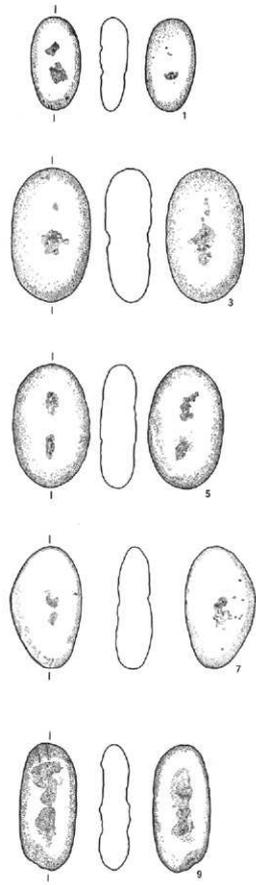
第112圖 凹石(1)



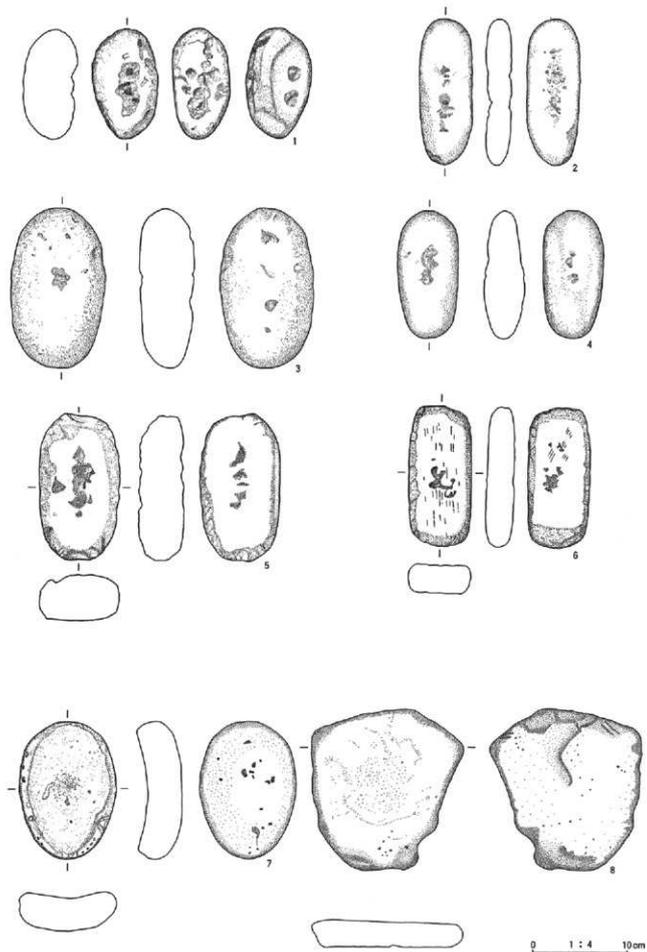
第113圖 凹石(2)



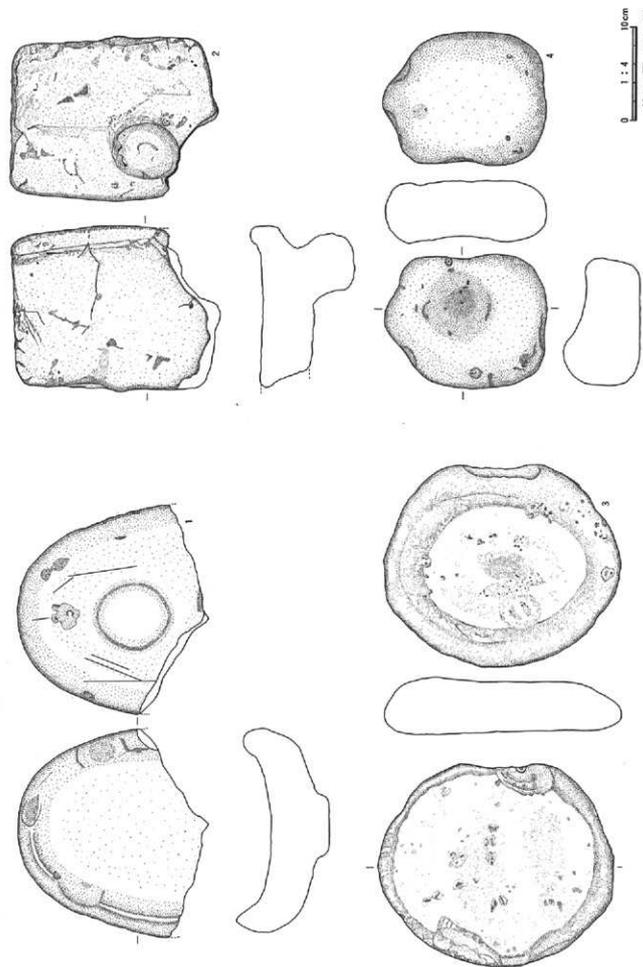
0 1 : 4 10 cm
第114圖 凹石(9)



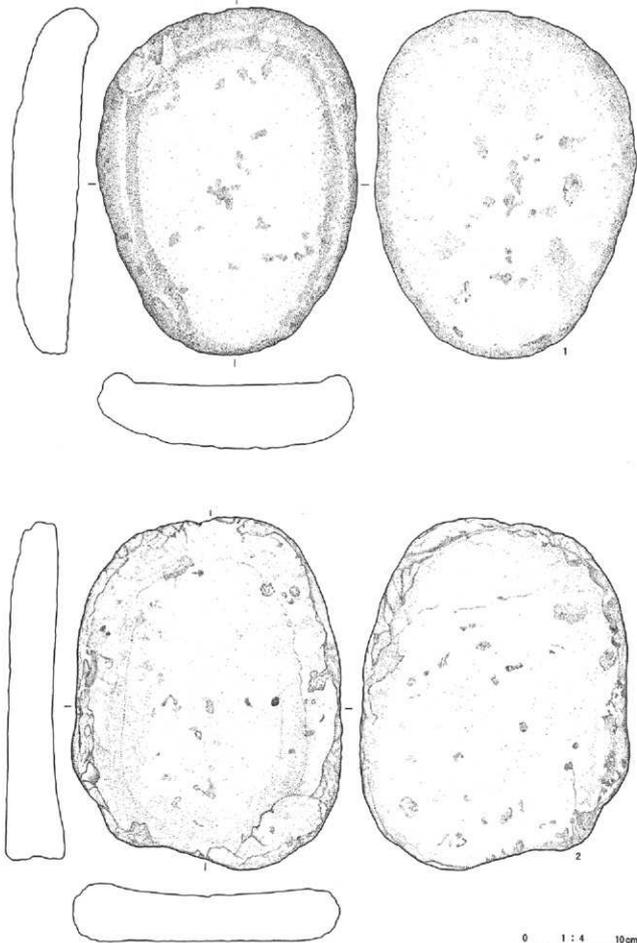
0 1 : 4 10 cm
第115圖 凹石(4)



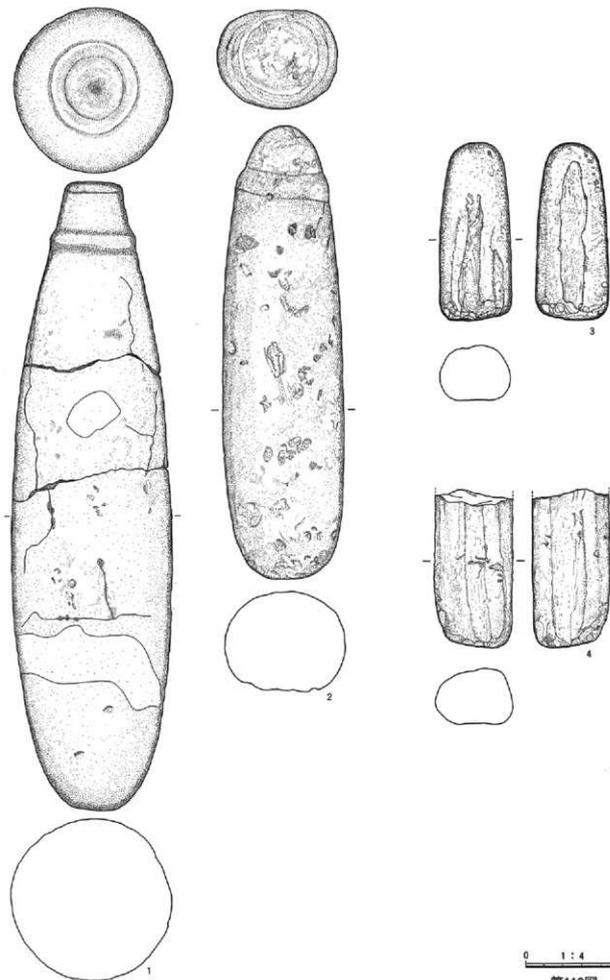
第116圖 凹石(5)・石皿(1)



第117圖 石皿(2)



第118圖 石皿(2)



第119圖 石樽

表一 3 土器計測表(1)

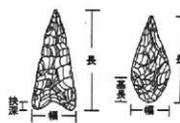
探区	番号	出土地点	計測値			備考
			器高	口径	底径	
第39区	1	ST 1	-	-	-	-
	2	ST 1	(171)	-	63	RP48
	3	ST 1	-	-	-	RP47A
	4	ST 1	-	-	-	RP48A
	5	ST 1	(71)	-	62	-
	6	ST 1	(76)	-	(86)	-
	7	ST 1	(87)	-	132	RP48A
	8	ST 1	-	-	-	RP50
	9	ST 1	-	-	-	-
	10	ST 1	75	(72)	49	-
第40区	1	ST 1	-	(282)	-	RP50
	2	ST 2	-	(167)	-	-
	3	ST 2	-	-	-	-
第41区	1	ST 2	-	-	-	-
	2	ST 2	-	-	-	-
	3	ST 2	(127)	-	62	RP51
	4	ST 2	(200)	-	-	-
	5	ST 2	(82)	-	(200)	-
	6	ST 2	-	-	-	-
第42区	1	ST 3	-	-	-	-
	2	ST 2	(314)	(282)	-	-
	3	ST 3	202	(132)	(64)	-
	4	ST 3	(121)	-	(114)	-
	5	ST 3	(90)	-	(124)	-
	6	ST 3	(65)	-	(146)	-
	1	ST 3	(139)	200	-	RP38
	2	ST 3	-	-	-	RP38
	3	ST 3	-	-	-	-
	4	ST 3	(185)	(173)	-	-
第43区	5	ST 4	(91)	(144)	-	-
	6	ST 3	(62)	-	(54)	-
	7	ST 3	(112)	-	(84)	-
	8	ST 3	-	-	-	-
	9	ST 3	57	(145)	58	RP35
第44区	1	ST 4	-	-	-	-
	2	ST 4	-	-	-	-
	3	ST 4	-	-	-	-
	4	ST 4	-	-	-	-
	5	ST 4	-	-	-	-
	6	ST 4	161	(244)	-	-
	7	ST 4	-	-	-	-
	8	ST 4	-	-	-	-
	9	ST 4	-	-	-	-
	10	ST 4	-	-	-	-
	11	ST 4	(53)	-	56	-
第45区	1	ST 5	-	-	-	RP47
	2	ST 5	(121)	(171)	-	-
	3	ST 5	(166)	233	-	RP46
第46区	4	ST 5	-	-	-	-
	1	ST 8	-	135	-	RP49
	2	ST 8	-	(165)	-	-
	3	ST 8	-	148	-	RP79
	4	ST 8	(76)	-	60	RP33
	5	ST 8	(126)	-	74	-
第47区	6	ST 8	(102)	-	84	-
	7	ST 8	(32)	-	62	-
	8	ST 8	88	(183)	70	RP42
	9	ST 8	(44)	-	54	-
	10	ST 8	99	(216)	(100)	-
	11	ST 8	87	(274)	(118)	-
	第48区	1	ST 8	-	-	-
2		ST 8	-	-	-	-
3		ST 8	(111)	(180)	-	-
4		ST 8	-	-	-	-
5		ST 8	-	-	-	-
6		ST 8	454	(281)	(185)	RP91
7		ST 8	(74)	(123)	-	-
8		ST 8	-	-	-	-
9		ST 8	-	-	-	-
10		ST 8	-	-	-	-
11		ST 8	-	-	-	-

表一 4 土器計測表(2)

探区	番号	出土地点	計測値			備考	
			器高	口径	底径		
							器高
第49区	1	ST 8	-	-	-	-	
	2	ST 8	-	-	-	-	
	3	ST 8	-	-	-	-	
	4	ST 8	(38)	-	(108)	-	
	5	ST 8	(33)	-	(94)	-	
	6	ST 8	(56)	(74)	-	-	
	7	ST 8	586	(360)	(140)	RP67	
	1	ST 8	349	(226)	106	RP44	
	2	ST 8	(116)	-	(98)	-	
	3	ST 8	(39)	-	40	-	
第50区	4	ST 8	(49)	-	84	-	
	5	ST 8	(157)	-	(190)	RP32	
	6	ST 8	-	-	-	-	
	7	ST 8	(123)	-	112	RP31	
	8	ST 8	(119)	-	(126)	-	
	9	ST 8	(36)	-	73	-	
	10	ST 8	(18)	-	72	-	
	11	ST 8	-	-	-	-	
	第51区	1	ST 8	265	(163)	86	-
		2	ST 8	(64)	(113)	-	-
		3	ST 8	-	-	-	-
4		ST 8	-	-	-	RP90	
5		ST 8	-	-	-	RP32	
6		ST 8	-	-	-	-	
第52区	7	ST 8	-	-	-	-	
	8	ST 8	-	-	-	-	
	9	ST 8	-	-	-	-	
	10	ST 8	-	-	-	RP42	
	11	ST 8	-	-	-	-	
	第53区	1	ST 11	235	(198)	(82)	-
		2	ST 11	220	(173)	(94)	RP19
3		ST 11	-	-	-	-	
4		ST 11	-	(263)	-	-	
5		ST 11	-	-	-	-	
6		ST 11	(90)	-	(68)	-	
第54区	7	ST 11	(87)	-	82	-	
	8	ST 11	-	(290)	-	-	
第55区	1	ST 11	(191)	(261)	-	-	
	2	ST 11	(196)	(280)	-	RP20	
	3	ST 11	(176)	-	(128)	-	
	4	ST 11	(162)	(183)	-	-	
	5	ST 11	-	-	-	-	
	6	ST 11	-	-	-	-	
第56区	1	ST 9	61	(90)	(140)	-	
	2	ST 10	-	-	-	-	
	3	ST 10	(76)	-	76	-	
	4	ST 12	-	-	-	-	
	5	ST 10	(185)	(175)	-	-	
	6	ST 12	-	-	(164)	-	
	7	ST 12	-	-	-	RP58	
第57区	1	ST 12	-	-	(360)	RP58	
	2	ST 12	324	(204)	(100)	RP58.59	
	3	ST 13	(64)	-	(110)	-	
第58区	4	ST 14	-	-	-	RP52	
	5	ST 14	-	-	-	-	
	1	ST 14	286	(208)	(118)	RP3	
	2	ST 14	-	-	-	RP52	
	3	ST 14	(85)	(185)	-	-	
第59区	4	ST 14	-	-	-	-	
	5	ST 14	-	-	-	-	
	6	ST 14	-	-	-	-	
	7	ST 14	-	-	317	RP3	
	1	ST 14	(149)	(307)	-	RP58.59	
	2	ST 14	140	(330)	(89)	RP52	
	1	EU 26	(349)	-	(163)	-	
第60区	2	EU 26	(394)	-	134	-	
	1	ST 15	-	-	-	-	
	2	ST 15	-	(220)	-	RP7	
	3	ST 15	-	(283)	-	RP24	
	4	ST 15	(114)	(210)	-	RP8	
	5	ST 15	182	(178)	82	RP4	
6	ST 15	-	-	-	RP5		

表一 土器計測表(6)

種類	番号	出土 地点	計 測 値			備 考
			器 高	口 径	底 径	
80	1	27-32V	-	-	-	
	2	36-26V	-	-	-	
	3	27-28IV	-	-	-	
	4	41-29V	-	-	-	
	5	30-31IV	-	-	-	
	6	35-31	-	-	-	
	7	29-31V	-	-	-	
	8	29-25V	-	-	-	
	9	28-28IV	-	-	-	
	10	37-30V	-	-	-	
	11	35-31	-	-	-	
	12	36-31	-	-	-	
	13	33-26V	-	-	-	
	14	30-28V	-	-	-	
	15	32-26V	-	-	-	
	16	32-35V	-	-	-	
79	17	36-31	-	-	-	
	18	25-26V	-	-	-	
	19	35-31	-	-	-	
	20	29-25	-	-	-	
21	34-28V	-	-	-		
22	29-26V	-	-	-		
23	31-21	-	-	-		
24	40-30V	-	-	-		
81	25	30-25V	-	-	-	
	26	30-26V	-	-	-	
	27	25-28V	-	-	-	
	28	32-31V	-	-	-	
	29	28-31IV	-	-	-	
	30	33-28V	-	-	-	
	31	32-29V	-	-	-	
	32	34-28V	-	-	-	
	33	30-26V	-	-	-	
	34	26-25V	-	-	-	
	35	26-22V	-	-	-	
	82	1	34-32V	(97)	-	(140)
2		41-24V	(30)	-	(124)	
3		30-21V	(9)	-	(118)	
4		37-31	(50)	-	(48)	
5		38-31	(33)	-	(86)	
6		28-25IV	(13)	-	(62)	
7		29-26IV	-	-	-	
8		32-31IV	(30)	-	(64)	
9		37-29V	(48)	-	(116)	
10		29-26IV	-	-	-	
11		37-29V	57	(101)	(82)	
12		34-26V	50	145	49	
13		32-27V	(27)	(66)	-	
14		36-22V	(14)	-	(58)	
15		30-26V	-	-	-	
16		35-21V	-	-	-	
17	28-26V	(10)	-	40		
18	34-24IV	(34)	-	-		
19	27-25V	-	-	-		
20	38-31	-	-	37×35		
21	37-30IV	-	-	-		
83	1	9-44Ⅲ	-	-	-	
	2	ST70	-	-	-	
	3	ST78	-	-	-	
	4	ST78	-	-	-	
	5	ST11	-	-	-	
	6	SG137	-	-	-	
	7	ST 8	-	-	-	
	8	31-18V	-	-	-	
	9	ST10	-	-	-	
	10	ST78	-	-	-	
	11	ST78	-	-	-	
	12	SK27	-	-	-	
	13	ST13	-	-	-	
	14	ST78	-	-	-	
	15	-	-	-	-	
	16	36-26V	-	-	-	



第120図 石鏃模式図

属性表注

- 1 大きさ 長、幅は第120図に示すように、その全長、ならびに最大幅である。厚さは、最大厚を測定した。折損品については()を付し残存値を示した。単位はmmである。
- 2 挟深・蓋長 第120図に示すように、挟深は無蓋の石鏃の挟りの深さ、蓋長は最大幅の位置より下位の長さを測定した。前者には一、後者には十を付して示した。
- 3 最大幅 最大幅の位置をつぎのように示した。尖頭部にあるものをA、基部、脚部にあるものをB、また、下腹にある場合は ' を付した。
- 4 側線 側線の形態を直線状のa、凸弧のb、凹弧のc、「」の字状に曲るdに分けて示した。
- 5 折損部位 尖頭部先端をa、左の脚部(図左の)をb、右をc、円蓋部分をdとして示した。

表一 石鏃属性表(1)

№	出土区	石 材	大 き さ			重量 (g)	挟深 (添紙)	最大幅の 位置	側 線		残存 部位	分類	挿 図	
			長	幅	厚				左	右				
1	ST13	頁岩ア	24.6	15.1	3.4	0.9	-5.3	B	b	b	-	I a1	83-1	
2	ST21	頁岩	(22.0)	16.5	4.6	1.1	-5.1	B'	b	b	a	I a1	83-2	
3	32-32-IV	頁岩ア	26.2	15.8	4.3	1.3	-7.0	B	b	b	c	I a1	83-3	
4	34-24-V	頁岩	29.8	16.2	4.3	1.6	-6.2	B	b	b	-	I a1	83-4	
5	37-24-V	黒曜石	(26.4)	15.2	4.1	1.2	-4.4	A	b	d	a·b	I a1	83-5	
6	8-71-Ⅲ	頁岩ア	34.2	14.8	3.4	1.3	-6.0	B	b	b	-	I a1	83-6	
7	SK23	頁岩ア	(33.2)	14.5	5.1	1.6	-6.0	A	b	b	b	I a1	83-7	
8	8-53-Ⅲ	メノウ	33.0	17.4	5.6	1.9	-8.4	B	b	b	-	I a1	83-8	
9	8-53-Ⅲ	頁岩ア	37.4	14.5	6.3	2.1	-5.7	B	b	b	-	I a1	83-9	
10	31-18-V	頁岩	43.4	17.6	5.9	2.9	-8.9	B	b	b	-	I a1	83-10	
11	ST11	頁岩ア	45.5	16.8	4.2	2.3	-7.1	A	b	b	a	I a1	83-11	
12	ST11	頁岩	(42.1)	19.6	5.3	2.8	-8.8	B	c	a	b	I a1	83-12	
13	12-62-Ⅲ	頁岩	(38.1)	(19.5)	2.2	1.9	-10.6	B	b	b	c	I a1	83-13	
14	28-20-V	頁岩	(21.9)	17.1	4.9	1.6	-4.5	B	b	b	a	I a1		
15	26-63-Ⅲ	玉髄質	(27.5)	17.6	4.5	1.8	-9.4	A	b	b	a	I a1		
16	10-59-Ⅲ	頁岩ア	(16.9)	13.5	2.2	0.4	-5.5	B'	b	b	a	I a1		
17	8-63-Ⅲ	頁岩	(21.0)	16.6	3.4	1.0	-7.0	B	b	b	a·c	I a1		
18	12-54-Ⅲ	頁岩	(18.9)	18.9	6.2	1.5	-5.9	B	b	b	a	I a1		
19	11-60-Ⅲ	頁岩	25.8	15.7	4.3	1.2	-6.3	B	b	b	b	I a1		
20	16-72-Ⅲ	頁岩	29.5	(14.2)	4.1	1.3	-8.5	B	b	b	-	c	I a1	
21	13-84-Ⅲ	頁岩	(19.0)	(14.6)	3.2	0.7	-7.2	B	a	b	a·b	I a1		
22	15-81-Ⅲ	頁岩	(24.4)	(14.2)	(2.4)	0.7	(-6.0)	-	b	-	c	I a1		
23	10-53-Ⅲ	玉髄質	17.5	14.2	3.2	0.6	-5.0	B	b	b	-	I a2	83-14	
24	37-24-V	玉髄質	22.7	14.0	2.6	0.6	-7.0	B	b	b	-	I a2	83-15	
25	12-54-Ⅲ	頁岩	23.6	15.2	3.7	1.0	-4.5	A	b	b	-	I a2	83-16	
26	7トレンチD	頁岩	(23.5)	19.9	5.0	1.6	-6.5	B'	c	b	a	I a2	83-17	
27	ST17	頁岩	(27.4)	18.6	3.5	1.3	-8.8	B	b	b	a	I a2	83-18	
28	Kトレンチ-11	頁岩ア	(20.2)	15.6	2.9	0.7	-6.5	B	b	b	a·b	I a2		
29	26-26-V	-	22.1	(16.6)	4.4	1.0	-7.2	B	b	b	b	I a2		
30	38-31-V (SK 1)	黒曜石	12.2	11.9	2.0	0.2	-3.0	B'	a	a	-	I b	83-19	
31	12-69-Ⅲ	頁岩	28.2	16.1	2.8	0.9	-3.3	A'	a	a	-	I b	83-20	
32	12-61-Ⅲ	頁岩	30.5	17.3	4.5	1.7	-3.0	A	a	a	-	I b	83-21	

表-9 石鏃属性表(2)

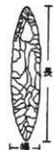
№	出土区	石材	大 き さ			重量 (g)	採深 (深長)	最大幅 の位置	側 縁		残存 部位	分類	特 記	
			長	幅	厚				左	右				
														左
33	8-41-III	頁岩ア	34.0	21.0	5.0	2.1	-4.9	B	a	a	-	I b	83-22	
34	10-53-III	頁岩	(14.2)	14.9	2.5	0.5	-2.0	B	a	a	-	I b		
35	19-78-II	黒曜石	(20.7)	14.0	3.8	0.6	-4.5	B	b	b	b	I c	83-23	
36	38-25-V	頁岩	18.2	12.3	2.0	0.5	-2.7	B	b	b	-	I c	83-24	
37	8-66-II	頁岩ア	20.6	15.6	2.8	0.8	-3.5	A	b	b	-	I c	83-25	
38	33-39-V	頁岩	20.7	9.7	2.6	0.4	-2.5	A	b	b	e	I c	83-26	
39	33-27-V		26.7	13.9	3.9	1.3	-4.1	A	b	b	-	I c	83-27	
40	25-24-IV		30.7	14.5	3.2	0.9	-3.9	B	b	b	-	I c	83-28	
41	33-25-V	頁岩ア	27.2	(13.5)	3.7	1.1	-4.2	A	b	b	b	I c		
42	39-27-V		(18.0)	12.9	3.8	0.6	-4.0	B	b	b	a	I c		
43	30-20-V	頁岩	(12.9)	10.5	1.8	0.3	-2.8	A	b	b	a	I c		
44	10-78-III	頁岩	(27.6)	16.4	5.0	2.1	-4.0	A	b	b	a-b	I c		
45	15-76-III	頁岩	(18.5)	13.9	4.2	0.7	-4.0	A	b	b	a	I c		
46	28-28-V	頁岩	(22.2)	12.5	3.1	1.0	-4.0	A	b	b	a	I c		
47	EP59	頁岩	(36.0)	18.9	4.8	2.9	-1.6	B	b	b	a	I d	83-29	
48	34-58-II	頁岩	38.5	16.9	5.8	2.8	-1.5	A	a	a	-	I d	83-30	
49	32-81-II	頁岩	39.1	24.3	7.6	5.7	-1.3	A	a	a	a	c	I d	
50	28-26-V	頁岩ア	32.7	11.6	3.8	1.3	+9.5	A	a	b	-	II	83-31	
51	15-79-III	玉髄質	21.0	10.2	2.7	0.5	+6.9	A	a	a	-	III	83-32	
52	11-60-III	頁岩	38.4	8.4	3.2	0.8	+6.0	A	b	b	-	III	83-33	
53	Kトレンチャー8	頁岩	(30.2)	12.6	3.6	1.2	+10.5	A	b	b	a	III		
54	19-18-III	黒曜石	22.6	12.2	3.3	0.7	+9.4	A	b	b	-	IV	83-34	
55	ST16	頁岩ア	25.3	10.3	3.3	0.6	+7.3	A	b	b	-	IV	83-35	
56	27-32-V	頁岩	(29.8)	12.1	3.1	1.2	(+11.5)	A	b	b	d	IV	83-36	
57	37-33-V	頁岩	33.5	10.4	3.4	1.0	+12.0	A	b	b	a	IV	83-37	
58	ST16	頁岩	(33.7)	15.0	4.3	1.7	(+9.5)	A	b	b	d	IV	83-38	
59	15-81-III	鉄石英	(18.4)	11.6	3.8	0.8	(+6.8)	A	b	b	d	IV		
60	8-71-III	頁岩	42.2	11.8	4.6	2.0	+23.0	A	b	b	-	V	83-39	
61	31-28-V	頁岩	(22.8)	14.7	5.8	1.5	-3.2	A	d	d	b-c	V	83-40	
62	11-90-III	頁岩	(26.6)	15.0	5.9	2.0	-2.5	A	d	d	b	V	83-41	
63	28-23-V	頁岩ア	(24.1)	18.7	3.3	1.5	-7.2	B	b	b	a	V	83-42	
64	25-61-II	頁岩	(24.3)	(19.3)	(3.6)	1.2	-	-	-	-	b-c	VIa	83-43	
65	11-53-III	頁岩	(17.0)	12.2	3.5	0.8	(-1.2)	B	b	b	b-c	VIa		
66	18-61-III	頁岩	(14.5)	(10.8)	(2.1)	0.3	-	-	-	-	b-c	VIa		
67	37-22-V	頁岩	(24.7)	(15.4)	(3.1)	0.7	(-0.7)	-	a	-	a-c	VIa		
68	15-76-III	頁岩	(18.5)	(10.6)	(2.6)	0.5	-	-	-	-	-	b	VIa	
69	37-45-III	黒曜石	(19.6)	(18.8)	(4.6)	1.2	-	-	-	-	a-b+c	VIa		
70	ST70		(32.0)	(18.1)	(6.7)	2.8	-	A	b	b	b-c	VIa		
71	11-38-III	頁岩	(23.6)	(11.7)	(2.2)	0.5	-	-	-	-	b	b	VIa	
72	44-31-IV	頁岩	32.4	21.9	2.2	2.1	-	-	-	-	-	-	VIb	83-44
73	17-70-III	頁岩	31.6	15.6	4.4	2.1	-	-	-	-	-	-	VIb	83-45
74	34-17-V	頁岩	30.2	21.6	7.0	4.2	-	-	-	-	-	-	VIb	
75	28-21-IV	頁岩	31.7	17.5	6.2	2.5	-	-	-	-	-	-	VIb	
76	ST8	頁岩	27.1	18.2	6.8	3.5	-	-	-	-	-	-	VIb	

表-10 石鏃属性表(3)

№	出土区	石材	大 き さ			重量 (g)	採深 (深長)	最大幅 の位置	側 縁		残存 部位	分類	特 記
			長	幅	厚				左	右			
77	16-72-III	頁岩	27.2	21.1	5.8	3.4	-	-	-	-	-	-	VIb
78	11-66-III	頁岩	20.6	13.9	4.2	1.0	-	-	-	-	-	-	VIb
79	25-61-III	頁岩	44.7	25.0	7.1	6.3	-	-	-	-	-	-	VIb
80	11-59-III	頁岩	32.7	18.0	6.0	3.3	-	-	-	-	-	-	VIb
81	17-55-III	頁岩	23.3	17.2	4.7	2.1	-	-	-	-	-	-	VIb
82	21-58-III	頁岩	23.5	17.3	3.1	1.3	-	-	-	-	-	-	VIb
83	28-36-V	メノウ	38.8	23.6	6.5	5.8	-	-	-	-	-	-	VIb
84	19-70-III	頁岩	28.4	22.4	5.0	3.1	-	-	-	-	-	-	VIb
85	12-54-III	頁岩	28.1	22.8	4.9	2.7	-	-	-	-	-	-	VIb
86	17-55-III	頁岩	(17.9)	(17.6)	(4.7)	1.4	-	-	-	-	-	-	VIb
87	8-61-III	頁岩	25.6	19.3	7.4	4.1	-	-	-	-	-	-	VIb
88	トレンチK-6	頁岩	(29.6)	14.2	5.8	2.1	-	-	-	-	-	-	VIb

属性表注

- 1 大きき 長、幅は第121図に示したように、その全長、ならびに最大幅である。厚さは最大厚とした。折損品については()を付し残存値を示した。
- 2 最大幅の位置 全長を二分した場合、その上半部にあるものをBとし、下半部にあるものをB'とした。
- 3 側縁 先端部を上に向け、調整加工がより入念な方を上にして置いた時の左側を左、右側を右とし、先端部から基部までの縁線の形態を、直線状を示すa、凸弧を描くb、凹弧をc、「く」の字状となるdの四種類に分けて示した。
- 4 残存部位 全長を形等分して、先端部をA、中央部をB、基部部をCとして、折損品の残っている部分を示した。



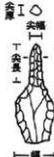
第121図 尖頭器模式図

表-11 尖頭器属性表

№	出土区	石材	大 き さ			重量 (g)	最大幅 の位置	側 縁		残存 部位	分類	特 記
			長	幅	厚			左	右			
1	38-22-IV	頁岩	50.5	19.7	8.3	6.9	B	b	b	-	I	84-46
2	ST19	頁岩	(50.7)	29.5	10.1	10.9	B	b	b	A+B	I	84-47
3	29-17-V	頁岩	(62.0)	(21.9)	13.4	11.9	B	a	b	A+B	I	84-48
4	ST2	頁岩	(69.9)	39.0	14.3	3.3	-	b	b	A+B	I	84-49
5	36-21-V	頁岩	(33.0)	22.7	6.6	5.6	-	b	b	B	II	84-50
6	Kトレンチ-6	頁岩	(41.7)	(53.3)	(10.5)	27.5	-	b	b	B	II	84-51

属性表注

- 1 大きき 長、幅、厚は全体、最大幅、最大厚、折損品は()を付して残存値を示した。
- 2 尖頭部 第122図に示したように長は尖頭部の長さ、幅は尖頭部の中間位置における幅、厚は先端部から5mmの位置で計測した。また、断面形もこの位置で観察し、折損品は折れ口で観察した。II類の尖頭部の長さは先端に向って収束する変曲点の位置から先端までを計測した。同じI類についてもI類、II類に準じたが、なお、不明確なものについては裏面の調整加工のある部分から先端部までを計測した。
- 3 尖頭部加工 先端部を上に向け、素材の背面側を上にして置いた時の左側をa、右側をb、裏面の右側をc、左側をdとした。従って、aとd、bとcで縁辺を形成することになる。○印のあるものが加工のあるものである。



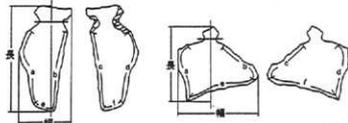
第122図 石鏃模式図

表-12 石鋸屬性表

№	出 土 区	石材	大 き さ			重量 (g)	尖 頭 部				先頭部加工				折損	分類	押印	
			長	幅	厚		長	幅	厚	断面形	a	b	c	d				
1	30-22-V	頁岩	33.2	69.9	2.4	0.4	25.9	7.7	1.7	三角形	○	○	○	○	-	I a	84-52	
2	28-32-V	頁岩	33.2	16.4	8.0	3.8	19.5	9.8	3.4	凸レンズ形	○	○	○	○	-	I a	84-53	
3	23-30-II	頁岩	36.5	17.3	6.3	3.4	14.8	6.7	4.1	三角形	○	○	○	○	-	I a	84-54	
4	28-30-V	頁岩	48.6	26.4	9.9	7.8	20.7	6.1	4.2	三角形	○	○	○	○	-	I a	84-55	
5	11-69-III	頁岩 (90.8)	(33.9)	(19.8)	(31.1)		29.0	8.8	5.9	三角形	○	○	○	○	-	基部	I a	84-56
6	11-38-III	頁岩 (55.1)		22.9	7.0	6.4	(26.7)	5.4	2.5	台形	○	○	○	○	○	先端	I a	84-57
7	30-41-II	頁岩 (37.2)		(26.8)	(12.2)	7.8	18.0	9.3	6.2	腰形	○	○	○	○	○	基部	I a	84-58
8	12-80-III	頁岩 (30.5)		(10.3)	(3.1)	1.0	24.5	5.6	3.1	腰形	○	○	○	○	○	基部	I a	84-59
9	12-77-III	頁岩 (36.4)		14.9	6.3	2.5	(24.4)	(6.9)	(4.0)	腰形	○	○	○	○	○	先端	I a	
10	28-20-V	頁岩 (33.4)		17.6	5.6	3.2	(3.6)	(8.4)	(3.2)	凸レンズ形	○	○	○	○	○	先端	I a	
11	30-29-V	頁岩 (44.3)		(16.5)	(7.0)	4.6	22.1	10.3	3.2	凸レンズ形	○	○	○	○	○	基部	I a	
12	16-30-III	頁岩 (27.1)		(12.1)	(3.9)	0.8	4.8	4.9	1.8	腰形	○	○	○	○	○	基部	I a	
13	14-58-III	頁岩 (51.5)		(13.3)	(9.1)	7.4	(12.1)	(5.7)	(5.0)	台形	○	○	○	○	○	先端-基部	I a	
14	14-84-III	頁岩 (22.0)		(12.5)	(3.3)	0.7	(22.0)	(4.4)	(1.6)	台形	○	○	○	○	○	先端-基部	I a	
15	ST70	頁岩	41.2	34.6	10.6	11.3	5.8	5.4	5.1	腰形	○	○	○	○	-	I b	84-60	
16	SG137(48-44)	頁岩	39.9	28.7	10.2	8.5	7.0	8.8	7.0	腰形	○	○	○	○	-	I b	84-61	
17	1トロンチ(田-81-甲)	頁岩	35.1	23.1	8.8	5.8	4.9	6.6	4.3	腰形	○	○	○	○	-	I b	84-62	
18	84-21-IV	頁岩	71.0	48.4	17.0	41.5	19.0	18.3	8.2	凸レンズ形	○	○	○	○	-	I b	84-63	
19	11-61-III	頁岩	27.6	8.1	4.8	1.1	14.8	5.8	2.8	台形	○	○	○	○	-	II	84-64	
20	17-66-III	頁岩	32.0	9.3	5.0	1.4	28.7	4.6	2.9	腰形	○	○	○	○	-	II	84-65	
21	ST12	頁岩	32.9	9.0	5.8	1.5	16.0	7.4	4.4	腰形	○	○	○	○	-	II	84-66	
22	17-66-III	頁岩	49.1	11.8	6.0	3.9	17.0	7.6	3.9	腰形	○	○	○	○	-	II	84-67	
23	ST10	頁岩	51.0	11.5	4.8	2.8	26.0	7.3	3.0	三角形	○	○	○	○	-	II	84-68	
24	38-83-III	頁岩	60.6	12.0	7.1	6.7	17.8	7.7	4.1	腰形	○	○	○	○	-	II	85-69	
25	28-30-IV	頁岩	71.4	19.1	12.0	15.3	34.0	10.9	4.5	腰形	○	○	○	○	-	II	85-70	
26	26-24-V	頁岩	63.9	13.9	8.5	6.6	24.8	8.5	4.6	台形	○	○	○	○	-	II	85-71	
27	10-58-III	頁岩 (44.1)		9.8	5.0	2.3	(14.7)	(6.3)	(4.4)	腰形	○	○	○	○	-	先端	II	85-72
28	32-81-III	頁岩 (45.5)		16.2	8.7	6.3	(10.7)	(11.2)	(2.7)	腰形	○	○	○	○	○	先端	II	85-73
29	32-18-V	頁岩 (55.8)		30.0	15.4	20.2	16.0	6.9	4.4	三角形	○	○	○	○	-	II	85-74	
30	34-26-V	頁岩 (75.5)		41.0	8.5	25.0	6.0	4.7	2.0	凸レンズ形	○	○	○	○	-	II	85-75	
31	11-71-III	頁岩 (38.4)		29.8	6.6	6.9	7.8	6.8	4.1	腰形	○	○	○	○	-	II	85-76	
32	ST14	頁岩 (44.5)		29.4	10.0	7.2	9.6	8.9	4.0	三角形	○	○	○	○	-	II	85-77	
33	SK29	頁岩 (41.6)		20.8	7.4	4.6	26.5	8.9	3.1	腰形	○	○	○	○	-	II	85-78	
34	5-71-III	頁岩 (29.0)		(15.8)	(4.0)	1.8	(29.0)	6.0	3.3	三角形	○	○	○	○	-	基部	III	
35	8-80-III	頁岩 (30.6)		(19.3)	(7.8)	3.6	(22.0)	5.0	4.3	三角形	○	○	○	○	-	基部	III	
36	14-76-III	メノウ (36.0)		18.0	5.2	4.3	(2.6)	(5.3)	(2.0)	凸レンズ形	○	○	○	○	○	先頭部	IV	85-79
37	35-30-V	頁岩 (18.5)		27.2	7.0	3.9	-	-	-	-	○	○	○	○	○	先頭部	IV	85-80
38	14-58-III	頁岩 (27.9)		23.9	7.1	3.4	(9.8)	(7.7)	(4.0)	凸レンズ形	○	○	○	○	○	先頭部	IV	85-81

属性表注

- 1 大きさ 第123図に示したように、長は左右のノッチの最も鋭み部を結んだ線に垂直線を引き、上端、下端の最も突出する位置から、この垂直線に直交する線を引きその距離を計測した。幅はこの垂直線を軸として、左、右の最も突出する位置から、垂直線に平行な線を引き、その距離を計測した。したがって、長、幅ともみかけの大きさとなる。厚は最大厚をとった。
- 2 加工部位と種類 第123図のように素材の背面を上にして、つまみ部を上方に最大厚の場合、表面の左側をa、右側をb、裏面の左側をc、右側をd、また、表面の下縁をe、その裏面をfとし、それぞれの部位の加工状況を示した。先端の尖がまるものは、e、f欄に×を入れた、加工のないものは一とした。加工の種類は1:通常研磨 2:フルーティング線研磨 3:奥行2mm前後の微細な研磨、のこぎりに分け、緑辺の長さにわたるものについてはA、緑辺を三等分した場合、その1/3以上が加工されているものをB、1/3未満のものとして、その組み合わせて表記した。また緑辺が異なる種類の研磨で加工されているものは、上部から順に、3・1・Aのように記した。なお、加工が素材の中央部に達する面的な加工が施されているものは、数字を○で囲み、緑辺全体が加工されているように凸痕を二つともにつけては、B・Bと記すものを入れた。また刃角についてはa・b・c・d・e・fのように記す。
- 3 緑辺の状況と平均刃角 緑辺が直線状になるものをCとし、凸痕を深くものをB、凹痕を深くものをCとし、たとえば第123図のa-dのように凸痕を二つともにつけては、B・Bと記すものを入れた。また刃角についてはa・b・c・d・e・fのように記す。



第123図 石鋸横断面図

表-13 石鋸属性表(1)

№	出 土 区	石材	大 き さ (mm)			重量 (g)	加工部位と種類						緑辺状況と平均刃角		折れ	分類	押印				
			a	b	c		d	e	f	刃角	b/c	刃角	e/f								
1	31-25-V	頁岩	68.6	19.8	7.6	9.0	①A	①A	1B	1B	×	×	B	59	B	52	×	I a1	85-82		
2	SG137(49-47)	頁岩	81.4	22.7	8.6	12.7	1A	1A	1A	1A	×	×	B	85	C	76	×	右辺	I a1	85-83	
3	32-18-V	頁岩	61.8	18.6	8.1	10.3	1A	①A	1B	-	×	×	B	62	B	53	×	I a2	85-84		
4	47-26-IV	頁岩	65.6	23.7	6.5	9.7	1-2A	1-2A	-	×	×	B	46	B	40	×	I a2	85-85			
5	40-28-V	頁岩	62.1	26.2	5.0	9.1	2A	2A	-	-	3B	-	B	43	B	39	A	80	I a2	85-86	
6	38-23-V	頁岩	58.2	23.0	5.5	8.9	1A	2A	-	-	2A	-	B	54	B	46	B	54	I a2	85-87	
7	5-71-III	頁岩	71.5	29.6	9.9	17.5	2A	2A	-	-	×	×	B	57	A	66	×	I a2	85-88		
8	ST11	頁岩	61.9	36.3	9.4	22.3	2A	1A	1A	1A	1A	1A	B	60	B	39	B	54	I a3	86-89	
9	2トロンチ	頁岩	59.9	35.4	9.9	20.9	1B	1C	-	-	2A	1A	A	44	A	54	A	83	I a3	86-90	
10	12-86-III	頁岩	70.2	37.7	10.5	22.7	1A	1A	-	-	2B	-	B	44	B	40	B	53	I a4	86-91	
11	33-26-V	頁岩	53.8	26.9	8.4	14.2	1-3A	-	3A	-	×	×	B	73	B	61	×	I a4	86-92		
12	10-73-III	頁岩	32.3	27.2	9.0	5.3	1A	1A	-	1B	1A	-	B	48	C	35	B	32	I a5	86-93	
13	SK123	頁岩	55.0	30.5	8.3	11.2	①A	①A	1A	1A	1A	×	×	B	46	C	38	×	I b1	86-94	
14	ST70	頁岩	70.5	30.3	5.6	10.7	1A	1A	1A	-	×	×	B	35	B	40	×	I b1	86-95		
15	ST10	頁岩ア	70.1	50.6	11.2	37.1	1A	1A	1A	1A	1A	1A	A	55	A	B	59	B	57	I b1	86-96
16	SG137	頁岩	52.9	32.3	5.8	11.0	2A	1A	1A	1A	1-2A	1A	A	B	49	B	60	B	55	I b1	86-97
17	SG137	頁岩	(66.1)	41.8	8.0	13.3	1B'	1B'	1A'	1A'	-	-	B	39	C	40	-	左端	I b1	86-98	
18	29-19-V	頁岩 (63.8)	(34.0)	11.0	19.1	1A'	1A'	1A'	1A'	-	-	A	63	B	66	-	-	左端	I b1		
19	SG137	頁岩	56.7	33.9	6.2	9.7	3A	1-3A	3B	1C	×	×	B	54	B	53	×	-	I b2	86-99	
20	SK40	頁岩	61.4	31.5	7.2	13.5	1A	1A	-	-	×	×	B	40	B	44	×	-	I b2	86-100	
21	12-67-III	頁岩	67.8	38.1	8.9	22.0	2A	2A	-	-	×	×	B	47	A	64	×	-	I b2	86-101	
22	10-45-III	頁岩 (77.5)		23.9	6.4	8.6	1-3A'	1A'	1C'	1C'	-	-	B-A	56	C-A	58	-	-	左端	I b2	86-102

表-14 石匙属性表(2)

№	出 土 区	石材	大きさ (mm)			加工部位と種類										縁辺状況と平均角			折れ	分類	押洞							
			長	幅	厚	a	b	c	d	e	f	a-d	b-c	角	e-f	角												
																	角	角				角						
23	ST 4	頁岩	70.0	25.7	6.1	10.3	1 A	1 A	-	-	-	-	-	-	X	X	B	53	C	46	X	-	1	bz	86-103			
24	37-26-V	頁岩	52.5	28.2	7.6	20.4	2 A	2 A	-	-	-	X	X	X	B	57	C	52	X	-	-	-	-	1	bz	87-104		
25	SK22 (RQ13)	頁岩	83.1	35.2	6.9	17.7	1 A	1-2A	-	-	-	1 A	1 A	B	29	C-B	52	A	37	-	-	-	-	1	bz	87-105		
26	6-50-III	頁岩	(77.1)	31.5	6.8	15.1	1A'	2A'	-	-	-	-	-	-	-	B	58	A-C	41	-	-	-	-	未端	1	bz	87-106	
27	33-25-V	頁岩	82.0	48.0	17.0	32.6	2 A	1 C	1 C	-	2 A	-	-	B	60	A	65	B	60	-	-	-	-	1	bz	87-107		
28	22-72-III	頁岩	84.9	(38.9)	11.2	34.3	1 A	2 A	1 B	-	1 C	X	X	A-B	53	A	49	X	-	-	-	-	-	左辺	1	bz	87-108	
29	ST 8	頁岩	46.7	24.8	6.0	5.4	-	3 B	-	-	-	-	-	B	36	C	24	B	34	-	-	-	-	1	bz	87-109		
30	30-22-V	頁岩	66.6	40.8	9.5	19.9	1 A	1 A	-	-	1 A	-	-	B	50	B	45	B	33	-	-	-	-	1	bz	87-110		
31	ST 4	頁岩	(59.8)	36.8	7.2	13.3	1A'	1A'	-	-	1C'	-	-	B	62	C	55	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	87-111	
32	17-78-III	頁岩	(67.5)	(41.3)	10.8	23.1	2A'	1C'	1C'	1C'	-	-	A-B	48	A-B	56	-	-	-	-	-	-	-	-	未端	1	bz	87-112
33	ST 4	頁岩	57.5	34.2	5.9	8.7	1 A	1-3A	1 C	1 A	3 B	-	-	B	44	B	36	C	33	-	-	-	-	-	1	bz	87-111	
34	ST 4	頁岩	(73.0)	(51.4)	11.3	29.2	2 A	2A'	1 C	1 C'	1A'	1C'	-	B	57	B	69	C	79	-	-	-	-	未端	1	bz	87-112	
35	35-27-V	頁岩	70.5	33.6	11.8	20.1	2A	1 B	1 C	X	X	C	B	40	B	33	X	-	-	-	-	-	-	-	1	bz	87-113	
36	ST78	頁岩	68.2	41.8	12.9	28.6	1A'	1 A	1 C	1C'	1 A	-	-	B-C	42	B	38	B	27	-	-	-	-	左下	1	bz	87-114	
37	SG137	頁岩	61.0	33.0	6.5	8.7	1 A	1A'	-	-	X	X	X	A	40	B	44	X	-	-	-	-	-	右辺	1	bz	87-115	
38	16-23-III	純石英	63.7	30.2	6.4	12.2	1-2A	1 A	1-3B	1 B	X	X	X	B	50	B	35	X	-	-	-	-	-	-	1	bz	87-116	
39	ST 8	頁岩	65.5	32.0	9.1	14.9	2A	2A	2A	2A	X	X	C	61	B	56	X	-	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-117	
40	SG137	頁岩	55.7	42.9	5.8	11.9	1 A	2 A	1 A	1 A	X	X	C	62	B	66	X	-	-	-	-	-	-	左辺	1	bz	88-118	
41	30-25-V	頁岩	55.7	38.4	11.9	21.4	1 A	1 A	2 A	2A	1 A	1 A	1 A	73	B	72	B-B	53	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-119	
42	35-27-V	頁岩	59.9	30.2	9.2	15.4	1 B	1 A	1 A	1 A	1 A	1 A	1 A	67	B	62	B	59	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-120	
43	ST78	頁岩	48.4	36.7	8.8	12.2	1 A	1A'	1A'	1 B	1A'	1A'	-	B	54	B	48	A	48	-	-	-	-	-	下	1	bz	88-121
44	12-86-III	頁岩	59.3	38.9	6.8	14.2	1 A	1-3A	-	-	2 A	-	-	B	44	B	48	B	21	-	-	-	-	-	1	bz	88-121	
45	ST10	頁岩	50.9	35.4	9.7	12.8	1 A	1 A	1 C	1 B	1 B	-	-	A-B	44	A-C	36	B	56	-	-	-	-	-	1	bz	88-122	
46	ST15	頁岩	(54.8)	26.9	7.9	9.2	3A'	1 A	-	-	1A'	-	-	C	70	B	51	C	28	-	-	-	-	-	未端	1	bz	88-122
47	ST78	頁岩	(62.7)	27.5	10.7	17.8	2A	2A	-	-	1A'	-	-	B	56	B	54	-	-	-	-	-	-	-	未端	1	bz	88-124
48	29-48-IV	頁岩	67.4	30.9	6.9	11.2	1-2A	2 A	-	-	X	X	B	47	B	66	X	-	-	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-125
49	27-33-V	頁岩	73.1	33.3	9.0	20.9	1-3B	2 A	-	-	X	X	C	41	B	39	X	-	-	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-126
50	SK22 (RQ14)	頁岩	(63.4)	28.8	7.1	15.3	1 B	1-3A	-	-	1A'	-	-	C	53	B	49	B	39	-	-	-	-	-	未端	1	bz	88-127
51	36-22-V	頁岩	56.3	41.4	9.6	25.0	1 A	1 B	1 C	1 B	1 B	B	51	B	53	B	55	-	-	-	-	-	-	-	1	bz	88-128	
52	ST14	頁岩	77.5	44.5	14.2	31.7	3 A	1 A	1 B	-	1 B	1 C	B	A	54	A	34	B	38	-	-	-	-	-	1	bz	88-129	
53	ST 3 (RQ37)	頁岩	89.2	54.7	16.8	75.3	1 A	1 A	-	-	3 C	1 A	-	B	35	B	33	A	55	-	-	-	-	-	1	bz	88-130	
54	SG137	頁岩	(46.7)	29.3	5.5	8.3	3A'	3A'	-	-	-	-	-	B	63	A	37	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	88-131
55	10-78-III	頁岩	47.5	39.6	9.0	15.7	3 B	1 A	1 C	-	1 A	-	-	C	70	B	43	A-B	33	-	-	-	-	-	1	bz	89-151	
56	12-86-III	頁岩	(75.4)	33.0	8.2	13.9	1A'	2A'	-	-	X	X	C	36	B	47	X	-	-	-	-	-	-	-	未端	1	bz	89-152
57	29-23-V	頁岩	69.3	27.5	9.0	18.8	2A	2A	-	-	1 A	-	-	B	56	B	50	B	60	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-153
58	41-30-V	頁岩	41.8	29.5	6.1	6.7	1 A	1 A	-	-	2 A	-	-	A-A	48	B	30	A	36	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-134
59	SM74	頁岩	48.1	27.5	5.1	6.6	1-3A	3A	1 C	3 A	-	-	B	51	B	53	B	79	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-135	
60	ST70	頁岩	(57.8)	39.2	7.9	14.6	3 B	1A'	1 B	-	1 C	-	-	A	45	B	40	C-B	43	-	-	-	-	-	未端	1	bz	89-136
61	ST21	頁岩	54.2	24.8	7.0	9.4	2 B	2 A	-	-	3 C	2 A	-	A	52	B	53	A	48	-	-	-	-	-	1	bz	89-139	
62	38-31-V	頁岩	70.6	49.7	9.9	21.8	3A	1A'	1 A	-	-	1 A	-	-	B-B	66	B	48	B	51	-	-	-	-	1	bz	89-157	
63	ST14	頁岩	35.0	43.5	7.5	9.9	1 A	1 B	1 A	1 A	1 B	1 A	B	52	B	53	C	51	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-138	
64	23-84-III	頁岩	30.4	46.4	9.4	12.0	1 A	1 A	1 A	1 A	1 A	1 A	1 A	44	C-A	62	B	54	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-139	
65	ST38	頁岩	28.8	37.6	6.6	5.8	1 B	2 A	1 A	1 B	1 C	2 A	B	45	B	22	C	32	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-140	
66	28-28-IV	頁岩	49.1	60.9	10.9	31.9	2 A	2 A	B	-	2A	-	-	B	52	B	56	B	49	-	-	-	-	-	-	1	bz	89-141

表-15 石匙属性表(9)

№	出 土 区	石材	大きさ (mm)			加工部位と種類										縁辺状況と平均角			折れ	分類	押洞									
			長	幅	厚	a	b	c	d	e	f	a-d	角	b-c	角	e-f	角													
																		角				角	角							
67	SG137 (48-51)	メノウ	49.9	63.5	9.1	21.2	3 B	3 A	3 B	-	3 B	-	-	B	58	B	58	B	72	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-142		
68	46-41-III	頁岩	(56.9)	47.4	12.8	26.7	1A'	1A'	1A'	1A'	-	-	-	B	78	B	72	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-143		
69	37-31-III	頁岩	(40.8)	25.6	10.0	10.2	3A'	2A'	-	-	-	-	-	B	49	B	49	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-144		
70	SG137 (43-47)	頁岩	(31.0)	(29.4)	(9.5)	7.8	1A'	70	B	70	B	51	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-145							
71	SG137	頁岩	(71.8)	37.5	17.1	37.1	-	1A'	1B'	-	-	-	-	A	66	B	58	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-146	
72	SG137	頁岩	(37.4)	27.6	7.0	6.3	1A'	A	40	B	41	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-147							
73	32-23-V	頁岩	(44.4)	(24.5)	5.0	5.2	3A'	3A'	-	-	-	-	-	A	60	A	61	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-148	
74	ST10	頁岩	(42.4)	(39.8)	4.3	5.6	1 A	1 A	-	-	1A'	1A'	-	B	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	79	下半	1	bz	89-149
75	ST12	ア	(50.2)	(46.3)	13.9	23.4	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	B	59	B	68	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-150	
76	17-58-III	頁岩	(46.7)	(50.1)	(9.0)	15.7	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	B	52	B	60	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-151	
77	37-31	頁岩	(69.4)	(24.0)	(15.0)	15.7	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	A	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-152	
78	12-69-III	頁岩	(42.9)	(32.2)	(11.2)	14.6	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	A	53	A	55	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-153	
79	18-77-III	頁岩	(29.5)	(24.9)	(4.5)	4.0	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	B	62	B	63	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-154	
80	10-84-III	黒曜石	(30.2)	(28.4)	(9.4)	5.5	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	1A'	-	B	86	B	76	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-155	
81	8-48-III	頁岩	(23.0)	(20.9)	(7.8)	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	下半	1	bz	89-156	

属性表注

- 大きさ 第124図に示したように、石匙の輪線を基準として、その全長を長さ、みかけの幅を幅、最大厚を厚の順に記した。
- 加工部位と種類 原則として素材

表-22 副器属性表(2)

No.	出 土 区	石材	大きさ (mm)			重量 (g)	加工部位と種類								縁辺状況と平均角						折れ	分類	種別							
			長	幅	厚		a	b	c	d	e	f	a-d	b-c	角	e-f	角	角	角	角										
																								角	角	角	角	角	角	角
40	Kトレンチ7	頁岩	39.7	18.8	4.3	2.6	3	1B	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-255	
41	18-53-Ⅲ	頁岩	44.3	19.8	6.9	5.6	3	2A	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-256	
42	14-61-Ⅲ	頁岩	49.9	22.8	6.7	7.5	1	1B	-	-	3	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-257
43	14-59-Ⅲ	頁岩	51.9	21.5	4.9	5.4	1	DB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-258
44	ST61	頁岩	55.7	23.4	6.5	8.7	3	2A	3	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-259
45	10-69-Ⅲ	頁岩	60.9	31.0	8.7	15.3	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-260
46	14-59-Ⅲ	頁岩	87.3	26.9	9.1	22.7	1	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-261
47	Aトレンチ	頁岩	53.0	23.7	8.1	8.5	2	C	1	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-262
48	31-23-V	頁岩	46.0	35.5	13.0	20.9	1	C	2	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-263
49	25-26-V	頁岩	53.3	44.5	14.3	20.4	1	B	1	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-264
50	15-78-Ⅲ	頁岩	41.4	32.8	6.2	4.8	3	B	3	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-265
51	ST61	頁岩	52.0	42.4	9.4	16.9	1	A	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-266
52	SK27	頁岩	63.4	52.7	10.6	23.3	3	B	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-267
53	Aトレンチ①	頁岩	62.2	48.5	5.8	16.3	1	C	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	97-268
54	29-23-V	頁岩	72.0	54.5	14.6	51.1	3	1B	3	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-269
55	22-48-Ⅲ	頁岩	(58.0)	25.4	8.2	13.4	2	1A	2	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-270
56	21-58-Ⅲ	頁岩	50.8	22.3	6.5	7.3	1	B	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-271
57	14-61-Ⅲ	頁岩	41.8	17.7	6.9	3.5	1	3	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c1	98-272
58	11-59-Ⅲ	頁岩	(28.2)	(21.0)	(8.0)	5.4	1A	1A	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-273
59	11-59-Ⅲ	頁岩	(52.0)	(32.2)	(9.1)	17.8	1A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-274
60	29-30-V	頁岩	63.1	46.0	10.7	26.2	1	A	3	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-275
61	11-33-V	頁岩	69.9	30.4	8.0	15.9	1	A	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-276
62	ST78	頁岩	(49.6)	(27.5)	(8.9)	11.2	2A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-277
63	ST 4	頁岩	(28.8)	(22.3)	(5.1)	4.2	1A	1A	1B	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-278
64	10-78-Ⅲ	頁岩	(30.4)	(17.7)	(5.4)	3.3	2A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-279
65	ST11	頁岩	32.4	22.4	5.5	3.6	1	B	1	C	1	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-280
66	31-24-V	頁岩	46.8	29.6	3.5	4.0	1A	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-281
67	17-58-Ⅲ	頁岩	(56.0)	(30.6)	(7.0)	7.7	1A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-282
68	SG137 (49-44)	頁岩	(38.6)	(21.7)	(4.4)	3.6	1A	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-283
69	33-22-V	頁岩	(43.0)	(30.4)	(5.3)	5.3	1A	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-284
70	15-81-Ⅲ	頁岩	(49.5)	(20.2)	(5.9)	6.5	DA	DA	DA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-285
71	7-86-Ⅲ	頁岩	(58.9)	(32.5)	(8.6)	16.7	1B	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-286
72	15-31-Ⅲ	頁岩	61.7	29.4	6.5	10.9	1	A	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-287
73	SG137 (42-40)	頁岩	(50.3)	47.9	11.7	23.9	1	C	1	A	1	B	1	C	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-288
74	31-19-V	頁岩	59.5	40.5	9.8	26.2	1	A	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-289
75	SK23	頁岩	60.1	40.4	8.9	19.9	3	A	3	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-290
76	Kトレンチ-8	頁岩	101.9	33.3	11.8	46.7	1	B	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-291
77	16-29-E	頁岩	115.8	38.1	10.5	49.7	1	A	DB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-292
78	10-73-Ⅲ	頁岩	(46.8)	(28.0)	8.6	11.7	2A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-293
79	6-79-Ⅲ	頁岩	(33.8)	(31.2)	(6.8)	7.0	1A	1A	1C	1C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-294
80	42-27-Ⅲ	頁岩	68.0	55.0	14.5	42.9	1	A	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-295
81	42-27-Ⅲ	頁岩	(51.1)	20.3	5.2	5.2	1A	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-296
82	ST11	頁岩	70.2	36.8	13.6	28.1	1	A	1	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-297
83	29-18-V	頁岩	40.1	22.1	3.9	3.9	3	B	3	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c4	98-298

表-23 副器属性表(3)

No.	出 土 区	石材	大きさ (mm)			重量 (g)	加工部位と種類								縁辺状況と平均角						折れ	分類	種別							
			長	幅	厚		a	b	c	d	e	f	a-d	b-c	角	角	角	角	角	角										
																								角	角	角	角	角	角	角
84	ST 4	頁岩	49.0	27.1	6.6	6.9	1B	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-299
85	11-69-Ⅲ	頁岩	(57.7)	(25.0)	4.5	7.3	2A	1A	1A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-300
86	ST20	頁岩	92.1	36.0	12.3	38.8	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-301
87	Bトレンチ	頁岩	48.0	25.0	11.9	12.3	1	C	3	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-302
88	ST19	頁岩	74.5	69.0	15.9	84.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-303
89	16-82-Ⅲ	頁岩	41.8	27.7	7.1	7.8	2	C	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-304
90	ST14	頁岩	(54.3)	(38.2)	(6.1)	14.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-305
91	12-67-Ⅲ	頁岩	(64.1)	(50.8)	(14.2)	38.1	3C	3A	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-306
92	12-56-Ⅲ	頁岩	52.8	31.5	10.2	19.1	1	A	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-307
93	7-68-Ⅲ	頁岩	60.4	42.3	10.0	21.9	3	B	1	3B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-308
94	15-78-Ⅲ	頁岩	52.9	38.1	7.0	17.3	1	A	1	A	1	C	1	C	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-309
95	32-59-V	頁岩	(18.6)	(26.7)	(4.7)	2.5	2A	2A	2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-310
96	31-25-V	頁岩	74.8	37.1	10.7	25.3	1	A	1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-311
97	17-78-Ⅲ	頁岩	(46.2)	(38.0)	(8.0)	11.2	1A	1A	1C	1C	1	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	■	c5	98-312
98	17-80-																													

表-24 磨製石斧属性表

No.	出土区	石材	大きさ			重量 (g)	刃部形態		残存部位	備考	採国
			長	幅	厚		平面形	断面形			
1	SP64		58.9	32.8	10.9	41.0	楕圓	両刃		101-1	
2	Tトレンチ		71.8	34.6	14.5	73.9	楕圓	両刃		101-2	
3	SG137	砂岩	98.1	41.2	18.5	126.5	楕圓	両刃		101-3	
4	ST19F.		82.2	37.6	17.4	105.2	楕圓	両刃		101-4	
5	ST19 (RQ11)		81.4	45.2	18.7	130.2				101-5	
6	ST 5 (RQ48)	石英安山岩	(124.0)	52.7	38.6	320.0			基部	刃部再生中	101-6
7	ST19 (RQ10)	砂岩	(118.9)	52.5	38.5	288.8			基部		101-7
8	29-28-V		141.7	54.9	23.1	352.0	楕圓	両刃		凹石転用	101-8
9	6-90-Ⅲ		129.6	52.4	25.5	321.4	楕圓	両刃			101-9
10	ST14		129.5	58.1	27.8	373.4					101-10
11	X-O		(76.6)	47.9	21.4	157.4	楕圓	両刃	刃部		101-11
12	8-66-Ⅲ		(21.4)	(46.0)	(9.2)	9.0	楕圓	不明	刃部先		101-12
13	29-25-V	石英安山岩	(34.0)	(39.0)	(16.6)	16.7	楕圓	両刃	刃部先		101-13
14	ST24		(24.3)	(26.9)	(8.3)	5.3	楕圓	不明	刃部先		102-1
15	31-21-V		(40.5)	(45.0)	(11.5)	22.9	楕圓	両刃	刃部先		102-2
16	49-45		(58.1)	35.8	13.2	52.1	楕圓	両刃	刃部		102-3
17	ST11		(70.0)	77.5	(26.9)	196.1	楕圓	両刃	刃部		102-4
18	5-46-Ⅲ		(73.4)	49.4	21.4	139.3	楕圓	両刃	刃部		102-5
19	ST61	石英安山岩	(115.5)	(51.7)	(25.6)	232.2			基部		102-6
20	ST11		(98.5)	(60.3)	(36.0)	250.7			基部		102-7
21	SG137		(72.3)	(40.7)	(23.3)	130.2			基部		102-8
22	ST80		(49.2)	(34.5)	(18.6)	32.9			基部		102-9
23	30-19-V		(36.6)	(30.8)	(13.1)	9.7			基部		102-10
24	SK10・トレンチ4区		(100.7)	52.1	23.5	237.4			基部		102-11
25	ST4	砂岩	(70.5)	(44.7)	(22.4)	108.2			基部		102-12
26	Tトレンチ		(41.7)	(31.2)	(21.9)	58.6			基部		102-13
27	SG137		(83.4)	(50.9)	(31.0)	239.7			基部	凹石転用	103-1
28	ST15		(92.3)	(52.0)	(28.6)	228.8			基部		103-2
29	SK22 (RQ17)		(89.0)	(46.5)	36.9	183.8			基部		103-3
30	14-72-Ⅲ		(109.0)	(63.0)	(35.4)	333.2	直	両刃	刃部	磨石転用	103-4
31	ST11		(63.2)	(57.4)	(24.7)	244.6			中間部		103-5
32	12-45-Ⅲ		(51.5)	(52.6)	(27.2)	121.7			中間部		103-6
33	32-81-Ⅱ		(41.5)	(47.0)	(24.0)	86.4			中間部		103-7
34	SK118		(39.4)	(44.6)	(19.0)	40.9			中間部		103-8
35	ST 2 (RQ82)		(121.0)	61.2	46.1	426.5			基部	磨石転用	103-9

表-25 磨石計測表(1)

採国番号	出土地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類	採国番号	出土地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類		
		長	幅	厚					長	幅	厚				
第 四	1	ST 8	72	67	61	420	Ⅱ	第 四	1	ST 3	154	62	57	894	Ⅱ
	2	SG137 48-45	94	81	44	473	Ⅱ		2	11-74-IV	160	90	73	1,071	Ⅱ
	3	7-32-Ⅲ	80	70	59	478	Ⅱ		3	28-75-Ⅲ	116	725	50	622	Ⅱ
	4	6-72-Ⅲ	110	95	65	860	Ⅱ		4	ST24	78	82	42	392	Ⅱ
	5	SG137 47-47	104	86	45	580	Ⅱ		5	ST12 RQ56	173	71	37	637	Ⅱ
	6	ST 9	105	97	46	685	Ⅱ		6	ST16	114	74	42	521	Ⅱ
	7	12-55-Ⅲ	99	95	91	573	Ⅱ		7	SG137 47-45	131	78	35	488	Ⅱ
	8	SM74	107	99	72	1,040	Ⅱ		8	12-49-Ⅲ	173	70	38	729	Ⅱ
	9	31-20-V	101	85	65	695	Ⅱ		9	Tトレンチ 8-81	132	95	55	990	I
	10	ST 5	128	106	59	1,186	Ⅱ		10	ST80	133	61	38	455	I
第 四	11	ST24	112	102	60	575	Ⅱ	1	SG137 48-30	82	53	56	323	I	
	12	36-32	129	118	33	659	Ⅱ	2	32-17-V	85	67	25	262	I	
	13	ST80	89	90	60	648	Ⅱ	3	ST15	159	55	33	417	I	
	1	ST16	110	78	47	673	Ⅱ	4	XO	167	70	67	1,179	I	
	2	ST 3	107	79	55	657	Ⅱ	5	SM74	167	76	48	1,042	I	
	3	ST 3	118	85	46	676	Ⅱ	6	ST19	160	70	47	774	I	
	4	SM74	102	75	52	567	Ⅱ	7	ST19	160	73	57	785	I	
	5	ST15	135	84	59	1,014	Ⅱ	8	ST 8	145	765	56	750	I	
	6	7-68-Ⅲ	106	84	61	688	Ⅱ	9	ST 3	137	60	44	541	I	
	7	ST80	143	86	50	964	Ⅱ	10	SG131 44-43	146	75	475	827	I	
8	ST11	126	88	52	896	Ⅱ	11	ST11	139	80	67	1,123	I		
第 四	9	ST80	142	88	53	1,100	Ⅱ	1	ST11	181	111	52	1,070	Ⅱ	
	10	ST15	119	95	55	930	Ⅱ	2	ST80	188	65	41	930	I	
	11	41-29-V	138	113	89	1,638	Ⅱ	3	SG137	220	82	73	2,556	I	
	12	SM74	117	95	51	749	Ⅱ	4	ST 3	202	87	40	1,403	I	
	1	Eトレンチ	146	70	51	785	Ⅱ	5	RQ83	157	75	45	1,030	I	
	2	SM74	121	62	41	470	Ⅱ	6	ST80	146	74	52	861	I	
	3	ST 4	47	50	41	133	Ⅲ	1	13-60-Ⅲ	103	45	40	278	I	
	4	ST14	72	55	39	231	Ⅲ	2	ST19	144	50	39	492	I	
	5	ST15	93	63	31	254	Ⅲ	3	32-24-V	139	49	35	302	I	
	6	8-68-Ⅲ	80	75	64	517	Ⅲ	4	XO	155	74	66	1,023	I	
第 四	7	ST24	74	75	38	288	Ⅲ	5	XO	175	74	42	816	I	
	8	7-60-Ⅲ	98	93	60	810	Ⅲ	6	ST 2	153	70	58	880	I	
	9	ST24	100	90	58	703	Ⅲ	7	ST 4	159	80	53	887	I	
	10	12-62-Ⅲ	116	87	44	629	Ⅲ	8	6-65-Ⅲ	187	52	29	410	I	
	11	9-64-Ⅲ	124	106	54	894	Ⅲ	9	ST 8	211	75	61	1,187	I	
	12	8-71-Ⅲ	123	116	50	1,214	Ⅲ	10	10-30-Ⅲ	125	69	58	756	I	
	13	32-25-V	132	82	25	400	Ⅲ	11	ST11	103	65	53	497	I	

表一26 磨石計測表(2)

探洞 番号	出土 地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類
		長	幅	厚		
111	1 ST15	226	82	66	1,479	I
	2 ST15	207	78	70	1,915	I
	3 ST11	182	69	40	776	I
	4 ST11	177	83	53	1,184	I
	5 14-60-II	182	67	33	623	I
	6 31-24-V	198	68	43	868	I
	7 32-25-V	162	75	35	723	I
	8 ST11	204	47	33	652	I

表一27 凹石計測表(1)

探洞 番号	出土 地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類
		長	幅	厚		
112	1 ST 2	80	73	33	228	I
	2 ST19	106	66	32	310	I
	3 17-80-II	112	83	46	598	I
	4 33-29-V	109	76	53	614	I
	5 ST 6	107	83	58	836	I
	6 ST11	136	76	58	980	I
	7 ST19	113	75	50	992	I
	8 トレンチB	136	97	44	902	I
	9 ST 1	129	88	51	964	I
	10 16-29-II	72	69	50	323	II
	11 ST 6	105	100	85	691	II
	12 ST 8	106	98	47	626	II
113	1 SM74	68	59	35	183	II
	2 ST70	82	66	42	329	II
	3 ST60	105	96	50	802	II
	4 27-28-V	86	87	44	513	II
117	5 ST 9	87	79	45	367	II
	6 ST60	103	90	58	796	II
	7 31-28-V	106	84	58	695	II
	8 ST 9	100	87	52	599	II
	9 SG137 47-45	98	93	48	531	II
	10 10-58-II	113	100	50	847	II
	11 8-63-II	124	101	52	810	II
	12 35-21-V	98	82	40	440	II

表一28 凹石計測表(2)

探洞 番号	出土 地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類
		長	幅	厚		
114	1 10-59-II	100	88	42	473	II
	2 ST19	97	77	33	396	II
	3 XO	111	94	50	777	II
	4 7-71-II	100	84	38	422	II
	5 17-80-II	120	80	39	467	II
	6 ST30	102	82	44	460	II
	7 ST 9	109	86	53	758	II
	8 ST70	111	77	35	415	II
	9 10-47-II	114	91	48	555	II
	10 35-30-V	130	63	38	323	II
	11 SK134 RQ108	125	88	62	990	II
	12 ST 9	122	75	46	547	II
115	1 SG137 43-43	98	51	29	206	II
	2 SM74	130	85	56	945	II
	3 11-48-II	139	82	48	734	II
	4 33-38-V	150	81	47	728	II
116	5 A トレンチ	127	80	38	512	II
	6 34-21-V	129	74	57	743	II
	7 ST11	128	74	42	439	II
	8 10-47-II	129	70	29	420	II
117	9 17-72-II	132	59	33	309	II
	10 SM74	153	70	41	662	II
	1 34-27-V	115	69	61	641	II
	2 26-27-V	153	55	26	323	II
118	3 SM73	167	99	58	1,146	II
	4 15-81-II	133	63	43	468	II
	5 トレンチ48	153	85	48	922	II
119	6 SG137 48-40	147	65	30	500	II

表一29 石皿計測表

探洞 番号	出土 地点	計測値 (mm)			重量 (g)	分類
		長	幅	厚		
119	7 SG-137 48-45	145	102	37	833	I
	8 ST80	168	159	29	1,206	I
120	1 SG137	197	216	62		
121	2 ST 9 RQ35	222	178	107		
	3 ST14	212	24	60		
122	4 ST19	168	141	79	2,746	

第VII章 調査のまとめ

今回の調査は、東北横断自動車道酒田線建設工事ともなう、野新田遺跡の緊急発掘調査である。調査で得られた成果を以下に要約する。

- 野新田遺跡は、山形県東田川郡朝日村大字野新田字村表に所在する。調査期間は平成6年5月10日から同年11月18日までの延べ118日間である。調査面積は11,850㎡である。本遺跡は、昭和46、47年に一部の調査が行われた後、現場整備が行われ壊滅したと考えられてきたが、広範囲な遺跡の中には良好な状態で保存されていた地区があり、今回の調査に至った。その結果、縄文時代中期中葉の集落跡と、縄文土器を主体にした遺物が整理箱にして404箱出土した。
- 検出された遺物は、竪穴住居跡59棟、土壌139基、柱穴510基、集石遺構9基を数える。A区には良好な遺物包含層が残っており、多量の土器と竪穴住居跡が検出された。一方、B区は削平が著しく、竪穴住居跡も半分以上削り取られている状態で、遺物の出土もほとんど見られなかった。したがってB区の竪穴住居跡の所属時期については、積極的な考察を加えられないのが現状である。また昭和46、47年の調査で検出された複式炉ともなう竪穴住居跡も見られず、当該期の遺物もきわめて少ない出土にとどまった。
- 竪穴住居跡は、径5m前後の円形もしくは楕円形のもが主体である。単体で検出した例は少なく、多くが4～5棟様切り合う状況で検出された。切り合いによる新旧関係は第V章で述べた通りである。これらの住居跡は、出土遺物から大木8a式期、大木8b式期さらには大木9式期にわたる連続した時間に営まれてきたものと考えられる。特に大木8b式期の土器群の出土が、他の時期の土器群をはるかにしのぐ量であることから、本調査区の主体をなす時期であることを物語る。一方、わずかではあるが大木7a式期の土器片が確認されたことは、隣接する地区に当該期の集落の存在を示唆するものと考えられる。
- 炉跡の検出は5基であった。礫が抜き取られているものがほとんどであるが、すべて石囲炉と考えられる。形態は、馬蹄形となるもの、方形になるもの2種類が認められる。かつて検出された複式炉は、今回の調査では確認できなかった。住居跡の検出数に比べ、炉跡の検出数がきわめて少ない状況にある。5基の炉跡が検出されたA区においては、住居内あるいは周辺に多量の礫が散在しており、中には火熱を受けた状態のものも少なからず認められた。また焼土や炭化物も見られることから、何らかの要因があって取り外されたことが考えられる。B区においては、1基の炉跡も焼土の痕跡も認められない状態である。これは屋外においても同様である。わずかに火を使用した痕跡を求めるとすれば、住居跡の覆土内に炭化物を含むこととどまる。遺物の機能的な違いによるものなのか、遺存状況が悪いことから削平等による2次的な要因によるものなのかは不明である。
- 集石遺構として登録した9基は、すべてA区南東寄り検出された。すぐそばで焼

重にも切り合った竪穴住居跡が迫っているが、当区域には竪穴住居跡は検出されない。遺構が確認できる面の土質も、竪穴住居跡が検出される地区(褐色、細砂)と違い、黒色のシルト質である。下層は粗砂から礫層となる。このことから、土質の違いを考慮した空間利用の可能性も考えられる。

- 6 土塊は139基検出されたが、径が2 mを超える大型のものは非常に少なく、多くは径1 m程のものである。深さも1 mを超えるものは見られない。分布状態もまとまりを欠くものである。
- 7 今回の調査で出土した土器は、前述したように大木8 b 式期に所属するものが主体をしめる。施文のありかたから、大木8 b 式の中でも古い様相を示すものと、新しい様相を示すものが認められた。古い様相が見られるものには、大木8a 式の新しい様相を示す特徴を色濃く受け継いでいる。さらには新古の移行期とも捉えられるような中間形の存在も考えられる。また、大木9 式期の土器では、古い様相を示すものが多く見受けられる。

本報告では残念ながら、竪穴住居跡間の切り合いから考えられる土器の様相や、一括性の高い土器群の抽出など詳細な分類までには至らなかった。しかし、この時期の土器、特に庄内地方においては比較的まとまった資料であることから、大木8 a 式から大木9 式までの土器変遷を考える上で良好な資料が得られたと考えられる。

- 8 石器に関しては、磨石、凹石等の出土数に比べ、石鏃、尖頭器等の狩猟具が少なく、当該期の集落の多くに見られる傾向に沿ったものである。石材は頁岩が大半を占め、そのほとんどは良質のものである。
- 9 A 区からは、長さ50 cm 前後の柱状の礫が多量に見つかっている。明瞭な加工痕は認められず、石製品とは位置付けられないものである。出土地点は、住居跡内からが最も多いものの、住居跡内に限らず見受けられた。これらの礫の用途は不明であるが、鶴岡市岡山遺跡では前期から中期にかけての竪穴住居跡に立石遺構が伴っている例が報告されており、その類例としての指摘を受けた。しかし今回の調査においては、これらの礫が明確に竪穴住居跡に伴う立石遺構としては確認されなかった。

参 考 文 献

- | | |
|-------------|---|
| 佐々木七郎 | 1973年「越中山遺跡の研究・序説、野新田遺跡」
朝日村教育委員会 |
| 佐藤 鎮雄・野尻 侃他 | 1975年「岡山遺跡発掘調査報告書」
山形県教育委員会 |
| 黒坂 雅人 | 1994年「西ノ前遺跡発掘調査報告書」
財団法人山形県埋蔵文化財センター |

付 編

野新田遺跡(朝日村大字中野新田字村表15に所在)は、赤川右岸に発達した段丘の中心に営まれた縄文時代中期の集落跡であり、竪穴住居跡や集石遺構、埋設土器などが認められている。

今回の自然科学調査では、8号住居跡で認められた埋設土器の土壌分析により、内容物の推定を試みる。居住跡内より出土した埋塞については呪術の意味を持った胎盤収納あるいは幼児埋葬施設の可能性が指摘されている(木下, 1981)。今回の埋設土器についても同様な用途が予想される。また、集石遺構の用途については墓塚の可能性が指摘されており、この見解についても土壌分析により検証する。さらに、EL72炉跡についても食料とした動物の痕跡の有無を調べる。

ところで、わが国のような気候が温暖多湿で、土壌の排水性が良好でかつ酸性の強い地域では土壌中の有機物が分解されやすく、可溶性の成分は土壌中を下方へ流亡することが多い。特に、火山灰起源の土壌が分布する台地上の土壌ではこのような環境が多く、本遺跡土壌もその可能性が高い。そこで、土壌を対象として遺体埋葬の可能性を検討する場合には、人や動物の骨に多量に含まれ、土壌中で比較的拡散しにくいリン酸量を測定し、局所的な遺棄状態から人体の痕跡を定性的に推定するリン分析を用いることが多い(板上, 1984; 竹迫, 1981-1985; 竹迫ほか, 1980)。今回も、埋設土器や集石遺構の土壌を対象とする土壌分析としてリン分析を選択し、骨の主成分であるカルシウムの含量を測定するカルシウム分析を併用することとした。

1 試料

分析対象は、埋設土器、集石遺構、炉跡、土坑より採取された34点である。試料の採取地点や層位は、表1に示した。また、対照試料として遺構覆土と同質な土壌と考えられる26-33Gと35-20GのVI層から採取された2点を選択した。

分析に際しては、これら36点全点を分析試料とした。

2 分析方法

分析は、土壌標準分析・測定法委員会編(1986)、土壌養分測定法委員会編(1981)、京都大学農学部農芸化学教室編(1957)などを参考として、以下の操作行程で行った。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.0mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105℃、5時間)により測定する。風乾細土試料2.00gをケルゲールフラスコに埒とり、はじめに硝酸(HNO_3)5mℓを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO_4)10mℓを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mℓに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P_2O_5)濃度を測定する。別に、ろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。

これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン含量 (P_2O_5 mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

3 分析結果

リン・カルシウム分析の結果を表1に示す。

1) 対照試料

リン酸含量は、26-33GのIV層が1.91 P_2O_5 mg/g、35-20GのIV層が2.13 P_2O_5 mg/gである。一方、カルシウム含量は、26-33GのIV層が0.36CaOmg/g、35-20GのIV層が0.33CaOmg/gを示す。

2) 埋設土器

調査した3個体の中では、EU26のリン酸含量とカルシウム含量が高く、対照試料と比較しても高い。また、EU25のリン酸含量が対照試料よりも、やや高い値を示す。ST80は、リン酸含量が対照試料とほぼ同じ値、カルシウム含量が対照試料よりやや低い値を示す。

3) 紫石遣構

調査した8基のうち、SM40リン酸含量が対照試料よりも高く、他は対照試料とほぼ同様な含量である。カルシウム含量は、各遣構試料で対照試料よりも高いあるいはほぼ同量である。

4) 炉跡

EL72内土のリン酸含量は4.20 P_2O_5 mg/gであり、対照試料より高い値を示す。一方、カルシウム含量は0.27CaOmg/gであり、対照試料とほぼ同じ値を示す。

5) 土坑

調査した3基のうち、SK134のリン酸含量が対照試料よりも高く、他の土坑ではほぼ同様な値である。一方、カルシウム含量はSK68で対照試料と比較してかなり高く、他の土坑でもやや高い。

表1 リン・カルシウム分析結果

試料名	層位	リン酸含量 P_2O_5 mg/g	カルシウム含量 CaOmg/g	土色・土性
対照試料 26-33G 35-20G	VI層	1.91	0.36	2.5Y 3 / 3.5暗オリーブ褐~オリーブ褐・SL 2.5Y 3 / 3暗オリーブ褐・SL~L
	VII層	2.13	0.36	
EU25 土器内土	上	2.58	0.31	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
	中	2.65	0.26	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
	下	2.80	0.32	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
ST80 土器内土	上	3.07	0.52	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
	中	3.11	0.28	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
	下	3.10	0.44	10YR2.5 / 2黒褐・SL~L
ST80 RP92土器 内土	上	1.86	0.18	2.5Y 4 / 4オリーブ褐・SL~L
	中	2.09	0.24	2.5Y 4 / 4オリーブ褐・SL~L
	下	2.15	0.29	2.5Y 4 / 4オリーブ褐・SL~L
SM39 紫石	F 1	2.30	0.83	2.5Y 3 / 1.5黒褐・SL~L
	F 2	2.27	0.81	2.5Y 3 / 1黒褐・SL~L
	F 3	2.35	0.60	2.5Y 3 / 1黒褐・SL~L
SM40 紫石	F 1	2.35	0.25	10YR 3 / 2黒褐・SL~L
	F 2	3.37	0.33	10YR 3 / 2黒褐・SL~L
	F 3	3.21	0.46	10YR 3 / 2黒褐・SL
SM41 紫石	F 1	2.56	0.32	10YR 2 / 2黒褐・SL
	F 2	2.48	0.58	10YR 3 / 3黒褐・SL
SM42 紫石	F 1	2.21	0.40	2.5Y 3 / 2黒褐・SL~L
	F 2	2.17	0.54	2.5Y 3 / 3暗オリーブ褐・SL
SM43 紫石	F 1	2.00	0.66	2.5Y 3 / 1.5黒褐・L
	F 2	2.26	0.54	2.5Y 3 / 1.5黒褐・L
	F 3	2.34	0.43	2.5Y 3 / 3暗オリーブ褐・SL
SM71 紫石	F 1	2.09	0.63	2.5Y 3 / 1.5黒褐・L
	F 2	2.14	0.56	10YR 3 / 2黒褐・L
SM76 紫石		3.11	0.85	2.5Y 3 / 1.5黒褐・SL~L
SM77 紫石		2.21	0.76	2.5Y 5 / 1.5黒褐・L
EL72 炉内土	F 1	4.20	0.27	2.5Y 3 / 2黒褐・SL~L
SK45 土坑内土	F 1	2.00	0.83	2.5Y 3 / 1.5黒褐・L
	F 2	1.75	0.87	2.5Y 2.5 / 1黒~黒褐・L
	F 3	1.92	0.77	2.5Y 3 / 1黒褐・L
SK68 土坑内土	F 1	2.22	2.08	2.5Y 2 / 1黒褐・L 炭化材混じる
	F 2	2.85	1.05	2.5Y 3 / 2黒褐・SL~L
SK134 土坑内土	F 1	3.54	0.54	2.5Y 3 / 1黒褐・L
	F 2	2.97	0.32	2.5Y 3 / 3暗オリーブ褐・SL

注 (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修、1967）による。

(2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編、1984）の野外土性の判定法による。

SL…砂強土（砂の感じが強く、ねばり気はわずしかない。）

L…壤土（ある程度砂を感じ、ねばり気もある。砂と粘土が同じくらいに感じられる。）

4 考 察

土壌中に本来含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量についての報告書例 (Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991) によれば、天然賦存量の上限は約 $3.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 程度と推定され、また、人為的な影響を受けた既耕地では $5.5\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ (黒ボク土の平均値、川崎ほか, 1991) という報告例がある。これまでの当社における分析調査では、 $6.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 前後の値を越える場合には骨片が混在していることもあり、人骨によりリン酸富化であることが明らかに認められている。一方、カルシウム含量の天然賦存量は普通 $1\sim 50\text{CaOmg/g}$ (藤貫, 1979) とされるが、その範囲はリン酸よりも明らかに大きい。したがって、これを著しく越える数値が得られた場合には、カルシウムの富化を確実にできる。

対照試料としたIV層のリン酸含量およびカルシウム含量は、天然賦存量の含量範囲に入る。また、遺跡の立地条件がリン酸やカルシウムの残留しにくいものであり、長年に渡る成分の流失によりリン酸やカルシウムの濃度が低下することが考えられる。以下の考察では、これらの点を考慮して進める。

埋設土器については、いずれも各成分の天然賦存量の含量範囲にある。しかし、EU25とEU26では対照試料と比較してリン酸含量あるいはカルシウム含量が高かった。これより、EU25とEU26については各成分が富化していたことが考えられ、土器内に遺体が埋納されていた可能性を示唆される。ST80は、各成分の富化が認められず、遺体の埋納などは考えにくい。

集石遺構は、調査した8基でいずれもカルシウム含量が対照試料と比較して高いあるいはほぼ同量であった。カルシウムの残留しにくい環境と考えられる中で、今回の含量はカルシウムの富化があったことを示唆する。また、リン酸含量も対照試料と比較して低いものではなかった。これらの点から、集石遺構の下位に遺体が埋められていた可能性が考えられる。

EL72の炉内土では、リン酸含量が対照知り用より高い値を示した。炉内土が炉が使用されていた当時の土壌であれば、炉が使用された際にリン酸が土壌に染み込んだことが想定される。この点は、動物質の食物を調理した可能性を示唆する。

土坑では、調査した3基で各成分が天然賦存量の含量範囲内にあるが、対照試料と比較すると高い試料が多い。特に、SK68はカルシウム含量がかなり高く、リン酸含量も低くない。これらの点から、SK68に遺体が埋納されている可能性が示唆され、他の土坑のなかには遺体が納められた可能性が否定できない。

以上のように、集落内に認められた埋設土器、集石遺構、土坑のなかには遺体が納められた可能性が示唆されるものがあり、炉跡では動物質の痕跡が残留している可能性が指摘できた。当時の生活を考える上で、今後も同様な遺構を対象とした分析調査の実施が望まれる。

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信 (1991) 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積量の再生循環利用技術の開発』, p.28-36。
- Bowen, H. J. M. (1983)『環境無機化学—元素の循環と生化学—』。浅見輝男・茅野充明訳, 297p., 博友社 [Bowen, H. J. M. (1979) Environmental Chemistry of Elements]。
- Bolt, G. H.・Bruggenwert, M. G. M. (1980)『土壌の化学』。岩田進午・三輪春太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 309p., 学会出版センター [Bolt, G. H. and Bruggenwert, M. G. M. (1976) SOIL CHEMISTRY—RY], p. 235-236。
- 土壌標準分析・測定法委員会編 (1986)『土壌標準分析・測定法』。354p., 博友社。
- 土壌養分測定法委員会編 (1981)『土壌養分分析法』。440p., 葉賢堂。
- 藤貫 正 (1979) カルシウム。地質調査所化学分析法, 50; p. 57-61, 地質調査所。
- 川崎 弘・吉田 澤・井上恒久 (1991) 九州地域の土壌型別蓄積リン形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積量の再生循環利用技術の開発』, 149p. 23-27。
- 木下 忠 (1981)『埋藏—古代の出土習俗』。考古学選書18, 262p., 雄山閣。
- 京都大学農学部農芸化学教室編 (1957)『農芸化学実験書第1巻』。411p., 産業図書。
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967) 新版標準土色帖・ペドロジスト懇談会編 (1984)『土壌調査ハンドブック』。156p., 博友社。
- 坂上寛一 (1984) 小山田No15遺跡・縄文土坑と現代学穴における全リン酸分布の比較。東京都町田市・小山田遺跡群IV, 8p., 小山田遺跡調査会。
- 竹迫 敏 (1981) 11号住居址内埋藏中の土壌リン酸分析。横浜市道高2号線文化財埋藏文化財発掘調査報告:156-158, 横浜市道高2号線文化財埋藏文化財発掘調査会。
- 竹迫 敏 (1985) L地区L壁土層のリン分析結果について。武蔵国分寺跡発掘調査報告書, p. 103-106, 武蔵国分寺跡調査会。
- 竹迫 敏・加藤智郎・坂上寛一・黒部 隆 (1980) 神谷原遺跡への土壌学的アプローチ。神谷原I, p. 412-416, 八王子市神谷原遺跡調査会。

報告書抄録

ふりがな	のしんでんいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	野新田遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	伊藤邦弘・黒坂広英							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301							
発行年月日	西暦 1996年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
野新田	山形県東田川郡 朝日村大字中野新田 字村表	6427	1889	38度 37分 0秒	139度	19940510～ 19941118	11850	東北横新自 動車道酒田 線建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
野新田	集落跡	縄文時代	壺穴住居 59棟 土壇 139基 柱穴 510基 集石 9基	縄文土器、土製品、石器、石製品	赤川の段丘上に立地する。昭和46・47年に一部調査され、複式炉等が発見されている。大木8b式を中心とした土器が多量に出土した。縄文時代の遺跡としては、庄内地方では数少ない調査例である。			

図 版



遺跡遠景 (南東から)



調査前状況 (南東から)

図版 2



A区遺構検出状況（南から）



A区遺構検出状況（南から）

図版 3



A区完掘状況（南から）



A区完掘状況（南から）

図版 4



B区遺構検出状況（北西から）



B区遺構検出状況（北から）

図版 5



B区完掘状況（東から）



B区完掘状況（北から）

図版 6



A区調査風景 (南から)



B区調査風景 (北から)

図版 7



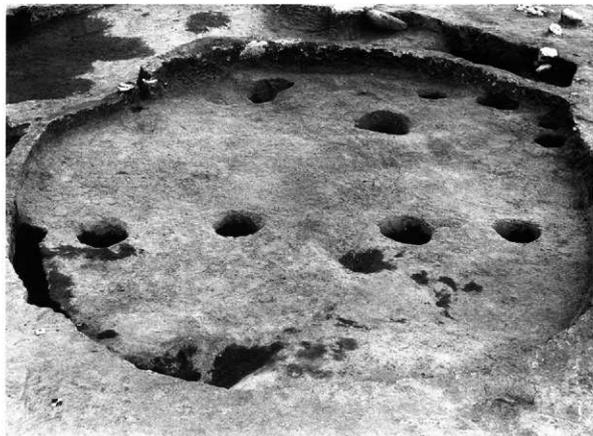
ST 1 完掘状況 (南から)



ST 2 完掘状況 (南東から)



ST 9 完掘状況 (北西から)



ST 15 完掘状況 (南から)



ST 61~63 完掘状況 (北から)



ST 81 完掘状況 (東から)

図版10

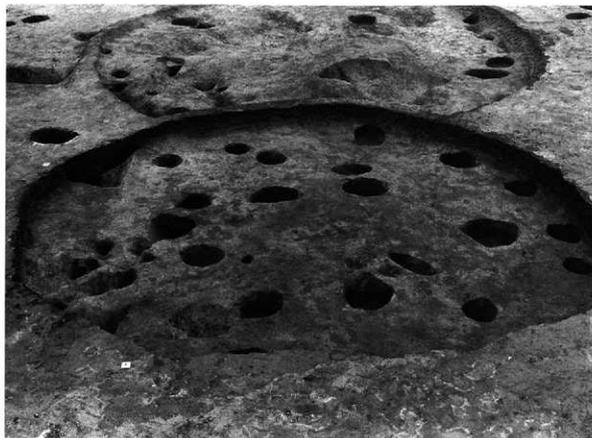


ST82完掘状況 (南から)



ST83完掘状況 (東から)

図版11



ST85完掘状況 (北東から)



ST85~87完掘状況 (南西から)



ST88~91完掘状況 (西から)



ST93完掘状況 (南から)



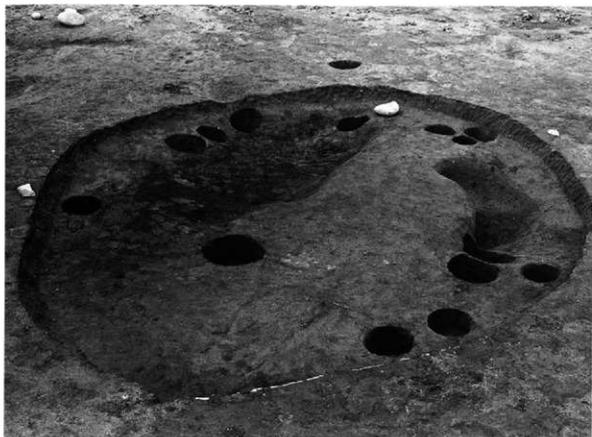
ST94完掘状況 (南から)



ST95完掘状況 (北東から)



ST100完掘状況 (南西から)



ST101完掘状況 (西から)



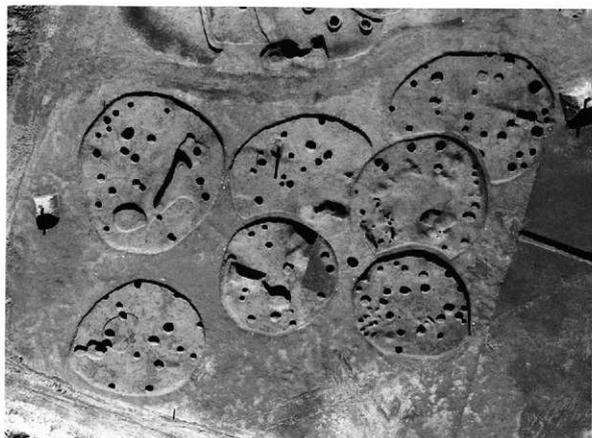
ST103完掘状況 (南西から)



ST105完掘状況（南西から）



ST107完掘状況（西から）



ST81~87空中写真



ST94~97・99・100空中写真



SK29土層断面 (南から)



SK31完掘状況 (南から)



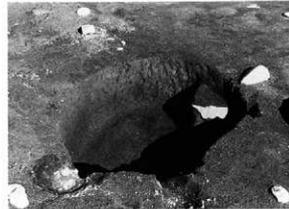
SK130土層断面 (南東から)



SK131土層断面 (南西から)



SK30完掘状況 (南から)



SK117完掘状況 (南西から)



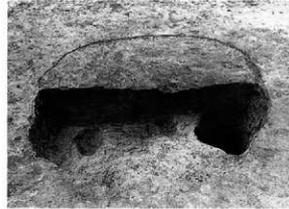
SK130完掘状況 (南東から)



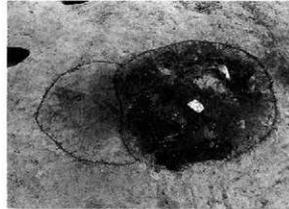
SK131完掘状況 (南西から)



SK119完掘状況 (南西から)



SK132土層断面 (南東から)



SK133・134検出状況 (西から)



SK133・134、RP108出土状況 (西から)



SK129土層断面 (南西から)



SK132完掘状況 (南東から)



SK133・134土層断面 (南西から)



SK133・134完掘状況 (西から)

SM39



検出状況 (南から)

SM40



検出状況 (南から)

SM41



検出状況 (南から)

SM42



検出状況 (南から)



土層断面 (南から)



土層断面 (南から)



土層断面 (南から)



土層断面 (南から)



完掘状況 (南から)



完掘状況 (南から)



完掘状況 (南から)



完掘状況 (南から)



SM43検出状況 (南から)



SM43完掘状況 (南から)



SM43土層断面 (南から)



SM71検出状況 (南から)



SM71空中写真



EL46 (北から)



EL72完掘状況 (西から)



EL47 (北から)



EL72完掘状況 (東から)



調査説明会風景



調査区空中写真(南から)



調査区空中写真(北東から)



調査区空中写真(合成)



RP19出土状況（北から）



RP24~26出土状況（北西から）



RP30出土状況（南から）



RP31出土状況（南から）



RP49出土状況（南から）



RP58出土状況（西から）



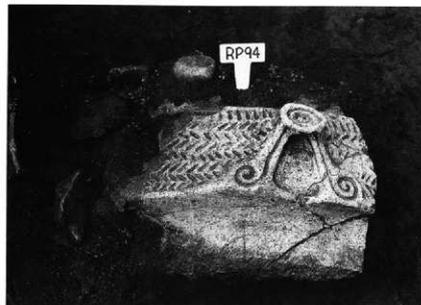
RP66出土状況（南から）



RP70出土状況（南から）



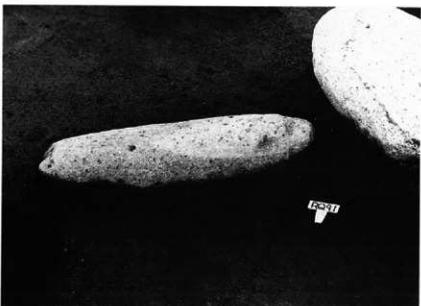
RP93出土状況（西から）



RP94出土状況（北から）



RP63・64出土状況（南から）



RP91出土状況（東から）

図版30



EU25半截状況（南から）



EU26半截状況（南から）



RP92出土状況（西から）

図版31



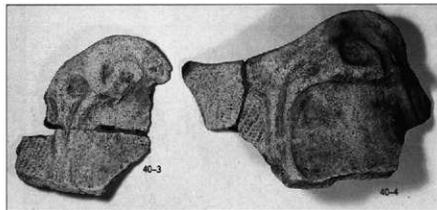
縄文土器 1



40-1



40-2

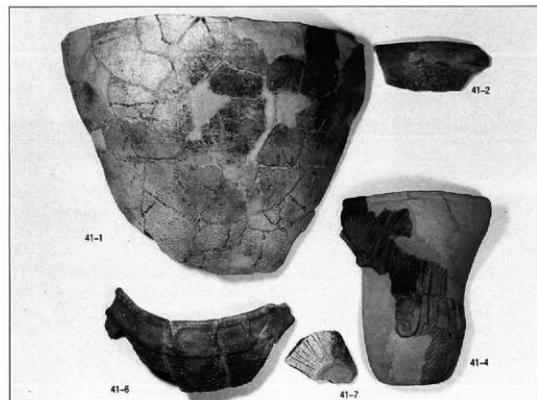


40-3

40-4



41-3



41-1

41-2

41-4

41-6

41-7

縄文土器 2



41-5



42-3



42-4



42-5



42-2



42-6



43-1

縄文土器 3



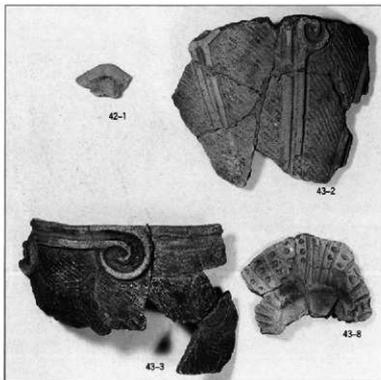
43-4



43-5



43-6



42-1

43-2

43-8

43-3



43-9

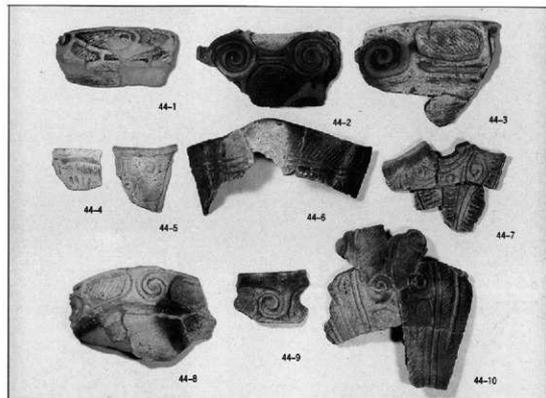


44-11



43-7

縄文土器 4



44-1

44-2

44-3

44-4

44-5

44-6

44-7

44-8

44-9

44-10



45-2



45-3



45-1



45-4 縄文土器 5



46-1



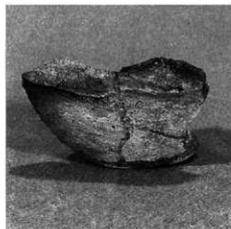
46-2



46-5



46-6



46-8



46-3



46-10



46-11



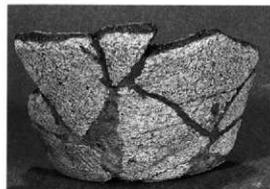
47-3



47-6

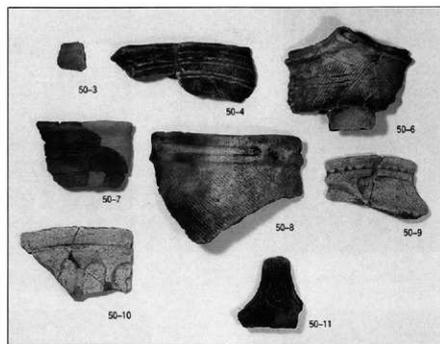


縄文土器 8



縄文土器 9

图版40



51-1



51-2



51-4



51-7

縄文土器10

图版41



51-8



52-1



52-3



52-2



52-4

縄文土器11



53-2



53-1



54-3



54-1



54-5



54-7 縄文土器12



54-6



55-2



55-1



55-3



55-3



56-1 縄文土器13

图版44



56-3



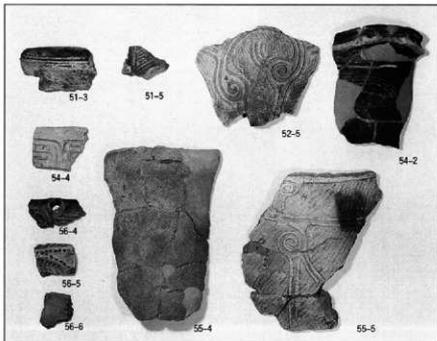
57-1



56-7



59-4



51-3

51-5

52-6

54-2

54-4

56-4

55-5

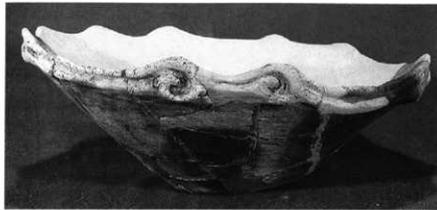
56-6

55-4

55-5

縄文土器14

图版45



57-2



63-5



58-2



64-6



64-10



63-8

縄文土器15



67-2

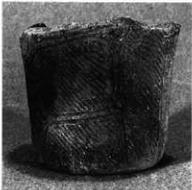
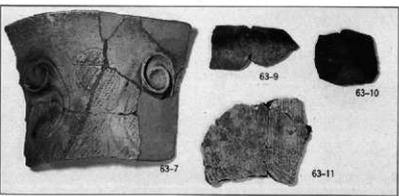
71-6

76-8

59-3

縄文土器16

64-3



58-1

58-2

63-7

63-9

63-10

63-11

59-5

61-2

65-3

縄文土器17



60-3



60-4



61-3



76-7



76-8



61-1



76-3



80-11



62-9



64-5



64-12



65-1



69-5



69-4



88-4



68-1



66-6



66-7



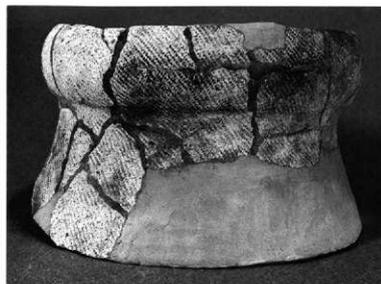
66-5 縄文土器20



88-3



73-1



68-2



67-3



75-2



67-1

縄文土器21



71-1



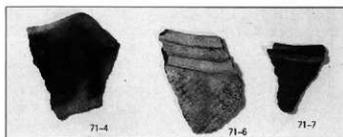
71-2



71-3



71-4



71-4

71-6

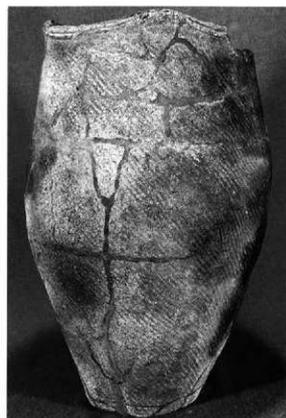
71-7



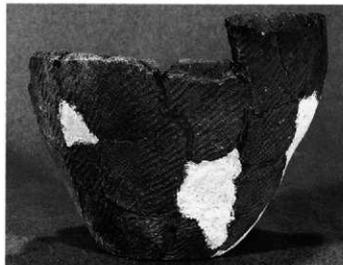
70-8 縄文土器22



72-1



76-1



73-3



80-12



74-4

74-5

74-7

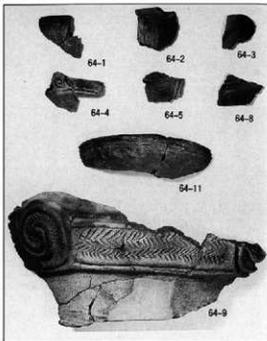


74-8

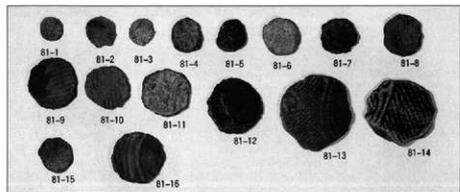
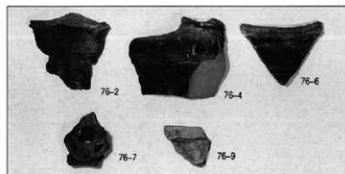
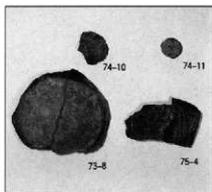
74-9



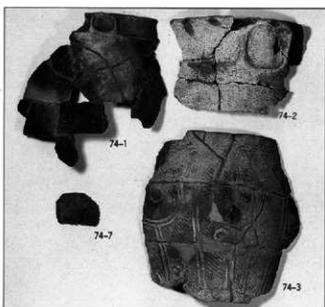
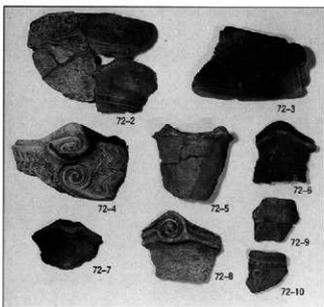
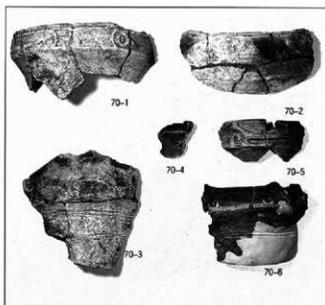
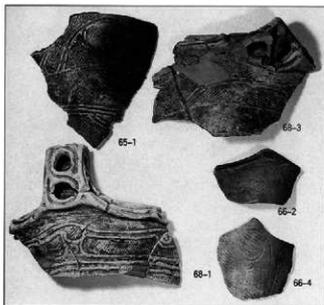
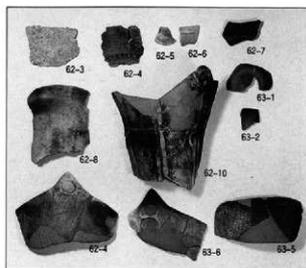
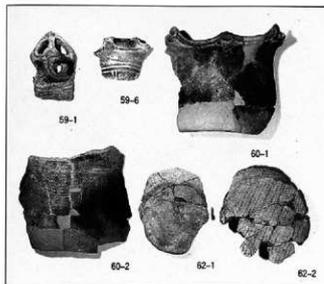
75-1



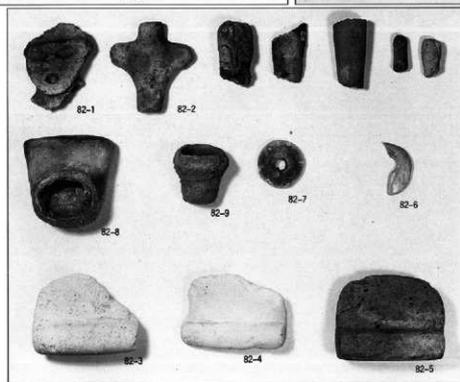
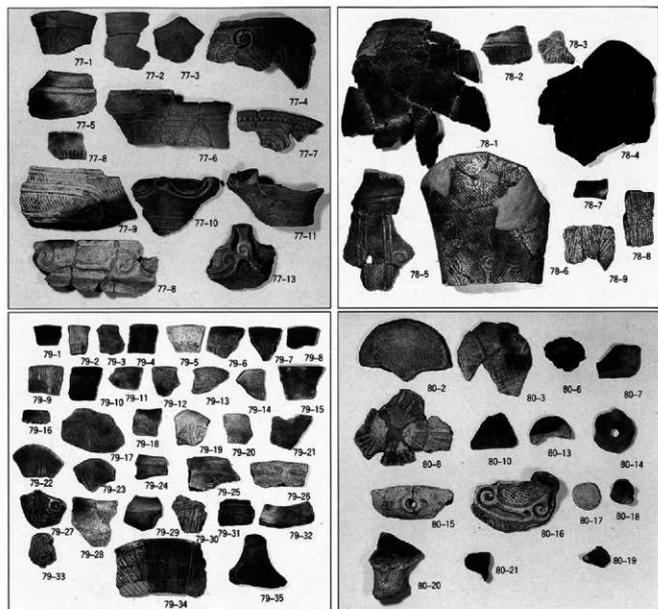
75-5



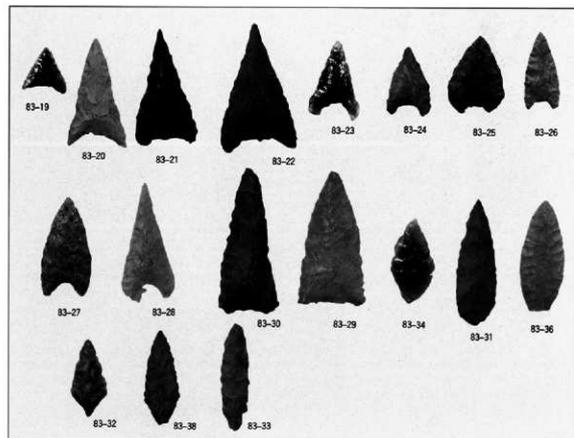
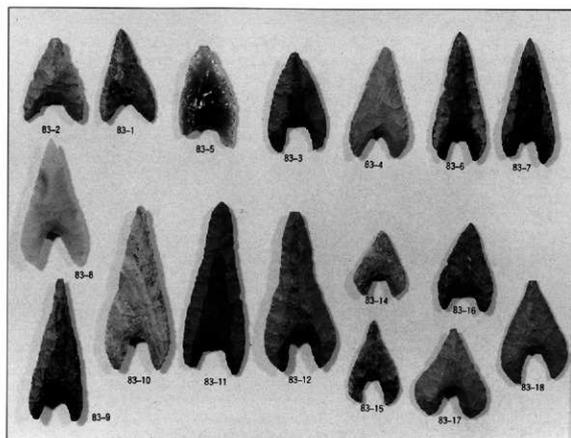
縄文土器24・円盤状土製品

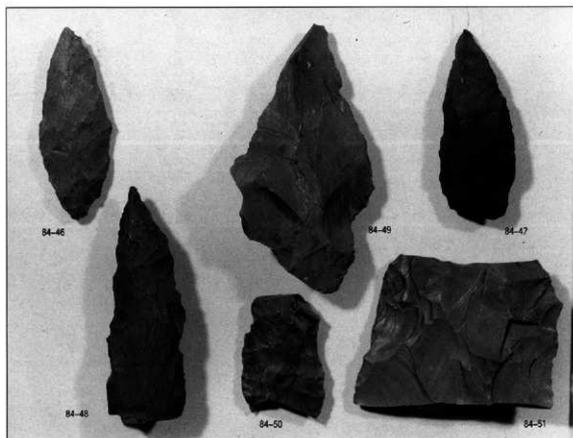
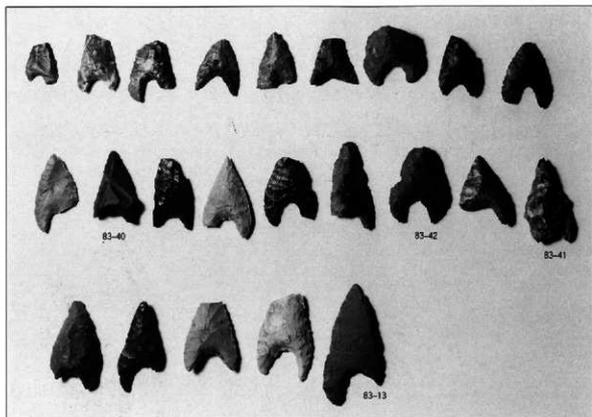


縄文土器25

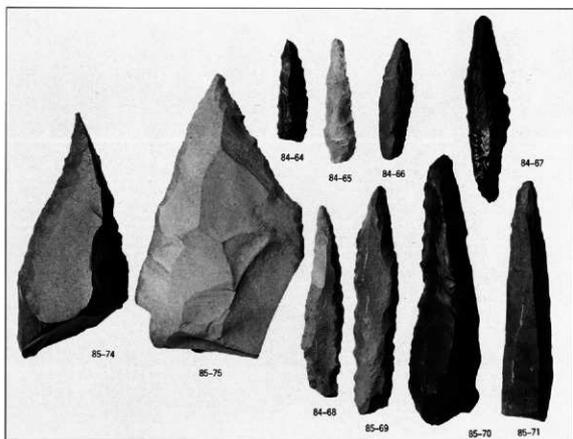
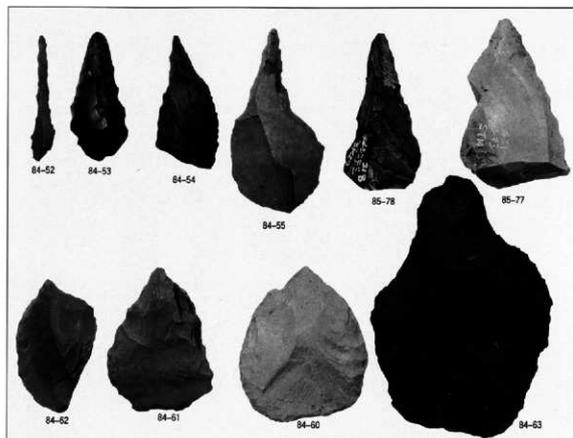


縄文土器・土偶
・土製品・石製品

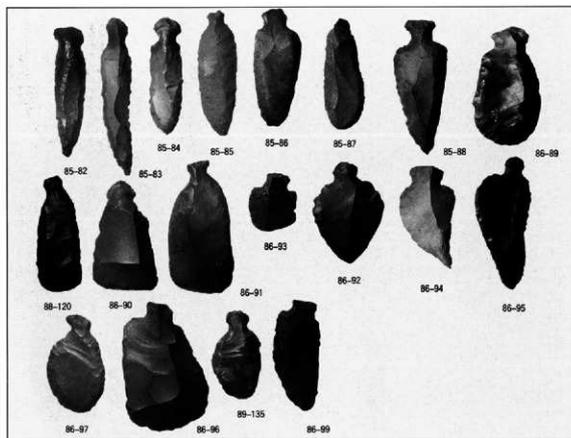
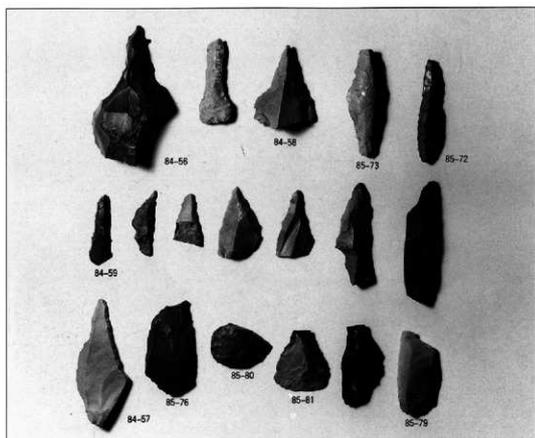




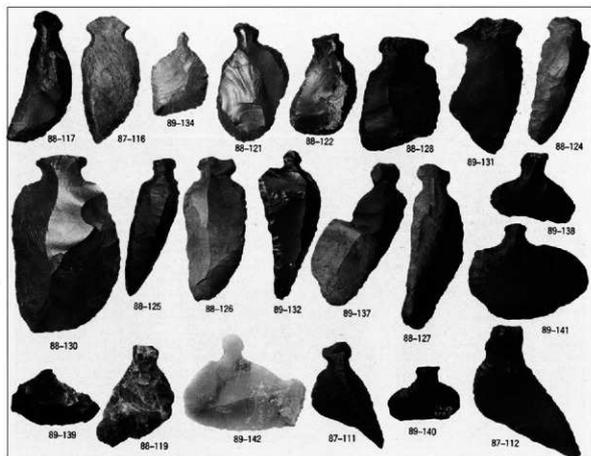
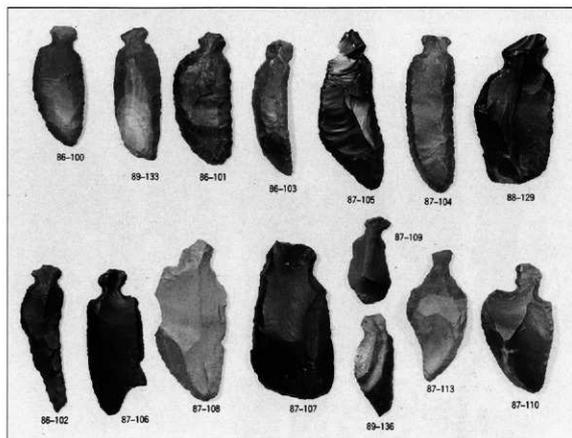
石鏃 2・尖頭器



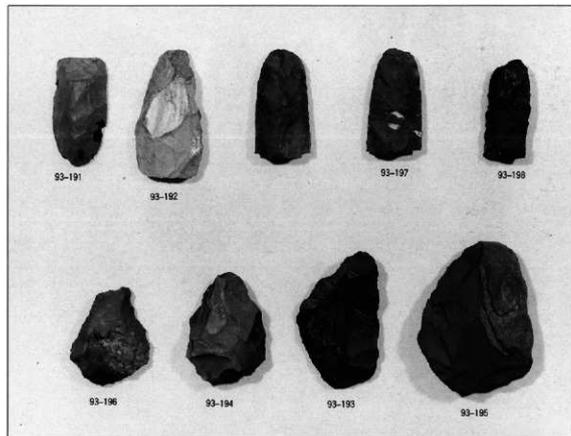
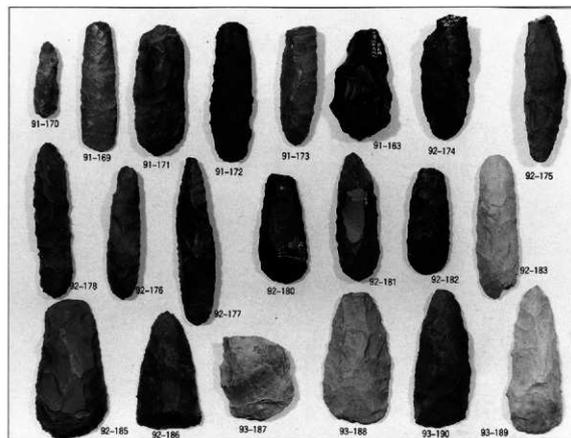
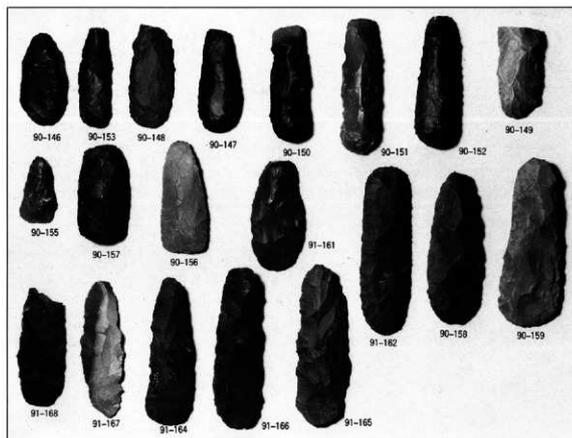
石鏃 1

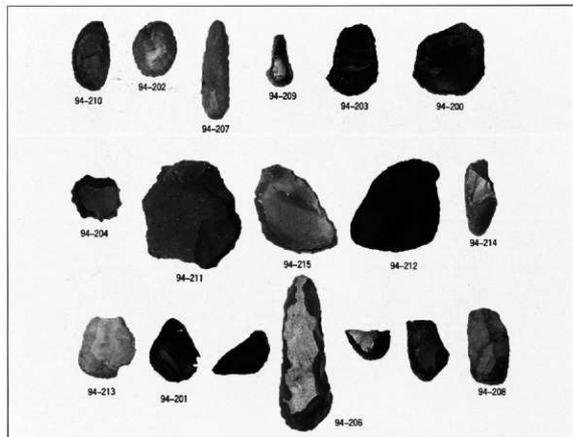
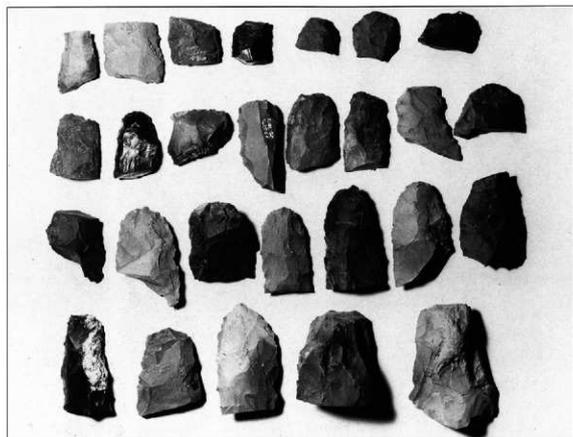


石鏃 2・石匙 1

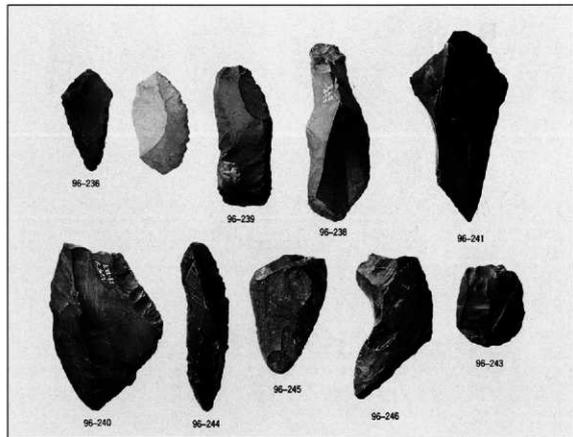
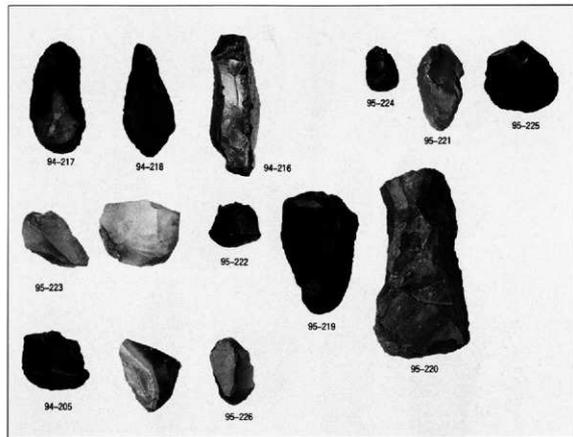


石匙 2

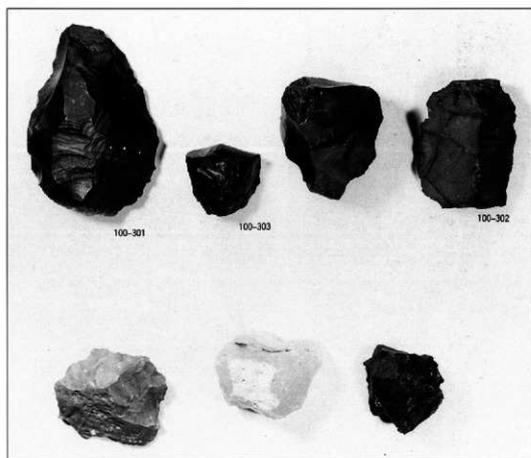
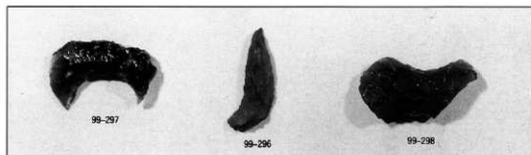
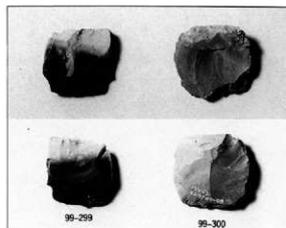
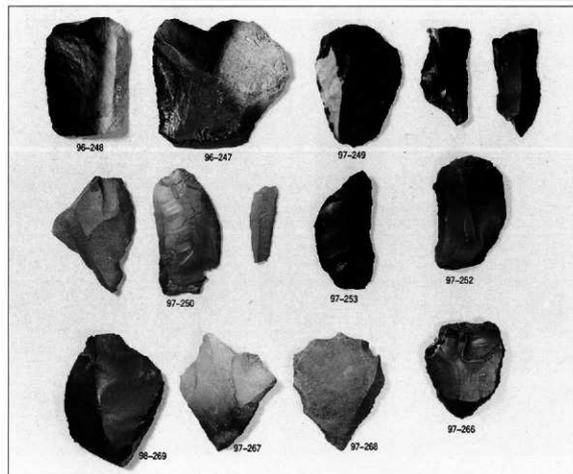
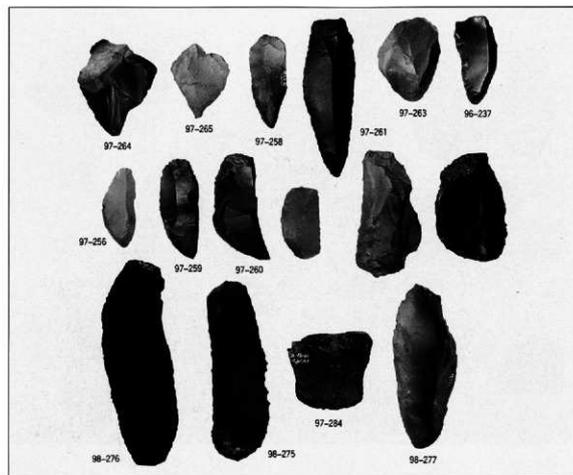


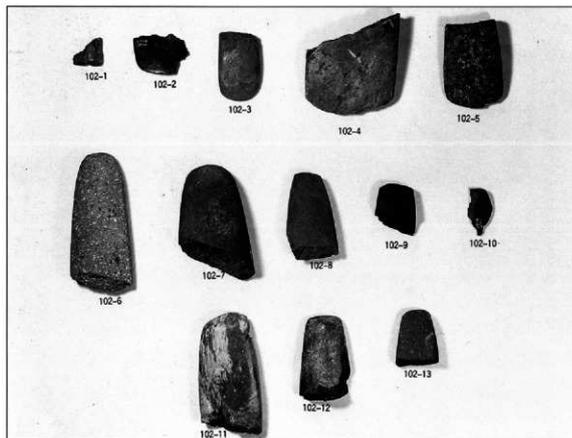
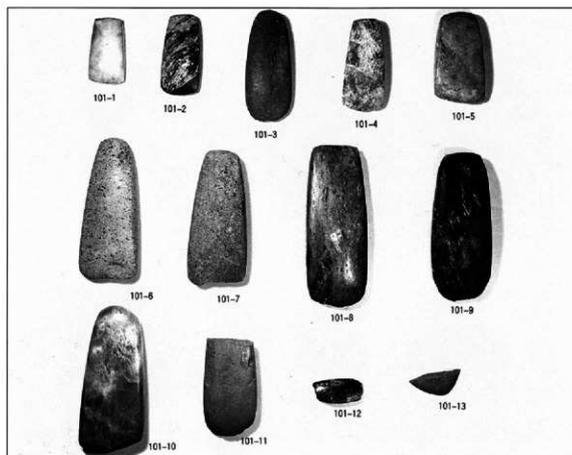


石筴 3・掻器 1

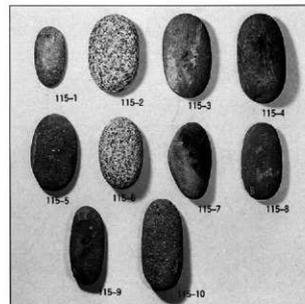
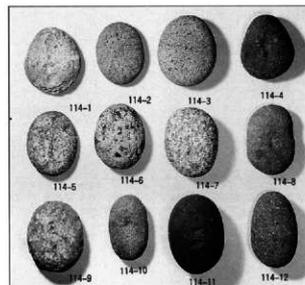
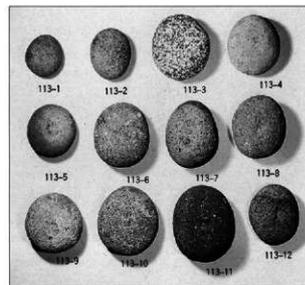
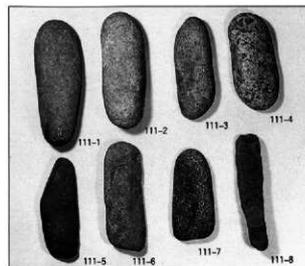


掻器 2・削器 1

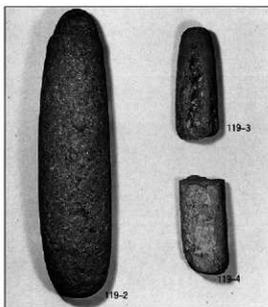
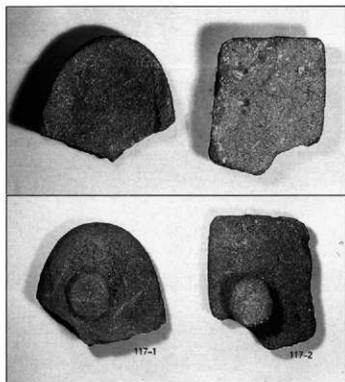
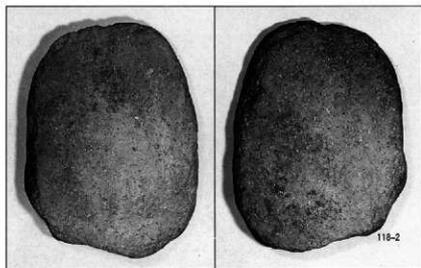
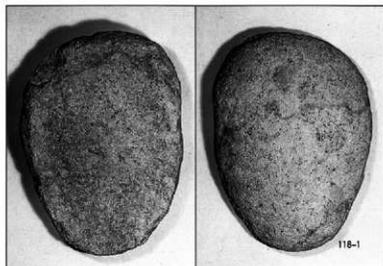




磨製石斧



磨石・凹石



石皿・石棒

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第40集

野新田遺跡発掘調査報告書

1996年9月30日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話 0236-72-5301
印刷 鶴大風印刷